



Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.4 ガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-3670-10
2007 年 11 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	<i>Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.4 Guide</i> Part No: 819-7991-10 Revision A
-----	---

目次

- はじめに xxiii
- 1. Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT の概要 1
 - ALOM CMT の機能 1
 - ALOM CMT の監視対象 2
 - ALOM CMT の使用 3
 - 障害およびエラー関連の用語 4
 - faulty 状態 4
 - failed 状態 5
 - プラットフォーム固有の情報 5
- 2. セキュリティーガイドライン 7
 - システムコントローラのセキュリティー保護 7
 - 遠隔接続のタイプの選択 9
 - Secure Shell の有効化 9
 - SSH を有効にする手順 10
 - SSH によってサポートされない機能 10
 - SSH ホスト鍵の変更 11
 - Solaris オペレーティングシステムのセキュリティー 11
- 3. ALOM CMT の構成 13

ALOM CMT の構成手順	13
ALOM CMT の構成計画	14
システムコントローラの通信ポートの選択	14
シリアル管理ポート	15
▼ シリアルポートに接続する	15
ネットワーク管理 (Ethernet) ポート	16
デフォルトの DHCP 接続	16
クライアント識別子 (clientid)	17
デフォルトパスワード	17
出荷時の新しいシステムで DHCP を使用するための手順	18
構成ワークシート	19
構成変数ワークシート	20
関連情報	21
ネットワークの構成	21
DHCP を使用したネットワークの構成	21
手動でのネットワークの構成	21
電子メールによる警告の構成	22
ALOM CMT の設定	22
ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ	23
関連情報	23
4. 一般的な作業	25
ALOM CMT への接続	26
ALOM CMT アカウントへのログイン	26
▼ ALOM CMT にログインする	27
関連情報	27
ALOM CMT の再起動	28
▼ ALOM CMT を再起動する	28
システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え	28

▼ システムコンソールと ALOM CMT を切り替える	28
電源投入時のシステムコンソール出力	29
ALOM CMT のバージョンの表示	29
▼ ALOM CMT のバージョンを表示する	29
ロケータ LED の制御	29
▼ ロケータ LED を制御する	29
ホストサーバーの電源投入および電源切断	30
▼ ホストサーバーの電源を投入および切断する	30
ホストサーバーのリセット	30
▼ ホストサーバーをリセットする	30
サーバーの環境情報の表示	31
▼ 環境情報を表示する	31
ALOM CMT 診断パラメータの再構成	32
▼ <code>setupsc</code> スクリプトを実行する	32
Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定	33
▼ ネットワークインタフェース変数を構成する	34
▼ ALOM CMT を再起動する	34
<code>setsc</code> コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定	35
ALOM CMT ユーザーアカウントの追加	35
▼ ALOM CMT ユーザーアカウントを追加する	36
▼ ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示する	37
ALOM CMT ユーザーアカウントの削除	37
▼ <code>sc></code> プロンプトから ALOM CMT ユーザーアカウントを削除する	38
アカウントのパスワードの変更	38
▼ 自分の ALOM CMT パスワードを変更する	38
▼ 別のユーザーの ALOM CMT パスワードを変更する	39
警告メッセージの送受信	39
▼ 電子メールによる警告を設定する	39

ALOM CMT からの警告の受信	40
5. ALOM CMT の障害管理作業	41
障害情報の原因	41
障害管理のためのナレッジ記事の入手	42
▼ 適切なナレッジ記事を入手する	42
6. Simple Network Management Protocol (SNMP) の使用	43
SNMP の概要	43
SNMP の動作	43
SNMP 管理情報ベースファイル	44
MIB の統合	45
SNMP メッセージ	45
ALOM CMT および SNMP	46
MIB の統合	46
SNMP 環境へのサーバーの追加	46
SNMP トラップの受信の設定	46
7. ALOM CMT コマンドシェルの使用	47
ALOM CMT コマンドシェルの概要	47
コマンドオプションの入力	48
関連情報	48
ALOM CMT シェルコマンド	48
関連情報	52
ALOM CMT シェルコマンドの説明	53
bootmode	53
▼ bootmode コマンドを使用する	53
▼ bootmode 設定を表示する	54
bootmode コマンドオプション	54
関連情報	55

- break 55
 - ▼ break コマンドを使用する 55
 - break コマンドオプション 56
 - 関連情報 56
- clearasrdb 56
 - ▼ clearasrdb コマンドを使用する 56
- clearfault 56
- console 59
 - ▼ console コマンドを使用する 59
 - console コマンドオプション 61
 - 関連情報 61
- consolehistory 61
 - ▼ consolehistory コマンドを使用する 62
 - consolehistory コマンドオプション 62
 - 関連情報 63
- disablecomponent 63
 - ▼ disablecomponent コマンドを使用する 64
- enablecomponent 65
 - ▼ enablecomponent コマンドを使用する 66
- flashupdate 67
 - ▼ flashupdate コマンドを使用する 67
 - flashupdate コマンドオプション 68
 - 関連情報 68
- help 69
 - ▼ help コマンドを使用する 69
 - 関連情報 71
- logout 71
 - ▼ logout コマンドを使用する 71

- 関連情報 71
- password 72
 - ▼ password コマンドを使用する 72
 - パスワードの制限 72
 - 関連情報 73
- powercycle 73
 - ▼ powercycle コマンドを使用する 73
- poweroff 73
 - ▼ poweroff コマンドを使用する 74
 - poweroff コマンドオプション 75
 - 関連情報 75
- poweron 75
 - ▼ poweron コマンドを使用する 75
 - poweron コマンドオプション 76
 - 関連情報 76
- removefru 76
 - ▼ removefru コマンドを使用する 77
 - removefru コマンドオプション 77
- reset 78
 - ▼ reset コマンドを使用する 78
 - reset コマンドオプション 78
 - 関連情報 79
- resetsc 79
 - ▼ resetsc コマンドを使用する 79
 - resetsc コマンドオプション 80
 - 関連情報 80
- restartssh 80
 - ▼ restartssh コマンドを使用する 80

- コマンドオプション 80
- 関連情報 80
- setdate 81
 - ▼ setdate コマンドを使用する 81
 - setdate コマンドオプション 82
 - 関連情報 82
- setdefaults 82
 - ▼ setdefaults コマンドを使用する 83
 - setdefaults コマンドオプション 83
 - 関連情報 84
- setfru 84
 - ▼ setfru コマンドを使用する 84
- setkeyswitch 84
 - ▼ setkeyswitch コマンドを使用する 84
 - setkeyswitch コマンドオプション 85
- setlocator 85
 - ▼ setlocator コマンドを使用する 85
 - setlocator コマンドオプション 86
 - 関連情報 86
- setsc 86
 - ▼ setsc コマンドを使用する 86
 - 関連情報 87
- setupsc 87
 - ▼ setupsc コマンドを使用する 87
 - 関連情報 88
- showcomponent 89
 - ▼ showcomponent コマンドを使用する 89
- showdate 90

- ▼ showdate コマンドを使用する 91
 - 関連情報 91
- showenvironment 91
 - ▼ showenvironment コマンドを使用する 91
 - 関連情報 97
- showfaults 97
 - ▼ showfaults コマンドを使用する 97
- showfru 98
 - showfru コマンドオプション 99
 - ▼ showfru コマンドを使用する 99
 - 関連情報 102
- showhost 102
 - ▼ showhost コマンドを使用する 102
- showkeyswitch 103
 - ▼ showkeyswitch コマンドを使用する 103
- showlocator 103
 - ▼ showlocator コマンドを使用する 104
 - 関連情報 104
- showlogs 104
 - ▼ showlogs コマンドを使用する 105
 - showlogs コマンドオプション 106
 - 関連情報 106
- shownetwork 107
 - ▼ shownetwork コマンドを使用する 107
 - shownetwork コマンドオプション 108
 - 関連情報 108
- showplatform 108
 - ▼ showplatform コマンドを使用する 108

showsc	109
▼ showsc コマンドを使用する	109
showsc コマンドオプション	111
関連情報	111
showusers	112
▼ showusers コマンドを使用する	112
showusers コマンドオプション	112
ssh-keygen	113
▼ ssh-keygen コマンドを使用する	113
ssh-keygen コマンドオプション	113
関連情報	113
useradd	114
▼ useradd コマンドを使用する	114
関連情報	114
userdel	115
▼ userdel コマンドを使用する	115
userdel コマンドオプション	115
関連情報	115
userpassword	116
▼ userpassword コマンドを使用する	116
パスワードの制限	116
関連情報	117
userperm	117
アクセス権レベル	117
▼ userperm コマンドを使用する	118
関連情報	119
usershow	119
▼ usershow コマンドを使用する	120

関連情報	120
8. ALOM CMT 構成変数の使用	121
ALOM CMT 構成変数の概要	121
▼ ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する	121
シリアル管理ポート変数	122
関連情報	122
ネットワークインタフェース変数	123
関連情報	123
ネットワーク管理および通知変数	124
関連情報	124
システムユーザー変数	124
関連情報	125
診断制御変数	125
関連情報	126
構成変数の説明	126
diag_level	126
▼ setsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する	126
▼ setupsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する	127
diag_mode	127
▼ setsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する	127
▼ setupsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する	128
diag_trigger	128
▼ setsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する	128
▼ setupsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する	129
diag_verbosity	129
▼ setsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する	129
▼ setupsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する	130

if_connection	130
▼ setsc コマンドを使用して if-connection 変数を設定する	131
関連情報	131
if_emailalerts	131
▼ setupsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を設定する	132
▼ setsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を変更する	132
if_network	133
▼ setupsc コマンドを使用して if_network 変数を設定する	133
▼ setsc コマンドを使用して if_network 変数を変更する	133
if_snmp	134
▼ setupsc コマンドを使用して if_snmp 変数を設定する	134
▼ setsc コマンドを使用して if_snmp 変数を変更する	135
mgt_mailalert	135
▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を設定する	135
▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を変更する	136
関連情報	137
mgt_mailhost	137
▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を設定する	137
▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を変更する	138
関連情報	138
mgt_snmptraps	139
▼ setupsc コマンドを使用して mgt_snmptraps 変数を設定する	139
▼ setsc コマンドを使用して mgt_snmptraps 変数を変更する	139
関連情報	139
mgt_traphost	140
▼ setupsc コマンドを使用して mgt_traphost 変数を設定する	140
▼ setsc コマンドを使用して mgt_traphost 変数を変更する	141

netsec_dhcp 141
 関連情報 141

netsec_enetaddr 142
 関連情報 142

netsec_ipaddr 142
 関連情報 143

netsec_ipgateway 143
 関連情報 144

netsec_ipnetmask 145
 関連情報 146

sc_backupuserdata 146
 ▼ setsc コマンドを使用して sc_backupuserdata 変数を変更する 146

sc_clieventlevel 147
 関連情報 147

sc_cliprompt 147
 ▼ setsc コマンドを使用して sc_cliprompt 変数を変更する 148
 関連情報 148

sc_clitimeout 149
 関連情報 149

sc_clipasswdecho 150
 関連情報 150

sc_customerinfo 150
 関連情報 151

sc_escapechars 151
 関連情報 152

sc_powerondelay 152
 関連情報 153

sc_powerstatememory 153

関連情報	154
ser_baudrate	154
関連情報	154
ser_data	154
関連情報	155
ser_parity	155
関連情報	155
ser_stopbits	155
関連情報	156
sys_autorestart	156
sys_autorunonerror	156
sys_eventlevel	157
sys_enetaddr	157
関連情報	157
A. 障害追跡	159
ALOM CMT の問題の障害追跡	160
ALOM CMT を使用したサーバーの問題の障害追跡	161
システムコンソールの書き込みロック	162
ALOM CMT シェルエラーメッセージ	162
使用方法に関するエラー	163
一般的なエラー	164
FRU 状態に関する CLI メッセージ	166
関連情報	167
ALOM CMT パスワードの復元	168
▼ ALOM CMT パスワードを復元する	168
B. ALOM CMT イベントメッセージ	171
イベントメッセージの概要	171

イベントの重要度レベル	172
イベントメッセージ	173
起動イベントメッセージ	173
SCC PROM イベントメッセージ	175
システムコントローラの使用状況イベントメッセージ	177
環境監視イベントメッセージ	182
ホスト監視イベントメッセージ	189
索引	191

表目次

表 2-1	プラットフォームセキュリティー構成チェックリスト	8
表 2-2	SSH サーバーの属性	9
表 3-1	ALOM CMT 構成変数の DHCP デフォルトの内容	16
表 3-2	機能別 Ethernet 変数	20
表 7-1	ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト	48
表 7-2	bootmode コマンドオプション	54
表 7-3	break コマンドオプション	56
表 7-4	consolehistory コマンドオプション	62
表 7-5	flashupdate コマンドオプション	68
表 7-6	powercycle コマンドオプション	73
表 7-7	poweroff コマンドオプション	75
表 7-8	poweron コマンドオプション	76
表 7-9	removefru コマンドオプション	77
表 7-10	removefru の FRU 値	77
表 7-11	reset コマンドオプション	78
表 7-12	restartssh コマンドオプション	80
表 7-13	setdate コマンドオプション	82
表 7-14	setdefaults コマンドオプション	83
表 7-15	setkeyswitch コマンドオプション	85
表 7-16	showfru コマンドオプション	99

表 7-17	showlogs コマンドオプション	106
表 7-18	showsc コマンドオプション	111
表 7-19	ssh-keygen コマンドオプション	113
表 7-20	userperm のアクセス権レベル	117
表 8-1	diag_level のタスク	126
表 8-2	diag_mode のタスク	127
表 8-3	diag_trigger のタスク	128
表 8-4	diag_verbosity のタスク	129
表 8-5	if_connection のオプション	130
表 8-6	if_network のタスク	133
表 8-7	if_snmp のタスク	134
表 8-8	mgt_mailalert のタスク	135
表 8-9	mgt_mailhost のタスク	137
表 8-10	mgt_snmptraps のタスク	139
表 8-11	mgt_traphost のタスク	140
表 8-12	netsc_dhcp のタスク	141
表 8-13	netsc_ipaddr のタスク	142
表 8-14	netsc_ipgateway のタスク	143
表 8-15	netsc_ipnetmask のタスク	145
表 8-16	sc_backupuserdata のタスク	146
表 8-17	sc_clieventlevel のタスク	147
表 8-18	sc_cliprompt のタスク	148
表 8-19	sc_clitimeout のタスク	149
表 8-20	sc_clipasswdecho のタスク	150
表 8-21	sc_customerinfo のタスク	151
表 8-22	sc_escapechars のタスク	152
表 8-23	sc_powerondelay のタスク	153
表 8-24	sc_powerstatememory のタスク	154
表 A-1	ALOM CMT の診断	160
表 A-2	使用方法に関するエラーメッセージ	163

表 A-3	一般的なエラーメッセージ	164
表 A-4	FRU エラーメッセージ	166
表 B-1	システムコントローラの起動イベントメッセージ	173
表 B-2	システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ	175
表 B-3	システムコントローラの使用状況イベントメッセージ	177
表 B-4	環境監視イベントメッセージ	182
表 B-5	ホスト監視イベントメッセージ	189

コード例

- コード例 7-1 `help` コマンドの出力例 70
- コード例 7-2 SPARC Enterprise T2000 サーバーの `showenvironment` コマンドの出力例 (電源投入時) 92
- コード例 7-3 SPARC Enterprise T1000 サーバーの `showenvironment` コマンドの出力例 (電源投入時) 94
- コード例 7-4 `showenvironment` コマンドの出力例 (電源切断時) 96
- コード例 7-5 SPARC Enterprise T2000 サーバーで有効な引数を表示する `showfru` コマンドの出力例 99
- コード例 7-6 SPARC Enterprise T1000 サーバーで有効な引数を表示する `showfru` コマンドの出力例 100
- コード例 7-7 有効な引数を使用した `showfru` コマンドの出力例 101
- コード例 7-8 プロキシされたコンポーネントの名前を引数に使用した `showfru` コマンドの出力例 101
- コード例 7-9 `showlogs -p p` コマンドの出力例 105
- コード例 7-10 `showsc` での構成情報の表示例 109
- コード例 7-11 `showsc -v` での構成情報の表示例 110

はじめに

『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.4 ガイド』では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) システムコントローラについて説明します。このコントローラを使用すると、サーバーを遠隔で管理できます。このマニュアルは、UNIX® コマンドについての知識と経験が豊富なシステム管理者を対象としています。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) の概要について説明します。

第 2 章では、サーバーのセキュリティーガイドラインについて説明します。

第 3 章では、サーバーに合わせて ALOM ソフトウェアをカスタマイズする方法について説明します。

第 4 章では、ALOM で簡単に実行できる一部の一般的な作業について説明します。

第 5 章では、ALOM で実行できる一部の障害管理作業について説明します。

第 6 章では、サーバーの SNMP について説明します。

第 7 章では、ALOM コマンド行インタフェースについて説明します。

第 8 章では、ALOM の動作を変更するために使用できる構成変数について説明します。

付録 A では、診断について説明し、ALOM に関する問題を障害追跡する方法について説明します。

付録 B では、ALOM CMT イベントメッセージのリストと説明を示します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル
<http://docs.sun.com>

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名 % su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
ALOM システムコントローラ	sc>
OpenBoot PROM ファームウェア	ok

関連マニュアル

次のマニュアルでは、ホストサーバーでの作業に関して、ALOM に関連する特定の作業の実行方法について説明しています。

作業	タイトル
診断テストの実行	『SunVTS User's Guide』
	『SunVTS Quick Reference Card』
	『SunVTS Test Reference Manual』
	『Sun Management Center ユーザーガイド』
システムおよびネットワークの管理	Solaris 10 System Administrator Collection
オペレーティングシステムの使用	Solaris 10 User Collection

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.4 ガイド』、Part No. 820-3670-10

第1章

Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT の概要

この章では、使用しているサーバーの Advanced Lights Out Manager (ALOM) の概要について説明します。このバージョンの ALOM は、チップマルチスレッド (CMT) を搭載したシステムをサポートするように設計されています。この章は、次の節で構成されています。

- [1 ページの「ALOM CMT の機能」](#)
- [2 ページの「ALOM CMT の監視対象」](#)
- [4 ページの「障害およびエラー関連の用語」](#)
- [5 ページの「プラットフォーム固有の情報」](#)

このあとの章では、ALOM CMT の構成および使用について詳細に説明します。

ALOM CMT の機能

Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT を使用すると、サーバーを遠隔で管理できます。

ALOM CMT ソフトウェアは、サーバーにプリインストールされています。このため、ALOM CMT は、サーバーを設置して電源を入れるとすぐに動作します。その後、特定のインストール環境で動作するように ALOM CMT をカスタマイズできます。詳細は、[13 ページの「ALOM CMT の構成」](#)を参照してください。

ALOM CMT を使用すると、ネットワーク経由か、端末または端末サーバーに接続される専用のシリアルポートのいずれかを使用して、サーバーを監視および制御できます。ALOM CMT で提供されるコマンド行インターフェースを使用して、地理的に分散されたマシンまたは物理的にアクセス不可能なマシンを遠隔から管理できます。詳細は、[48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)を参照してください。

また、ALOM CMT を使用すると、サーバーのシリアルポートに物理的に近い場所で実行する必要がある電源投入時自己診断 (POST) などの診断を遠隔で実行できます。詳細は、161 ページの「ALOM CMT を使用したサーバーの問題の障害追跡」を参照してください。また、ハードウェア障害、ハードウェアに関する注意事項、およびサーバーまたは ALOM CMT に関連するその他のイベントの電子メールによる警告を送信するように ALOM CMT を設定することもできます。

システムコントローラの回路は、サーバーのスタンバイ電力を使用して、サーバーとは独立して動作します。このため、サーバーのオペレーティングシステムがオフラインになった場合、またはサーバーの電源が切断された場合でも、ALOM CMT ファームウェアおよびソフトウェアは機能し続けます。

ALOM CMT の監視対象

この節では、サーバー上で ALOM CMT が監視できるコンポーネントの一部について説明します。

監視対象コンポーネント	ALOM CMT の監視内容
ファン	ファンが取り付けられているかどうか、ファンの回転速度、およびファンが OK ステータスを報告しているかどうか
CPU	CPU で計測される温度、および温度の警告状態または障害状態
電源装置	電源装置の状態、および障害が報告されているかどうか
システム格納装置の温度	システム周辺の温度、および格納装置の温度の注意状態または障害状態
負荷	システム負荷 (アンペア)
電流	電流センサーの状態
電圧	正しい電圧が報告されているかどうか
サーバーのフロントパネル	LED の状態

ALOM CMT の使用

ALOM CMT ソフトウェアは、ホストサーバーにプリインストールされています。このため、ALOM CMT はサーバーを設置して電源を入れるとすぐに動作します。外部 ASCII 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に接続すれば、ALOM CMT ソフトウェアを設定しなくてもすぐに ALOM CMT を開始できます。外部端末の接続の詳細は、使用しているホストサーバーに付属のインストールガイドを参照してください。

ALOM CMT ソフトウェアを使用すると、システムコントローラが設置されているホストサーバーを監視できます。この場合、ホストサーバーのみを監視することができ、ネットワーク上のその他のサーバーは監視できません。複数のユーザーがホストサーバーを監視できますが、一度に 1 人のユーザーのみがコンソールへの書き込み権を持ちます。その他の接続は読み取り専用となります。その他のユーザーは、システムコンソールおよび ALOM CMT の出力を表示するためのコマンドを実行できますが、設定を変更することはできません。

システムコントローラに接続するいくつかの方法を、次に示します。

1. SER MGT ポートに ASCII 端末を直接接続します。詳細は、[15 ページの「シリアル管理ポート」](#)を参照してください。
2. telnet または ssh コマンドを使用し、ネットワーク管理 (Ethernet) (NET MGT) ポートに接続されている Ethernet 接続を介してシステムコントローラに接続します。詳細は、[16 ページの「ネットワーク管理 \(Ethernet\) ポート」](#)を参照してください。
3. SER MGT ポートに端末サーバーのポートを接続してから、ssh または telnet コマンドを使用して端末サーバーに接続します。

はじめてサーバーに電源を入れると、ALOM CMT は事前設定されているデフォルトのアカウントを使用してシステムの監視を自動的に開始し、システムコンソールに出力を表示します。デフォルトのアカウントは admin で、完全なアクセス権 (cuar) を持っています。アクセス権の詳細は、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

ALOM CMT にログインして admin のパスワードを指定するには、次の手順を実行します。

- ALOM CMT コマンドプロンプト (sc>) で password コマンドを入力し、次に admin アカウントのパスワードを指定します。詳細は、[72 ページの「password」](#)を参照してください。

ログインする前に ALOM CMT がタイムアウトした場合は、システムコンソールに戻り、次のメッセージが表示されます。

```
Enter #. to return to ALOM.
```

必要に応じて、ALOM CMT にログインしたあと、特定のインストール環境で動作するように ALOM CMT をカスタマイズできます。詳細は、[13 ページの「ALOM CMT の構成」](#)を参照してください。

これで、ALOM CMT ユーザーアカウントの追加など、一部の一般的な管理作業を実行できるようになります。詳細は、[25 ページの「一般的な作業」](#)を参照してください。

障害およびエラー関連の用語

すべての SPARC® Enterprise サーバーでは、ALOM を使用して表示および監視可能な 2 つの動作状態 (ok および failed) が表示されます。一部のサーバーには、faulty という動作状態もあります。この節では、faulty 状態と failed 状態の相違点について説明します。

faulty 状態

faulty 状態は、縮退状態でデバイスが動作しているが、デバイスは完全に機能していることを示しています。この縮退により、このデバイスは **fault** を示していないデバイスよりも信頼性が低くなる場合があります。faulty 状態のデバイスは、主な機能を引き続き実行できます。

たとえば、内部ファンに障害が発生すると、電源装置は faulty を示します。ただし、温度が危険しきい値を超えないかぎり、この電源装置は安定した電源を供給し続けることができます。このような faulty 状態の電源装置は、温度、負荷、および効率に応じて適切に機能しなくなることがあります。このため、障害が発生していない電源装置よりも信頼性が低くなります。

failed 状態

failed 状態は、デバイスがシステムの要求どおりに機能していないことを示しています。重大な障害状態または複数の障害の併発が原因で、デバイスに障害が発生します。デバイスが failed 状態になると機能が停止するため、システム資源として使用することができなくなります。

電源装置の例では、電源装置は、安定した電源の供給を停止したときに failed 状態であるとみなされます。

プラットフォーム固有の情報

flashupdate コマンドを使用して ALOM CMT ファームウェアを更新する前に、次の点を確認してください。

- 仮想キースイッチがロック位置に設定されていない。
- ALOM CMT がネットワーク構成されている。サーバーの現在のネットワーク構成を表示する方法については、[107 ページの「shownetwork」](#)を参照してください。
- 適切なアクセス権 (アクセス権レベル: a) を持っている。
- 有効な ALOM CMT ファームウェアイメージがネットワークアクセス可能なディレクトリに配置されている。

詳細は、使用しているシステムに付属のインストールガイドを参照してください。

第2章

セキュリティーガイドライン

この章では、セキュリティー上の重要なガイドラインについて説明します。承認されていないアクセスを制限するようにシステムを構成することを、セキュリティー強化と呼びます。この章の内容は、次のとおりです。

- 7 ページの「システムコントローラのセキュリティー保護」
- 9 ページの「遠隔接続のタイプの選択」
- 9 ページの「Secure Shell の有効化」
- 11 ページの「Solaris オペレーティングシステムのセキュリティー」

システムコントローラのセキュリティー保護

SC は、ホストドメインから独立して動作します。SC は、RAM メモリーや持続的記憶領域などのコンピュータリソースをホストドメインと共有しません。SC は専用ハードウェアを使用してホストドメインと通信します。SC が、ホストドメインにログインすることはありません。しかし、SC は、ユーザーログインのためにホストのシリアルコンソールポートへのアクセスを提供し、すべてのコンソールトラフィックをログに記録します。

考慮すべきセキュリティー上の対策は次のとおりです。

- すべてのパスワードをセキュリティーガイドラインに必ず準拠させます。たとえば、ホストドメインと SC には一意のパスワードを設定することをお勧めします。
- プラットフォームおよびホストドメインのパスワードを定期的に変更します。
- ログファイルを定期的な精査して、不正がないか確認します。

システムの強化に役立つ構成手順を次に示します。

- SC のアプリケーションファームウェアを更新した直後や、ホストドメインを構成またはインストールする前に、セキュリティーの変更を実装します。

- SC コマンドシェルへのアクセスを制限します。
- SC ユーザーに対し、役割に基づいて特定の権限を割り当てます。
- 特定の構成変更のあとには再起動を予定します。

Solaris Security Toolkit を使用して、Solaris オペレーティングシステムが動作しているシステムのセキュリティー保護された構成を作成する方法については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/software/security/jass>

表 2-1 のプラットフォームセキュリティー構成チェックリストに、`setsc` および `setupsc` コマンドのパラメータと、SC およびホストをセキュリティー保護するためのその他のタスクを示します。システムコントローラのセキュリティーに関連する `setsc` および `setupsc` コマンドのパラメータの詳細は、86 ページの「`setsc`」および 87 ページの「`setupsc`」のコマンド説明を参照してください。

表 2-1 プラットフォームセキュリティー構成チェックリスト

設定またはタスク	推奨事項
遠隔接続のタイプ	<code>setupsc</code> コマンドまたは <code>setsc if_connection ssh</code> で、接続タイプとして <code>ssh</code> を選択します。 注: ネットワークベースの端末サーバーを使用する場合は、端末サーバーへのアクセスに <code>SSH</code> を使用して、サーバーとのすべての通信が暗号化されるようにしてください。
SC のパスワードの設定	長さ 8 文字のパスワードを使用します。パスワードには、大文字、小文字、数字、および区切り文字を組み合わせて指定することをお勧めします。 詳細は、72 ページの「 <code>password</code> 」の「パスワードの制限」を参照してください。
SC のユーザーアクセス権の設定	SC のユーザーアカウントには、必ずユーザーの役割に応じたアクセス権を付与してください。ユーザーアカウントには 4 つのアクセス権レベルを指定できます。詳細は、117 ページの「 <code>userperm</code> 」の「アクセス権レベル」を参照してください。
シリアルポートへのアクセスの制限	シリアルポートへの物理的なアクセスを制限します。
アイドルセッションタイムアウトの設定	シリアル接続またはネットワーク接続 (<code>Telnet</code> または <code>SSH</code>) を介して確立された対話型セッションのタイムアウトを設定します。詳細は、149 ページの「 <code>sc_clitimeout</code> 」を参照してください。
必要に応じて再起動	特定の構成変数を変更した場合は、それらを有効にするためにリセットを実行する必要があります。必要に応じて、再起動が確実に行われるようにしてください。

遠隔接続のタイプの選択

SC では、遠隔接続に対して SSH プロトコルとともに DHCP がデフォルトで使用可能になっています。SSH セッションを確立するには、admin パスワード、またはシャーシシリアル番号に基づくシステム固有のデフォルトパスワードが必要です。詳細は、16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」を参照してください。SC へのすべてのネットワーク接続に適用されるセッションアイドルタイムアウト時間を定義できます。デフォルトでは、セッションアイドルタイムアウト時間は設定されていません。

Secure Shell の有効化

SC が汎用ネットワーク上にある場合は、Telnet ではなく Secure Shell を使用することで、SC へのセキュリティー保護された遠隔アクセスを確保できます。SSH は、ホストとクライアントの間で送受信されるデータを暗号化します。SSH はホストとユーザーの両方を識別する認証メカニズムを提供するため、既知のシステム間のセキュリティー保護された接続を可能にします。Telnet プロトコルではパスワードを含む情報が暗号化されずに転送されるため、基本的にセキュリティーが保護されません。

注 – SSH は、FTP または Telnet プロトコルのセキュリティー保護には使用できません。FTP は新しい ALOM CMT イメージのダウンロードに使用されます。これらのプロトコルはセキュリティー保護されていないため、汎用ネットワーク上では慎重に使用することをお勧めします。

SC は、提供する SSH 機能に制限があり、SSH version 2 (SSHv2) のクライアント要求のみをサポートします。表 2-2 では、SSH サーバーの各種属性を示し、このサブセットでその属性がどのように処理されるかについて説明します。これらの属性の設定は構成可能ではありません。

表 2-2 SSH サーバーの属性

属性	値	コメント
Protocol	2	SSH v2 のサポートのみ
Port	22	待機ポート
ListenAddress	0.0.0.0	複数の IP アドレスをサポート
AllowTcpForwarding	no	ポート転送はサポートされない

表 2-2 SSH サーバーの属性 (続き)

属性	値	コメント
RSAAuthentication	no	公開鍵の認証は使用不可
PubkeyAuthentication	no	公開鍵の認証は使用不可
PermitEmptyPasswords	yes	SC によって制御されるパスワード認証
MACs	hmac-sha1、hmac-md5	Solaris 9 オペレーティングシステムと同じ SSH サーバーの実装
Ciphers	aes128-cbc、blowfish-cbc、3des-cbc	Solaris 9 オペレーティングシステムと同じ SSH サーバーの実装

遠隔アクセスタイプとして SSH を使用する場合は、SC への SSH 接続を 8 つ同時に確立できます。

SSH を有効にする手順

詳細は、[34 ページの「ネットワークインタフェース変数を構成する」](#)を参照してください。

SSH によってサポートされない機能

ALOM CMT 上の SSH サーバーは、次の機能をサポートしません。

- 遠隔でのコマンド行の実行
- scp コマンド (セキュリティー保護されたコピープログラム)
- sftp コマンド (セキュリティー保護されたファイル転送プログラム)
- ポート転送
- 鍵ベースのユーザー認証
- SSHv1 クライアント

上記のいずれかの機能の使用を試みると、エラーメッセージが生成されます。たとえば、次のコマンドを実行します。

```
# ssh SCHOSt showplatform
```

この場合、次のメッセージが生成されます。

- SSH クライアントの場合:

```
Connection to SCHOST closed by remote host.
```

- SC コンソールの場合:

```
[0x89d1e0] sshdSessionServerCreate: no server registered
           for showboards
[0x89d1e0] sshd: Failed to create sshdSession
```

SSH ホスト鍵の変更

定期的に新しいホスト鍵を取得することは、マシンを適切に管理するための望ましいセキュリティ対策です。ホスト鍵が危殆化されている可能性がある場合は、`ssh-keygen` コマンドを使用して、システムのホスト鍵を再生成できます。

ホスト鍵は、いったん生成されると、置換のみ行うことができ、`setdefaults` コマンドを実行しないかぎり削除できません。新しく生成されたホスト鍵を使用可能にするには、`restartssh` コマンドを実行するか、`reboot` コマンドによる再起動を実行して、SSH サーバーを再起動する必要があります。`ssh-keygen` および `restartssh` コマンドの詳細とその例については、[113 ページの「ssh-keygen」](#) および [80 ページの「restartssh」](#) を参照してください。

注 - `ssh-keygen` コマンドを使用して、SC 上のホスト鍵フィンガープリントを表示することもできます。

Solaris オペレーティングシステムのセキュリティ

Solaris オペレーティングシステムのセキュリティ保護の詳細は、次のマニュアルおよび記事を参照してください。

- Solaris のセキュリティに関する最良事例は、次の Web サイトで入手できます。
<http://www.sun.com/security/blueprints>

- Solaris Security Toolkit は、次の Web サイトで入手できます。
<http://www.sun.com/software/security/jass>
- 使用している Solaris OS の Solaris System Administrator Collection にある『Solaris のシステム管理 (セキュリティサービス)』

第3章

ALOM CMT の構成

この章では、次の基本的な構成作業について説明します。

- 13 ページの「ALOM CMT の構成手順」
- 14 ページの「ALOM CMT の構成計画」
- 14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」
- 19 ページの「構成ワークシート」
- 22 ページの「電子メールによる警告の構成」
- 22 ページの「ALOM CMT の設定」

ALOM CMT の構成手順

ALOM CMT ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされているため、サーバーの電源を入れるとすぐに動作します。シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続し、ALOM での作業をすぐに開始できます。

ただし、インストール環境に合わせて ALOM CMT をカスタマイズする場合は、ALOM CMT に関するいくつかの基本的な作業を実行する必要があります。

1. 構成のカスタマイズ方法を計画します。詳細は、14 ページの「ALOM CMT の構成計画」を参照してください。
2. 構成ワークシートを使用して設定を記録します。詳細は、20 ページの「構成変数ワークシート」を参照してください。
3. `setupsc` コマンドを実行します。詳細は、22 ページの「ALOM CMT の設定」を参照してください。
4. 構成変数を使用して ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズします。詳細は、121 ページの「ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する」を参照してください。

ALOM CMT の構成計画

ALOM CMT ソフトウェアは、ホストサーバーにプリインストールされています。ALOM CMT を再インストールまたは更新するには、この節の指示に従ってください。

注 – システムコントローラのシリアル接続および Ethernet 接続の場所については、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

setupsc コマンドを実行して ALOM を設定する前に、ALOM CMT でホストサーバーを管理する方法を決定する必要があります。構成に関して決定する必要のある事項は次のとおりです。

- 使用するシステムコントローラの通信ポート。詳細は、[14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」](#)を参照してください。
- 警告メッセージの使用の有無および警告メッセージの送信先。詳細は、[19 ページの「構成ワークシート」](#)を参照してください。

これらの事項を決定したら、[20 ページの「構成変数ワークシート」](#)に示す構成ワークシートを印刷し、このシートを使用して setupsc コマンドに対する応答を記録します。

システムコントローラの通信ポートの選択

システムコントローラには、次の 2 種類の通信ポートがあります。

- シリアル管理ポート (SER MGT)
- ネットワーク管理 (Ethernet) ポート (NET MGT)

どちらのポートでも、ALOM CMT コマンドシェルにアクセスできます。デフォルトでは、ALOM CMT は起動時に SER MGT ポートを使用して通信します。

注 – サーバーのシリアル管理接続およびネットワーク管理 (Ethernet) 接続の場所については、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

シリアル管理ポート

システムコントローラのシリアル管理ポートには、ASCII 端末または端末エミュレータ (ワークステーションからのシリアル接続など) を接続できます。

このポートは汎用シリアルポートではありません。このポートは、ALOM CMT および ALOM CMT を使用したサーバーコンソールへのアクセスに使用される専用ポートです。

サーバー上のこのポートは、SER MGT ポートと呼ばれます。このポートには、標準の RJ-45 コネクタを使用します。

コンソールシリアルポートに次のパラメータが設定されていることを確認してください。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- ストップビット 1
- ハンドシェイクなし

ホストサーバーは、起動時に ALOM CMT に対してこれらのパラメータを自動的に設定します。設定は読み取り専用であり、sc> プロンプトからは変更できません。ALOM CMT セッションの確立後に sc> プロンプトからパラメータの設定を参照するには、シリアルポート変数を確認します。詳細は、[122 ページの「シリアル管理ポート変数」](#)を参照してください。

▼ シリアルポートに接続する

1. ALOM に接続します。

ALOM CMT セッションの確立に関する詳細な手順は、[26 ページの「ALOM CMT への接続」](#) および [26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」](#) を参照してください。

ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) が表示されます。

2. システムコンソールに接続するには、ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) で次のように入力します。

```
sc> console
```

3. ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) に戻るには、エスケープシーケンス (ハッシュとピリオド) を入力します。

```
sc> #.
```

ネットワーク管理 (Ethernet) ポート

10/100M ビットの Ethernet ポートを使用すると、社内ネットワーク内から ALOM CMT にアクセスできます。任意の標準 Telnet クライアントと TCP/IP (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル) または Secure Shell (ssh) を使用して、ALOM CMT に遠隔から接続できます。サーバー上のシステムコントローラ Ethernet ポートは、NET MGT ポートと呼ばれます。

注 – NET MGT ポートに端末デバイスを接続する場合は、サーバーを 10M ビットネットワークまたは 100M ビットネットワークに接続する必要があります。NET MGT ポートは、10M ビットネットワークおよび 100M ビットネットワークの両方に対して、全二重および半二重のどちらのモードもサポートしています。ALOM CMT では、1G ビットネットワークはサポートされていません。

デフォルトの DHCP 接続

動的ホスト構成プロトコルを使用可能にすると、SC は IP アドレスなどのネットワーク構成を DHCP サーバーから自動的に取得します。DHCP はデフォルトで使用可能です。

DHCP がデフォルトで使用可能になっていることで、最初にシリアル接続を確立してネットワーク構成を手動で構成する必要なく、SC へのネットワーク接続を確立できます。管理者は、この機能を最大限に利用するために、DHCP サーバーと、SC へのログインに関連するデフォルト構成変数およびデフォルトパラメータを認識しておいてください。

次の ALOM CMT 変数およびデフォルトの内容は、デフォルトで DHCP をサポートしています。

表 3-1 ALOM CMT 構成変数の DHCP デフォルトの内容

構成変数	デフォルトの内容
if_network	true
if_connection	ssh
netsc_dhcp	true

DHCP クライアント (この場合は SC) は、自身を識別する一意のクライアント識別子 (clientid) を DHCP サーバーに提供します。clientid は、システムに物理的にアクセスできる承認された管理者が容易に取得できるシステムプロパティに基づきます。詳細は、[17 ページの「クライアント識別子 \(clientid\)」](#) を参照してください。clientid が特定されると、その clientid を既知の IP アドレスに割り当てるように DHCP サーバーを事前構成できます。SC に IP アドレスが割り当てられたあ

と、SC は SSH サーバーを起動します。管理者はその後、SC との ssh セッションを開始できます。システムが出荷されたばかりの新品であるか、`setdefaults -a` コマンドの実行後に再起動した直後である場合、デフォルトの admin ユーザーアカウントでログインするには、デフォルトパスワードが必要です。デフォルトパスワードも、システムに物理的にアクセスできる管理者が容易に取得できるシステムプロパティで構成されています。詳細は、[17 ページの「デフォルトパスワード」](#)を参照してください。

クライアント識別子 (clientid)

注 – ALOM CMT v1.2 より前に使用されていた DHCP の構成方法は、このリリースでは機能しません。アドレス指定ロジックが、以前のリリースで使用されていた MAC アドレスベースのアプローチから変更されています。ALOM CMT ファームウェアでは、この節で説明するように、一意のクライアント識別子を生成する別の方法が使用されるようになりました。このリリースにアップグレードしたあとで、以前の構成方法で構成されたシステムに、機能する IP アドレスが確実に設定されるように、新しいクライアント識別子を使用して DHCP サーバーを再構成してください。

clientid はシステムのベース Ethernet アドレスに基づきます。ベース Ethernet アドレスは、各システムに付属の Customer Information Sheet で確認できます。また、システムシャーシの背面パネルにあるラベルでも確認できます。clientid は次の連結で構成されます。

`SUNW,SC=base-ethernet-address`

たとえば、`base-ethernet-address` が `08:00:20:7C:B4:08` の場合、SC によって生成される clientid は、接頭辞 `SUNW,SC=` と、コロンを除いた 12 桁の `base-ethernet-address` を結合した文字列になります。

`SUNW,SC=0800207CB408`

この clientid は ASCII 形式です。DHCP サーバーは ASCII の clientid でプログラムできるはずですが、DHCP マッピング表の実際のエントリは、これに対応する 16 進数になります。

デフォルトパスワード

システムが新たに出荷されたものであるか、`setdefaults -a` コマンドの実行後に再起動した直後である場合、ssh セッションからログインするにはデフォルトパスワードが必要です。デフォルトパスワードはシステムごとに一意です。パスワードシステムはシャーシシリアル番号から導き出されます。シャーシシリアル番号は、各システムに付属の Customer Information Sheet と、シャーシの背面パネルに貼られた

ラベルで確認できます。デフォルトパスワードはシャーシシリアル番号の下 8 桁で構成されます。たとえば、シャーシシリアル番号が 0547AE81D0 の場合、デフォルトパスワードは次のようになります。

47AE81D0

注 – admin パスワードを設定すると、以降のログインではその admin パスワードが必要になります。デフォルトパスワードは、setdefaults -a コマンドが実行されないかぎり、適用できなくなります。たとえば、-a オプションを指定せずに setdefaults コマンドを実行すると、admin パスワードは setdefaults コマンドを実行する前と同じ値のままです。

出荷時の新しいシステムで DHCP を使用するための手順

1. ホストシステムのベース Ethernet アドレスから clientid を特定します。ベース Ethernet アドレスは、Customer Information Sheet またはシャーシの背面パネルのラベルで確認できます。
2. シャーシシリアル番号から、デフォルトの admin ユーザーログインパスワードを特定します。シャーシシリアル番号は、Customer Information Sheet またはシャーシの背面パネルのラベルで確認できます。
3. 新しい clientid にサービスを提供するように DHCP サーバーをプログラムします。
4. システムをネットワークに接続し、システムに AC 電源が供給されていることを確認します。
5. DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスを使用して、SSH セッションを開始します。
6. あらかじめ特定したデフォルトパスワードを使用して、admin ユーザーとしてログインします。

注 – SC の clientid を明示的な IP アドレスに割り当てるように、DHCP サーバーを事前にプログラムする必要はありません。ただし、事前プログラミングは最適な方法であり、これを行うと長期的に管理を簡素化することができます。

DHCP サーバーが一定範囲の IP アドレスから取り出すように設定されている場合、管理者は DHCP 管理ユーティリティを使用して、割り当てられた IP アドレスを特定できます。ただし、最初に clientid を対応する 16 進数に変換する作業が必要な場合があります。たとえば、DHCP サーバーで Solaris OS が動作している場合は、

pntadm(1M) コマンドを使用して IP アドレスの割り当てを表示できます。次の例では、Ethernet アドレス 123456789012 の SC が、.203 サブネットに接続されています。

```
# pntadm -P 129.156.203.0
Client ID                               Flags Client IP    ...
53554E572C5353433D313233343536373839404142 00    129.156.203.240 ...
...
```

この場合、IP アドレスの割り当てを特定するには、ASCII を対応する 16 進数の clientid に変換する必要があります。次に例を示します。

```
53|55|4E|57|2C|53|43|3D|31|32|33|34|35|36|37|38|39|30|31|32
S  U  N  W  ,  S  C  =  1  2  3  4  5  6  7  8  9  0  1  2
```

構成ワークシート

インストール環境に合わせて ALOM CMT をカスタマイズする場合は、このワークシートを使用するだけで済みます。

ALOM CMT をカスタマイズするには、構成変数を使用します。変数の詳細は、[121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)を参照してください。

ALOM CMT の構成変数の設定には、次の 2 つの方法があります。

- setupsc コマンドの実行時に変数の値を指定します。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。
- [86 ページの「setsc」](#)で説明する setsc コマンドを使用して各変数を個別に構成します。

この節を印刷し、表を使用して入力時の値を記録します。この表は、サーバーソフトウェアの再インストールまたは ALOM CMT 設定の変更が必要になった場合に、ホストサーバー構成の記録として使用することもできます。

ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズする前に、端末デバイスがシステムコントローラポートを通じて ALOM CMT に接続されていることを確認します。処理の詳細は、[14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」](#)を参照してください。

構成変数ワークシート

表 3-2 に、Ethernet を制御する構成変数とそのデフォルト値を示します。右の列に値を記入してください。

表 3-2 機能別 Ethernet 変数

機能	値/応答	構成変数	デフォルト値	使用する値
ネットワーク構成の制御方法	手動 (21 ページの「手動でのネットワークの構成」を参照)。 DHCP を使用 (21 ページの「DHCP を使用したネットワークの構成」を参照)。	if_network (133 ページの「if_network」を参照)	true	
サーバーへの遠隔接続	none、ssh、または telnet	if_connection (130 ページの「if_connection」を参照)	ssh	
ALOM CMT のインターネットプロトコル (IP) アドレス		netssc_ipaddr (142 ページの「netssc_ipaddr」を参照)。	0.0.0.0	
サブネットマスクの IP アドレス		netssc_ipnetmask (145 ページの「netssc_ipnetmask」を参照)。	255.255.255.0	
宛先が ALOM CMT と同じサブネット上に存在しない場合に使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレス		netssc_ipgateway (143 ページの「netssc_ipgateway」を参照)。	0.0.0.0	
ALOM CMT で電子メールによる警告の送信の有無 警告の送信に使用する電子メールアドレス (最大 2 つのメールアドレスをサポート)		mgt_mailalert (135 ページの「mgt_mailalert」を参照)。	[]	デフォルトでは、電子メールアドレスは設定されていません
Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) メールサーバーの IP アドレス (最大 2 台のメールサーバーをサポート)		mgt_mailhost (137 ページの「mgt_mailhost」を参照)。	0.0.0.0	

関連情報

- ALOM CMT 構成変数については、[121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)を参照
- [116 ページの「userpassword」](#)

ネットワークの構成

ネットワークは、DHCP を使用して動的に構成するか、または手動で構成できます。

DHCP を使用したネットワークの構成

ALOM CMT の動的ホスト構成プロトコル (DHCP) の設定には、次の 2 つの方法があります。

- [141 ページの「netsc_dhcp」](#) に示すように、setupsc スクリプト ([87 ページの「setupsc」](#)) を使用して netsc_dhcp 変数を設定します。
- [141 ページの「netsc_dhcp」](#) に示すように、setsc コマンド ([86 ページの「setsc」](#)) を使用して netsc_dhcp 変数の値を true に設定し、DHCP を使用可能にします。

注 – ネームサーバーマップ (ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームシステム (DNS)) でインターネットプロトコル (IP) アドレスに関連付けられている ALOM CMT デバイス名は、ホストサーバー名に -sc を追加した名前に設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバーの名前が bert の場合、ALOM CMT デバイス名は bert-sc です。

DHCP を使用してネットワーク構成を制御する場合は、ALOM CMT に固定 IP アドレスを割り当てるように DHCP サーバーを構成します。

手動でのネットワークの構成

ALOM CMT に対してネットワークを手動で構成するには、次の 2 つの方法があります。

- setupsc スクリプトを使用して、一度にすべてのネットワーク構成変数を設定します。
- setsc コマンドを使用して、各ネットワーク構成変数の値を個別に設定します。

各変数を個別に設定する場合は、次の変数を設定する必要があります。

- [133 ページの「if_network」](#)
- [142 ページの「netsc_ipaddr」](#)
- [145 ページの「netsc_ipnetmask」](#)
- [143 ページの「netsc_ipgateway」](#)

電子メールによる警告の構成

電子メールによる警告を送信するには、システムコントローラの Ethernet ポートが使用可能になっている必要があります ([16 ページの「ネットワーク管理 \(Ethernet\) ポート」](#)を参照)。

問題が発生すると、ALOM CMT は、そのサーバー上の ALOM CMT アカウントにログインしているすべてのユーザーに警告メッセージを送信します。また、ログインしていないユーザーに電子メールで警告を送信するように ALOM CMT を構成することもできます。警告を受信したユーザーは、そのホストサーバーの ALOM CMT アカウントに接続して警告状態に対処できます。

ALOM CMT ソフトウェアでは、最大 8 個の一意の電子メールアドレスを警告の受信用に設定できます。各電子メールアドレスは、それぞれ独自の重要度 (クリティカル、メジャー、マイナー) の警告を受信するように構成できます。詳細は、[39 ページの「警告メッセージの送受信」](#)を参照してください。

ALOM CMT の設定

構成計画の終了後、[87 ページの「setupsc」](#)に示す setupsc コマンドを実行します。画面のプロンプトに従って、インストール環境に合わせて ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズします。

注 – ALOM CMT ソフトウェアは、カスタマイズしなくても使用できます。ALOM CMT ソフトウェアは、サーバーに電源を入れるとすぐに動作します。

setupsc コマンドは、カスタマイズできる各 ALOM CMT 機能を順番に処理するスクリプトを実行します。各機能は、1 つ以上の構成変数に関連付けられています。構成変数の詳細は、[第 8 章](#)を参照してください。機能を構成するには、setupsc スクリプトで確認プロンプトが表示されたときに **y** と入力します。機能をスキップするには、**n** と入力します。

あとで設定を変更する必要がある場合は、[86 ページの「setsc」](#)の説明に従って setsc コマンドを実行します。

ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ

setupsc スクリプトを使用すると、一度に多くの ALOM CMT 構成変数を設定できます。詳細は、[第 8 章](#)を参照してください。setupsc スクリプトを実行せずに 1 つ以上の構成変数を変更する場合は、[86 ページの「setsc コマンドを使用する」](#)に示す setsc コマンドを使用します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [19 ページの「構成ワークシート」](#)
- [13 ページの「ALOM CMT の構成手順」](#)

第4章

一般的な作業

ALOM CMT に `admin` としてログインし、`admin` パスワードを指定すると、次のような一般的な管理作業を実行できます。

- 26 ページの「ALOM CMT への接続」
- 26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」
- 28 ページの「ALOM CMT の再起動」
- 28 ページの「システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え」
- 29 ページの「電源投入時のシステムコンソール出力」
- 29 ページの「ALOM CMT のバージョンの表示」
- 29 ページの「電源投入時のシステムコンソール出力」
- 30 ページの「ホストサーバーの電源投入および電源切断」
- 30 ページの「ホストサーバーのリセット」
- 31 ページの「サーバーの環境情報の表示」
- 32 ページの「ALOM CMT 診断パラメータの再構成」
- 33 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」
- 35 ページの「ALOM CMT ユーザーアカウントの追加」
- 37 ページの「ALOM CMT ユーザーアカウントの削除」
- 38 ページの「アカウントのパスワードの変更」
- 39 ページの「警告メッセージの送受信」

ALOM CMT への接続

システムコントローラの ALOM CMT に接続するいくつかの方法を、次に示します。

- シリアル管理 (SER MGT) ポートに ASCII 端末を直接接続します。詳細は、[15 ページの「シリアル管理ポート」](#)を参照してください。
- telnet または ssh コマンドを使用して、NET MGT ポートに接続されている Ethernet 接続を介して ALOM CMT に接続します。詳細は、[33 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」](#)を参照してください。
- SER MGT ポートに端末サーバーのポートを接続してから、telnet または ssh コマンドを使用して端末サーバーに接続します。

ALOM CMT アカウントへのログイン

使用するシステムコントローラポートへのハードウェア接続が確立されていることを確認します。サーバーの Ethernet ポートには NET MGT というラベルが付いています。シリアルポートには SER MGT というラベルが付いています。これらのポートの詳細およびこれらのポートへのデバイスの接続方法については、使用しているサーバーのインストールガイドを参照してください。

はじめてシリアル管理ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、自動的に admin アカウントとして接続されます。このアカウントには、完全な (cuar) アクセス権があります。ALOM CMT の使用を継続するには、このアカウントのパスワードを指定する必要があります。パスワードを指定すると、ALOM CMT を継続して使用できます。次回ログインするときは、そのパスワードを指定してください。admin としてログインすると、新規ユーザーの追加、およびこれらのユーザーのパスワードとアクセス権を指定できます。

デフォルトで使用可能な DHCP がサポートされるシステムでは、シリアル管理ポートに接続する前にネットワーク管理ポートに接続できます。この場合、SC が確実にデフォルトでセキュリティー保護されるように、追加のセキュリティー層が存在します。ユーザーは Secure Shell (ssh) セッションを使用した接続のみ許可されます。事前に特定されたシステム固有のパスワードを入力してください。この処理については、[16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」](#)で説明しています。デフォルトパスワードを入力して、続行が許可されたら、admin アカウントの新しいパスワードを指定してください。

このプロセスの詳細は、[117 ページの「アクセス権レベル」](#)、[114 ページの「useradd」](#)、[116 ページの「userpassword」](#)、および [117 ページの「userperm」](#) を参照してください。

▼ ALOM CMT にログインする

すべてのユーザー (admin およびその他のユーザー) は、次の手順に従って ALOM CMT にログインします。

1. ALOM CMT に接続します。

詳細は、[26 ページの「ALOM CMT への接続」](#) を参照してください。

SER MGT ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、接続が確立されたら、#.(ハッシュとピリオド)を入力してシステムコンソールからエスケープします。

NET MGT ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、手順 2 に進みます。

2. ALOM CMT ログイン名とパスワードを入力します。

パスワードは画面に表示されません。ホストサーバーでは、入力した各文字の代わりにアスタリスク (*) が表示されます。正常にログインすると、ALOM CMT のコマンドプロンプトが表示されます。

```
sc>
```

これで、ALOM CMT コマンドを使用したり、システムコンソールに切り替えたりできるようになります。詳細は、[47 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」](#) および [15 ページの「シリアル管理ポート」](#) を参照してください。

ALOM CMT イベントログにログイン情報が記録されます。5 分間でログインに 6 回以上失敗すると、ALOM CMT によってクリティカルイベントが生成されます。詳細は、[104 ページの「showlogs」](#) を参照してください。

関連情報

- [14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」](#)
- [15 ページの「シリアル管理ポート」](#)

ALOM CMT の再起動

システムコントローラをリセットすると、ALOM CMT ソフトウェアが再起動されます。netsc_ipaddr などの特定の変数に新しい値を指定するなど、ALOM の設定を変更したあとで、システムコントローラのリセットが必要になる場合があります。

▼ ALOM CMT を再起動する

- sc> プロンプトで、resetsc コマンドを入力します。

詳細は、[79 ページ](#)の「resetsc」を参照してください。

システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え

▼ システムコンソールと ALOM CMT を切り替える

- コンソール出力から ALOM CMT の sc> プロンプトに切り替えるには、#. (ハッシュとピリオド) を入力します。
- sc> プロンプトからコンソールに切り替えるには、console と入力します。

注 - #. (ハッシュとピリオド) 文字シーケンスは、ALOM CMT のデフォルトのエスケープ文字シーケンスです。必要に応じて、sc_escapechars 変数を使用してエスケープシーケンスの最初の文字を変更できます。たとえば、sc> setsc sc_escapechars a. のように変更できます。詳細は、[151 ページ](#)の「sc_escapechars」を参照してください。

電源投入時のシステムコンソール出力

はじめてホストサーバーの電源を入れると、ALOM CMT はシステムコンソール出力を表示するように初期設定されます。SER MGT ポートは、ホストサーバー上に virtual-console として表示されます。

ALOM CMT のバージョンの表示

▼ ALOM CMT のバージョンを表示する

- `showsc version` と入力します。
たとえば、ALOM CMT のバージョンを表示するには、`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc version
Advanced Lights Out Manager CMT v1.4
```

詳細は、[109 ページ](#)の「[showsc コマンドを使用する](#)」を参照してください。

ロケータ LED の制御

▼ ロケータ LED を制御する

ロケータ LED のオンとオフの切り替えおよび LED の状態の確認を行うには、ALOM CMT コマンドを使用します。

- LED のオンとオフを切り替えるには、`setlocator` コマンドを使用します。
詳細は、[85 ページ](#)の「[setlocator](#)」を参照してください。
- LED の状態を確認するには、`showlocator` コマンドを使用します。
詳細は、[103 ページ](#)の「[showlocator](#)」を参照してください。

ホストサーバーの電源投入および電源切断

▼ ホストサーバーの電源を投入および切断する

- サーバーの電源を入れるには、`poweron` コマンドを入力します。
詳細は、[75 ページの「poweron」](#) を参照してください。
- サーバーの電源を入れたあとでシステムコンソールに接続するには、`poweron -c` コマンドを入力します。
- サーバーの正常なリセットを実行するには、`powercycle` コマンドを入力します。
正常なリセットを実行すると、Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) を停止できます。代わりに、`poweron` コマンドを入力せずに `poweroff` コマンドを入力すると、ALOM CMT はホストサーバーの電源を切り、スタンバイモードにします。詳細は、[73 ページの「powercycle」](#) または [73 ページの「poweroff」](#) を参照してください。
- ホストサーバーの状態に関係なくサーバーを強制的に停止するには、`poweroff -f` コマンドを入力します。
これにより、なんらかの理由で Solaris OS に障害が発生した場合または Solaris OS がハングアップした場合でも、ホストサーバーはただちにリセットされます。この停止は正常な停止ではないため、作業内容が失われることがあります。

ホストサーバーのリセット

▼ ホストサーバーをリセットする

- サーバーの正常なリセットを実行するには、`powercycle` コマンドを入力します。
正常なリセットを実行すると、Solaris OS を停止できます。代わりに、`poweron` コマンドを入力せずに `poweroff` コマンドを入力すると、ALOM CMT はホストサーバーの電源を切り、スタンバイモードにします。詳細は、[73 ページの「powercycle」](#) を参照してください。

- ホストサーバーの状態に関係なくサーバーを強制的に停止するには、`powercycle -f` コマンドを入力します。
これにより、なんらかの理由で Solaris OS に障害が発生した場合または Solaris OS がハングアップした場合でも、ホストサーバーはただちにリセットされます。この停止は正常な停止ではないため、作業内容が失われることがあります。
- 正常な停止を実行せずにサーバーをただちにリセットするには、`reset` コマンドを入力します。
詳細は、78 ページの「`reset`」を参照してください。
- サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) をすぐに表示するには、`break` コマンドを入力します。
詳細は、55 ページの「`break`」を参照してください。

サーバーの環境情報の表示

この節では、サーバーの環境状態の表示および監視について説明します。

`showenvironment` コマンドは、サーバーの環境状態のスナップショットを表示します。このコマンドで表示可能な情報には、システムの温度、ハードディスクドライブの状態、電源装置とファンの状態、フロントパネルの LED の状態、電圧センサー、電流センサーなどがあります。

▼ 環境情報を表示する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、次のように入力します。

```
sc> showenvironment
```

表示される出力は、ホストサーバーのモデルおよび構成によって異なります。サーバーがスタンバイモードの場合は、一部の環境情報が使用できないことがあります。詳細は、91 ページの「`showenvironment`」を参照してください。

ALOM CMT 診断パラメータの再構成

診断制御変数は、ホストサーバー上でエラーが検出された場合の ALOM CMT の動作方法を指定します。

▼ setupsc スクリプトを実行する

1. sc> プロンプトで、setupsc を入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. スクリプトを終了するには、次のいずれかの処理を実行します。
 - スクリプトを終了し、行なった変更を保存するには、Ctrl-Z を押します。
 - 変更を保存せずにスクリプトを終了するには、Ctrl-C を押します。たとえば、スクリプトには、次のメッセージおよび質問が含まれます。

```
sc> setupsc
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,
use Ctrl- Z.

...

Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
Enter the type of reset which will initiate system diagnostic
[power-on-reset error-reset]? power-on-reset error-reset
Enter the verbosity level of diagnostic output [normal]? normal
Enter the test coverage level of the system diagnostic [max]? max
Enter the automatic system diagnostic mode [normal]? normal
Should the host continue to boot after error is encountered [n]? y

...

Your ALOM configuration profile has been successfully completed.
To activate your network configuration, please reset the SC.
```

必要に応じて、スクリプトの対話型の質問に答えることによって、すべての ALOM CMT 構成変数を一度にカスタマイズできます。詳細は、[121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)を参照してください。診断変数のみを構成するには、次のプロンプトが表示されるまで各プロンプトで Return を押します。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters?
```

詳細は、[125 ページの「診断制御変数」](#)を参照してください。

Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定

システムコントローラのシリアル管理 (SER MGT) ポートは、外部端末またはその他の ASCII デバイスとの通信に常に使用できます。デフォルトでは、ALOM CMT は Ethernet ネットワーク管理 (NET MGT) ポートを使用して、DHCP によってネットワーク情報を取得し、SSH 接続を受け入れるようにも構成されています。必要に応じて、システムコントローラの NET MGT ポートを再構成するか、使用不可にすることができます。

NET MGT ポートは、標準の RJ-45 コネクタに対応しています。

注 – NET MGT ポートに端末デバイスを接続する場合は、サーバーを 10M ビットネットワークまたは 100M ビットネットワークに接続する必要があります。ALOM CMT では、1G ビットネットワークはサポートされていません。

NET MGT ポートを再構成または使用不可にするには、ネットワークインタフェース変数の値を指定する必要があります。詳細は、[123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)を参照してください。

これらの変数に値を指定するには、次の 2 つの方法があります。

- `sc>` プロンプトから `setupsc` スクリプトを実行します。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。
- `sc>` プロンプトから `setsc` コマンドを使用して、各変数に値を設定します。詳細は、[86 ページの「setsc」](#)を参照してください。

▼ ネットワークインタフェース変数を構成する

1. `sc>` プロンプトで、`setupsc` を入力します。
2. `y` を入力して、ネットワークインタフェース変数を設定することを確定します。
`setupsc` スクリプトによって、次のプロンプトが返されます。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

3. ネットワークインタフェースを有効にするには、`y` を入力するか、Return を押します。無効にするには `n` を入力します。
これにより、`if_network` 変数の値が設定されます。詳細は、[133 ページの「if_network」](#) を参照してください。
4. スクリプトの対話型の質問に答えます。
スクリプトによって、次の変数の値の設定を求めるプロンプトが表示されます。
 - `if_connection` - [130 ページの「if_connection」](#) を参照
 - `netsc_dhcp` - [141 ページの「netsc_dhcp」](#) を参照
 - `netsc_ipaddr` - [142 ページの「netsc_ipaddr」](#) を参照
 - `netsc_ipnetmask` - [142 ページの「netsc_ipaddr」](#) を参照
 - `netsc_ipgateway` - [143 ページの「netsc_ipgateway」](#) を参照
5. ネットワークインタフェース変数の設定が終了したら、`Ctrl-Z` を押して変更を保存し、`setupsc` スクリプトを終了します。
必要に応じて、すべての ALOM CMT 構成変数の設定を終了できます。
ネットワーク構成を使用する前に、システムコントローラをリセットして ALOM CMT を再起動する必要があります。詳細は、[34 ページの「ALOM CMT を再起動する」](#) を参照してください。

▼ ALOM CMT を再起動する

- `sc>` プロンプトで、`resetsc` コマンドを入力します。
詳細は、[79 ページの「resetsc」](#) を参照してください。

setsc コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定

sc> プロンプトから setsc コマンドを使用すると、ネットワークインタフェース変数の値を設定できます。

- 設定する変数ごとにこのコマンドを 1 回実行します。

次に例を示します。

```
sc> setsc if_network true
sc> setsc netsc_ipaddr 123.123.123.123
sc> setsc if_connection ssh
```

次の各変数に対して値を指定するか、デフォルト値を使用します。

- if_connection - 130 ページの「if_connection」を参照
- if_network - 133 ページの「if_network」を参照
- netsc_dhcp - 141 ページの「netsc_dhcp」を参照
- netsc_ipaddr - 142 ページの「netsc_ipaddr」を参照
- netsc_ipnetmask - 145 ページの「netsc_ipnetmask」を参照
- netsc_ipgateway - 143 ページの「netsc_ipgateway」を参照

ALOM CMT ユーザーアカウントの追加

この節では、ALOM CMT ユーザーアカウントの追加手順について説明します。

注 - ALOM CMT には、最大で 15 の一意のユーザーアカウントを追加できます。

▼ ALOM CMT ユーザーアカウントを追加する

1. `sc>` プロンプトで、ユーザーに割り当てるユーザー名を指定して `useradd` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> useradd joeuser
```

詳細は、[114 ページの「useradd」](#) を参照してください。

2. アカウントにパスワードを割り当てるには、アカウントに割り当てたユーザー名を指定して `userpassword` コマンドを入力します。

`userpassword` コマンドの詳細は、[116 ページの「userpassword」](#) を参照してください。ALOM CMT によって、パスワードの指定および確認を求めるプロンプトが表示されます。ALOM CMT では、パスワードは画面に表示されません。次に例を示します。

```
sc> userpassword joeuser
New password:
Re-enter new password:
```

注 – ユーザーパスワードには、一定の制限があります。割り当てるパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。詳細は、[72 ページの「パスワードの制限」](#) を参照してください。

3. アカウントにアクセス権を割り当てるには、アカウントに割り当てたユーザー名およびユーザーに与えるアクセス権レベルを指定して `userperm` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> userperm joeuser cr
```

詳細は、[117 ページの「userperm」](#) または [117 ページの「アクセス権レベル」](#) を参照してください。

▼ ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示する

また、1人の ALOM CMT ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示したり、すべての ALOM CMT ユーザーアカウントの情報を表示したりすることもできます。

- 1人の ALOM CMT ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示するには、`sc>` プロンプトで、割り当てられたユーザー名を指定して `usershow` コマンドを入力します。

次に例を示します。

Username	Permissions	Password
joeuser	--cr	Assigned

詳細は、[119 ページの「usershow」](#) を参照してください。

- ALOM CMT のユーザーアカウント、アクセス権、およびパスワードの状態のリストを表示するには、`sc>` プロンプトで `usershow` を入力します。

次に例を示します。

Username	Permissions	Password
admin	cuar	Assigned
wwilson	--cr	none
joeuser	--cr	Assigned

ALOM CMT ユーザーアカウントの削除

ALOM CMT ユーザーアカウントを削除するには、`userdel` コマンドを使用します。

注 - デフォルトの `admin` アカウントを ALOM CMT から削除することはできません。

▼ SC> プロンプトから ALOM CMT ユーザーアカウントを削除する

- sc> プロンプトで、削除するアカウントのユーザー名を指定して `userdel` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> userdel joeuser
Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? y
sc>
```

アカウントのパスワードの変更

次の手順に従って、自分のパスワードまたは別のユーザーのパスワードを変更できます。

▼ 自分の ALOM CMT パスワードを変更する

sc> プロンプトから自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更できます。自分のパスワードを変更する場合、アクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> password
```

このコマンドを実行すると、ALOM CMT によって現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを正しく入力すると、新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが 2 回表示されます。次に例を示します。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```


▼ 別のユーザーの ALOM CMT パスワードを変更する

注 – 別のユーザーのパスワードを変更するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。詳細は、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、userpassword コマンドを実行します。
詳細は、[116 ページの「userpassword」](#)を参照してください。

警告メッセージの送受信

ALOM CMT をカスタマイズして、イベントの発生時に電子メールによる警告を複数の電子メールアドレスに送信できます。どのイベントレベルで電子メールによる警告を送信するかを、ユーザーごとに指定できます。

警告には、次の 3 つのレベルがあります。

- クリティカル
- メジャー
- マイナー

注 – 電子メールによる警告は最大 8 ユーザーに対して設定できます。

▼ 電子メールによる警告を設定する

1. ALOM がシステムコントローラの Ethernet ネットワーク管理ポート (NET MGT) を使用するように設定されており、ネットワークインタフェース変数が設定されていることを確認します。

詳細は、[33 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」](#)を参照してください。

2. if_emailalerts 変数を true に設定します。

詳細は、[131 ページの「if_emailalerts」](#)を参照してください。

3. mgt_mailhost 変数の値を設定して、ネットワーク上の 1 つまたは 2 つのメールホストを指定します。

詳細は、[137 ページの「mgt_mailhost」](#)を参照してください。

4. `mgt_mailalert` 変数の値を設定して、各ユーザーの電子メールアドレスおよび警告レベルを指定します。

詳細は、[135 ページの「mgt_mailalert」](#)を参照してください。

ALOM CMT からの警告の受信

ホストサーバーのコンソールに接続せずに ALOM CMT コマンドシェルを使用する場合、クリティカルレベルまたはメジャーレベルのイベントが検出されると、ALOM CMT から警告メッセージを受信します。警告メッセージは、ALOM CMT コマンドを入力しているときに表示される場合があります。この場合は、コマンドの入力を続けるか、**Ctrl-D** を押して再度コマンドを入力することができます。

次に例を示します。

```
sc> cons  
SC Alert: SYS_FAN at FT0.F0 has Failed  
sc> console
```

第5章

ALOM CMT の障害管理作業

ALOM CMT には、障害管理機能が備わっています。この機能を使用するには、`showfaults` および `clearfault` コマンドを使用します。この章では、次の内容について説明します。

- [41 ページの「障害情報の原因」](#)
 - [42 ページの「障害管理のためのナレッジ記事の入手」](#)
-

障害情報の原因

障害は、なんらかの修正措置が必要であることを示すイベントです。障害は、次の 3 つの原因によって発生する可能性があります。

- 環境条件
- POST によって報告されるハードウェアの問題
- Solaris OS によって報告される実行時の問題

障害によって示される修正措置には、次の 3 種類があります。

- 環境条件の修正。たとえば、障害メッセージによって温度が高すぎるものが報告された場合は、サーバーが設置されている部屋の温度を下げる必要がある場合があります。障害メッセージによって電源装置への電源供給が断続的であることが示される場合は、電源装置の電源コードが完全に差し込まれているかどうかを確認する必要がある場合があります。
- 物理コンポーネントの交換。障害メッセージによって、ハードウェアコンポーネント (ファン、電源装置、DIMM など) に障害が発生していることが示される場合は、そのコンポーネントを交換します。
- www.sun.com/msg でオンライン提供されているナレッジ記事の詳細な手順の実行。

詳細は、42 ページの「障害管理のためのナレッジ記事の入手」を参照してください。

障害管理のためのナレッジ記事の入手

システム障害を効率的に管理するには、www.sun.com のナレッジ記事データベースにアクセスします。

▼ 適切なナレッジ記事を入手する

1. `sc>` プロンプトで、`showfaults` コマンドを実行します。

```
sc> showfaults
ID FRU                               Fault
0 FIOBD                               Host detected fault, MSGID: SUN4V-8000-8Q
1 MB                                   Host detected fault, MSGID: SUN4V-8000-8Q
```

2. `showfaults` 出力の SUNW-MSG-ID *string* を確認します。
この例では、メッセージ ID 文字列は SUN4V-8000-8Q です。
3. ブラウザで <http://www.sun.com/msg/SUN4V-8000-8Q> にアクセスします。
または、<http://www.sun.com/msg/> にアクセスし、Web ページ <http://www.sun.com/msg/> の検索ウィンドウに SUNW-MSG-ID の SUN4V-8000-8Q を入力します。
4. Web サイト www.sun.com/msg で提供されている記事を読み、その指示に従います。
たとえば、ナレッジ記事では次のようにアドバイスされることがあります。
 - 指定されたパッチのインストール、および `clearfault` コマンドの実行。
 - より詳細な診断の実行。
 - 障害が発生したハードウェアコンポーネントの交換。

第6章

Simple Network Management Protocol (SNMP) の使用

この章では、SNMP の使用方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 43 ページの「SNMP の概要」
- 44 ページの「SNMP 管理情報ベースファイル」
- 45 ページの「MIB の統合」
- 45 ページの「SNMP メッセージ」
- 46 ページの「ALOM CMT および SNMP」

SNMP の概要

サーバーは、SNMP (ネットワーク管理用プロトコルの一種。Simple Network Management Protocol の略) インタフェースのバージョン 1 および 2c をサポートしています。SNMP は、ネットワークおよびネットワークに接続されたデバイスまたはノードの管理を可能にするオープンテクノロジーです。SNMP メッセージは、User Datagram Protocol (UDP) を使用する IP を介して送信されます。SNMP をサポートするどの管理アプリケーションでも、サーバーを管理できます。

SNMP の動作

SNMP を使用するには、ネットワーク管理ステーションと管理対象ノード (ここでは、サーバー内のシステムコントローラ) の 2 つのコンポーネントが必要です。ネットワーク管理ステーションは、管理対象ノードを監視および制御する管理アプリケーションのホストになります。

管理対象ノードは、管理ステーションからの要求を実行する SNMP 管理エージェントをホストする、サーバー、ルータ、ハブなどの多くのデバイスです。管理ステーションは管理エージェントにポーリングし、クエリーを使用して適切な情報を得ることでノードを監視します。管理対象ノードは、トラップの形式で、非要請ステータス情報を管理ステーションに提供することもできます。SNMP は、管理ステーションとエージェント間で管理情報を通信するために使用されるプロトコルです。

SNMP エージェントはシステムコントローラにプリインストールされて動作するため、サーバーのすべての SNMP 管理は ALOM CMT を介して行われることとなります。この機能を利用するには、使用しているオペレーティングシステムに SNMP クライアントアプリケーションが必要です。詳細は、使用しているオペレーティングシステムのベンダーにお問い合わせください。

システムコントローラの SNMP エージェントは、インベントリ管理と、センサーおよびシステムの状態監視の機能を提供します。

SNMP 管理情報ベースファイル

SNMP ソリューションの基本コンポーネントは、管理情報ベース (Management Information Base、MIB) です。MIB は、管理対象ノードの利用可能な情報と、その情報が保存されている場所を記述したテキストファイルです。管理ステーションが管理対象ノードの情報を要求すると、エージェントがその要求を受信して、MIB から適切な情報を取得します。ALOM CMT は、管理情報ベース (MIB) ファイルの次の SNMP クラスをサポートします。これらの製品固有の MIB ファイルを、プラットフォームにダウンロードしてインストールしてください。

- RFC1213 MIB のシステムグループと SNMP グループ
- SNMP-FRAMEWORK-MIB
- SNMP-USER-BASED-MIB
- SNMP-MPD-MIB
- ENTITY-MIB
- SUN-PLATFORM-MIB

MIB の統合

MIB を使用して、サーバーの管理および監視機能を SNMP 管理コンソールに統合します。MIB ブランチは、プライベートエンタープライズ MIB で、MIB オブジェクトの iso(1).org (3). dod (6). internet (1). private (4). enterprises (1). sun (42). products (2) にあります。

システムコントローラ上の SNMP エージェントは、標準の SNMP ポート (161) を使用します。

SNMP メッセージ

SNMP はプロトコルであり、オペレーティングシステムではないため、SNMP メッセージを使用するにはある種のアプリケーションが必要です。使用している SNMP 管理ソフトウェアが、この機能を提供する場合があります。また、次の URL で入手できる net-SNMP のような、オープンソースツールを使用することもできます。

<http://net-snmp.sourceforge.net/>

管理ステーションおよびエージェントはどちらも、通信に SNMP メッセージを使用します。管理ステーションは情報を送受信できます。エージェントは要求に回答し、トラップの形式で非要求メッセージを送信できます。管理ステーションおよびエージェントが使用する機能は、次の 5 つです。

- Get (取得)
- GetNext (次を取得)
- GetResponse (応答を取得)
- Set (設定)
- Trap (トラップ)

デフォルトでは、SNMP メッセージにポート 161 が使用され、SNMP トラップの待機にはポート 162 が使用されます。

ALOM CMT および SNMP

システムコントローラには、SNMP 管理アプリケーションへのトラップ送信をサポートする、SNMP エージェントがプリインストールされています。

この機能を使用するには、次の手順を実行する必要があります。

1. プラットフォーム固有の MIB を使用している SNMP 環境に統合します。
2. ALOM CMT で SNMP を有効にします。デフォルトでは、SNMP は ALOM CMT で無効になっています。
3. 使用するサーバーを、管理ステーションに示します。
4. 特定のトラップを設定します。

MIB の統合

ENTITY-MIB および SUN-PLATFORM-MIB を SNMP 管理アプリケーションにロードします。

SNMP 環境へのサーバーの追加

SNMP 管理アプリケーションを使用して、管理対象ノードとしてサーバーを追加します。ALOM CMT の読み取り専用コミュニティ文字列は、public に設定されているため、変更することはできません。ALOM CMT では、SNMP セットを使用する書き込みアクセスは許可されません。

詳細は、使用している SNMP 管理アプリケーションのマニュアルを参照してください。

SNMP トラップの受信の設定

ALOM CMT でトラップを設定する方法については、[139 ページの「mgt_snmptraps」](#) および [140 ページの「mgt_traphost」](#) を参照してください。

トラップは、コミュニティ文字列の public とともに送信されます。

第7章

ALOM CMT コマンドシェルの使用

この章は、次の節で構成されています。

- [47 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」](#)
 - [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
 - [53 ページの「ALOM CMT シェルコマンドの説明」](#)
-

ALOM CMT コマンドシェルの概要

ALOM CMT コマンドシェルは、単純なコマンド行インタフェース (CLI) です。ALOM CMT コマンドシェルでは、ホストサーバーを管理、診断、または制御できます。また、ALOM CMT を設定および管理できます。

sc> プロンプトが表示されている場合は、ALOM CMT コマンドシェルを使用しています。ALOM CMT では、サーバーごとに合計 8 つの並行 Telnet セッション、および 1 つのシリアルセッションがサポートされています。つまり、一度に 9 つのコマンドシェル操作を実行できます。

ALOM CMT アカウントにログインすると、システムコントローラシェルプロンプト (sc>) が表示され、ALOM CMT シェルコマンドを入力できます。詳細は、[26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」](#) および [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#) を参照してください。

コマンドオプションの入力

使用するコマンドに複数のオプションがある場合は、次の例に示すように、オプションを個別に入力することも、まとめて入力することもできます。次の 2 つのコマンドは同一です。

```
SC> poweroff -f -y
SC> poweroff -fy
```

関連情報

- [162 ページの「ALOM CMT シェルエラーメッセージ」](#)
- [26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」](#)

ALOM CMT シェルコマンド

次の表に、ALOM CMT シェルコマンドとその機能の概要を示します。

表 7-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト

CLI コマンド	概要	説明
構成コマンド		
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	72 ページの「password」
restartssh [-y]	ssh-keygen コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバーを再起動します。	80 ページの「restartssh」
setdate [[mddd]HHMM mdddHHMM[cc]yy][.SS]	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	81 ページの「setdate」
setdefaults [-y] [-a]	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの管理アカウントのみ) にリセットされます。	82 ページの「setdefaults」
setkeyswitch [normal stby diag locked] [-y]	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバーの電源が切断されます。ホストサーバーの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。-y フラグを設定すると、確認に対して yes が選択されます。	84 ページの「setkeyswitch」

表 7-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
setsc [<i>param</i>] [<i>value</i>]	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	86 ページの「setsc」
setupsc	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	87 ページの「setupsc」
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	108 ページの「showplatform」
showfru [-g <i>lines</i>] [-s -d] [<i>FRU</i>]	ホストサーバー内の現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。	98 ページの「showfru」
showusers [-g <i>lines</i>]	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド who の表示書式と類似しています。-g オプションを指定すると、 <i>lines</i> で指定した行数を表示するたびに表示を一時停止します。	112 ページの「showusers」
showhost [<i>version</i>]	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。	102 ページの「showhost」
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	103 ページの「showkeyswitch」
showsc [-v] [<i>param</i>]	現在の非揮発性のランダムアクセスメモリー (Non-Volatile Random-Access Memory、NVRAM) の構成パラメータを表示します。完全な情報を表示するには、-v オプションを使用する必要があります。	109 ページの「showsc」
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	90 ページの「showdate」
ssh-keygen [-l -r] -t {rsa dsa}	Secure Shell (SSH) ホスト鍵を生成し、ホスト鍵フィンガープリントを SC に表示します。	113 ページの「ssh-keygen」
usershow [<i>username</i>]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	119 ページの「usershow」
useradd [<i>username</i>]	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	114 ページの「useradd」
userdel [-y] [<i>username</i>]	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	115 ページの「userdel」
userpassword [<i>username</i>]	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	116 ページの「userpassword」

表 7-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
userperm [username] [c] [u] [a] [r]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	117 ページの 「userperm」
ログコマンド		
showlogs [-b lines -e lines -v] [-g lines] [-p logtype [r p]]	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。 -p オプションを指定すると、RAM イベントログ (<i>logtype r</i>) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype p</i>) のエントリのみを表示するかを選択できます。	104 ページの 「showlogs」
consolehistory [-b lines -e lines -v] [-g lines] [boot run]	ホストサーバーコンソールの出力バッファーを表示します。 -v オプションを指定すると、指定したログのすべての内容が表示されます。	61 ページの 「consolehistory」
状態コマンドおよび制御コマンド		
showenvironment	ホストサーバーの環境状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態があります。	91 ページの 「showenvironment」
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。 -v オプションを指定すると、DHCP サーバーの情報などのネットワークに関する追加情報が表示されます。	107 ページの 「shownetwork」
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。 -f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	59 ページの「console」
break [-D] [-y] [-c]	ホストサーバー上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	55 ページの「break」
bootmode [normal] [reset_nvram] [config=configname] [bootscript=string]	ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	53 ページの「bootmode」
flashupdate -s IPaddr - f pathname [-v]	ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。	67 ページの 「flashupdate」
reset [-y] [-c]	ホストサーバーでハードウェアリセットを生成します。 -y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	78 ページの「reset」

表 7-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
<code>powercycle [-y] [-f]</code>	<code>poweroff</code> のあとに <code>poweron</code> を実行します。-f オプションを指定すると、 <code>poweroff</code> が強制的に即時に実行されます。-f オプションを指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	73 ページの「 <code>powercycle</code> 」
<code>poweroff [-y] [-f]</code>	ホストサーバーの主電源を切ります。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。ALOM CMT は、正常なサーバーの停止を試行します。-f オプションを指定すると、即時停止が強制的に行われます。	73 ページの「 <code>poweroff</code> 」
<code>poweron [-c] [FRU]</code>	ホストサーバーまたは FRU の主電源を入れます。	75 ページの「 <code>poweron</code> 」
<code>setlocator [on/off]</code>	サーバーのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えます。	85 ページの「 <code>setlocator</code> 」
<code>showfaults [-v]</code>	現在検出されているシステム障害を表示します。	97 ページの「 <code>showfaults</code> 」
<code>clearfault UUID</code>	手動でシステム障害を修復します。	56 ページの「 <code>clearfault</code> 」
<code>showlocator</code>	ロケータ LED の現在の状態がオンまたはオフのいずれであるかを表示します。	103 ページの「 <code>showlocator</code> 」
FRU コマンド		
<code>setfru -c data</code>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	84 ページの「 <code>setfru</code> 」
<code>showfru [-g lines] [-s -d] [FRU]</code>	ホストサーバー内の FRU に関する情報を表示します。	98 ページの「 <code>showfru</code> 」
<code>removefru [-y] [FRU]</code>	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	76 ページの「 <code>removefru</code> 」
自動システム回復 (Automatic System Recovery, ASR) コマンド		
<code>enablecomponent asr-key</code>	<code>asr-db</code> ブラックリストからコンポーネントを削除します。	65 ページの「 <code>enablecomponent</code> 」
<code>disablecomponent asr-key</code>	<code>asr-db</code> ブラックリストにコンポーネントを追加します。	63 ページの「 <code>disablecomponent</code> 」
<code>showcomponent asr-key</code>	システムコンポーネントおよびそのテスト状態 (ASR 状態) を表示します。	89 ページの「 <code>showcomponent</code> 」
<code>clearasrdb</code>	<code>asr-db</code> ブラックリストからすべてのエントリを削除します。	56 ページの「 <code>clearasrdb</code> 」

表 7-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
その他のコマンド		
<code>help [command]</code>	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	69 ページの「 help 」
<code>resetsc [-y]</code>	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	79 ページの「 resetsc 」
<code>showlogs</code> <code>[-b lines -e lines -v]</code> <code>[-g lines] [-p logtype [r p]]</code>	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (<i>logtype r</i>) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype p</i>) のエントリのみを表示するかを選択できます。	104 ページの「 showlogs 」
<code>usershow [username]</code>	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	119 ページの「 usershow 」
<code>useradd username</code>	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	114 ページの「 useradd 」
<code>userdel [-y] username</code>	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	115 ページの「 userdel 」
<code>userpassword username</code>	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	116 ページの「 userpassword 」
<code>userperm username [c] [u]</code> <code>[a] [r]</code>	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	117 ページの「 userperm 」
<code>logout</code>	ALOM CMT シェルセッションからログアウトします。	71 ページの「 logout 」

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)

ALOM CMT シェルコマンドの説明

以降のページでは、ALOM CMT シェルコマンドについてアルファベット順に詳細に説明します。

bootmode

`bootmode` コマンドを使用すると、ホストサーバーの初期化中またはホストサーバーのリセット後に、ホストサーバーのファームウェアの動作を制御できます。

`bootmode` の `normal` コマンドオプションは、OpenBoot の非揮発性のランダムアクセスメモリー (Non-Volatile Random-Access Memory、NVRAM) 変数の現在の設定を維持したまま、システムコントローラファームウェアのリセットの準備を行います。

`bootmode` の `reset_nvram` コマンドオプションは、OpenBoot NVRAM 変数をデフォルト値に設定します。

▼ `bootmode` コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。詳細は、[117 ページの「userperm」](#) を参照してください。

`bootmode` コマンドでは、このコマンドを実行してから 10 分以内にホストサーバーをリセットする必要があります。poweroff コマンドおよび poweron コマンド、または reset コマンドを 10 分以内に実行しないと、ホストサーバーによって `bootmode` コマンドは無視されます。詳細は、[73 ページの「powercycle」](#)、[75 ページの「poweron」](#)、および [78 ページの「reset」](#) を参照してください。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode reset_nvram
sc> reset
```

▼ bootmode 設定を表示する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode
sc> reset
Bootmode: reset_nvram
Expires WED MAR 05 21:18:33 2003
bootscript="setenv diagswitch? true"
```

bootmode コマンドオプション

bootmode コマンドでは、次のオプションを使用できます。

表 7-2 bootmode コマンドオプション

オプション	説明
normal	次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を維持します。
reset_nvram	次のリセット時に、NVRAM 変数をデフォルト設定に戻します。
config = <i>configname</i>	config オプションには <i>configname</i> 値を指定します。この値は default であるか、Logical Domains ソフトウェアを使用して SC にダウンロードされた名前付き論理ドメイン構成と一致している必要があります。 次に、ldm-set1 と呼ばれる論理ドメイン構成を作成した場合の例を示します。 sc> bootmode config = ldm-set1 起動モードを出荷時のデフォルト構成に戻すには、factory-default を指定します。 次に例を示します。 sc>bootmode config = factory-default
bootscript = <i>string</i>	ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。現在の bootmode 設定には影響を与えません。 <i>string</i> には、最大 64 バイトの長さまで指定できます。bootmode 設定を指定して、同じコマンド内で bootscript を設定できます。 次に例を示します。 sc> bootmode reset_nvram bootscript = "setenv diag-switch? true" SC Alert: SC set bootmode to reset_nvram, will expire 20030305211833 SC Alert: SC set bootscript to "setenv diag-switch? true" サーバーをリセットしたあとに OpenBoot PROM が bootscript に格納されている値を読み取ると、OpenBoot PROM 変数 diag-switch? はユーザーが要求した値 true に設定されます。 注: bootmode bootscript = "" を設定すると、ALOM CMT は bootscript を空にします。

reset_nvram オプションを指定して bootmode コマンドを使用すると、ホストシステムの OpenBoot PROM NVRAM 設定内のすべてのパラメータが出荷時のデフォルト値にリセットされます。10 分以内にサーバーをリセットする必要があります。詳細は、78 ページの「reset」を参照してください。

オプションを指定せずに bootmode コマンドを使用すると、ALOM CMT は現在選択されているモード、およびそのモードの期限が切れる時刻を表示します。

関連情報

- 48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 78 ページの「reset」
- 28 ページの「システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え」

break

break コマンドを使用すると、サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (ok) が表示されます。kmdb デバッガを設定している場合は、break コマンドを使用すると、サーバーはデバッグモードになります。

サーバーでこの機能をサポートしているバージョンの Solaris が動作している場合は、このコマンドを使用して、Solaris OS のパニックコアダンプを強制的に実行することもできます。

システムコンソールが ALOM CMT に接続されていることを確認してください。詳細は、5 ページの「プラットフォーム固有の情報」を参照してください。

▼ break コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、c レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、117 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> break option
```

option には、-D、-y、-c のいずれかを指定するか、またはオプションを指定しません。これらのオプションは、任意の組み合わせで使用できます。相互に排他的なオプションはありません。

break コマンドを入力すると、サーバーに ok プロンプトが表示されます。

break コマンドオプション

break コマンドでは、次のオプションを使用できます。

表 7-3 break コマンドオプション

オプション	説明
-D	管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います (すべてのバージョンの OS でサポートされているとはかぎらない)。
-y	最初に「Are you sure you want to send a break to the system [y/n]?」という確認の質問を表示せずに処理を続行するように、ALOM CMT に指示します。
-c	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [117 ページの「userperm」](#)

clearasrdb

clearasrdb コマンドを使用すると、自動システム回復データベース (asr-db) ブラックリストからすべてのエントリを削除できます。これによって、デバイスが手動または POST のどちらかで使用不可になったかにかかわらず、すべてのデバイスがふたたび使用可能になります。

▼ clearasrdb コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> clearasrdb
```

clearfault

clearfault コマンドを使用すると、システム管理者はホストで報告された障害を手動で修復できます。これにより、showfaults コマンドでこの障害が表示されなくなります。

次の例では、ホストで検出された障害が showfaults コマンドによって特定されています。

```
SC> showfaults
ID FRU                               Fault
0 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID: SUN4U-8000-2S
```

次のように、showfaults コマンドに `-v` (冗長) オプションを指定します。

```
SC> showfaults -v
ID Time                               FRU                               Fault
0 SEP 09 11:09:26 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault,
MSGID:
SUN4U-8000-2S  UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

次のように、引数を指定せずに clearfault コマンドを実行すると、ALOM CMT によって、コマンドの使用法に関する情報が表示されます。

```
SC> clearfault
Error: Invalid command option
Usage: clearfault <UUID>
```

clearfault コマンドには、直前の例に示すように、引数として数値文字列であるユニバーサル固有 ID (Universal Unique Identifier、UUID) を 1 つ指定します。次の例では、clearfault コマンドの引数として UUID を指定しています。

```
SC> clearfault 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
Clearing fault from all indicted FRUs...
Fault cleared.
```

clearfault コマンドが正常に実行されると、次のように、ホストで検出された障害が showfaults コマンドで表示されなくなります。

```
SC> showfaults
No failures found in System
```

注 - 障害は、プロキシとして機能する FRU 経由で間接的に報告される可能性もあります。

次の例では、showfru コマンドによって、SASBP.SEEPROM が、最初の showfaults 出力に表示されている障害の発生したコンポーネント HDD0 のプロキシとして機能していることが示されています。

```
sc> showfaults
      ID FRU                     Fault
      9 HDD0                     Host detected fault, MSGID: SUNW-TEST07
```

showfru コマンドを使用して、イベント状態情報を表示します。

```
sc> showfru SASBP.SEEPROM
...
/Status_EventsR (1 iterations)
/Status_EventsR[0]
/Status_EventsR[0]/UNIX_Timestamp32:    FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_EventsR[0]/Old_Status:          0x00 (OK)
/Status_EventsR[0]/New_Status:          0x10 (PROXIED FAULT)
/Status_EventsR[0]/Initiator:           0xE0 (FM)
/Status_EventsR[0]/Component:           0x20
/Status_EventsR[0]/Message (FM)
/Status_EventsR[0]/FM/fault_diag_time:  0x0000000000000000
/Status_EventsR[0]/FM/diagcode:         SUNW-TEST07
/Status_EventsR[0]/FM/uuid:
66616b65-7575-6964-0000-000000000000
/Status_EventsR[0]/FM/DE_Name:          ALOM-DE
/Status_EventsR[0]/FM/DE_Version:       v1.0
...
SEGMENT: ST
/Status_Proxy1R/
/Status_Proxy1R/UNIX_Timestamp32:  FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_Proxy1R/version:             0x01
/Status_Proxy1R/StatusMap31:
0x070000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32:  FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_CurrentR/status:             0x10 (PROXIED FAULT)
```

障害が発生したコンポーネント (この例では HDD0) を交換したあと、clearfault UUID コマンドを実行して、プロキシとして機能している SEEPROM から障害を削除できます。

console

`console` コマンドを使用すると、コンソールモードを実行して `ALOM CMT` コマンドシェルからシステムコンソールに接続できます。システムコンソールを終了して `ALOM CMT` コマンドシェルに戻るには、`#.` (ハッシュとピリオド) を入力します。

複数のユーザーが `ALOM CMT` からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込み権は一度に 1 人のユーザーのみが持ちます。ほかのユーザーが入力した文字は、すべて無視されます。この状況は書き込みロックと呼ばれており、その他のユーザーセッションには読み取り専用モードでコンソールセッションが表示されます。システムコンソールにアクセスしているユーザーがほかに存在しない場合は、最初にコンソールセッションを実行したユーザーが、コンソールコマンドを実行することによって書き込みロックを自動的に取得します。別のユーザーが書き込みロックを持っている場合は、`-f` オプションを使用すると、強制的にコンソールの書き込みロックを取得できます。この処理により、その他のユーザーの接続は強制的に読み取り専用モードになります。

`ALOM CMT` は、システムコンソールのフローレートを制御して、書き込みロックを保持しているユーザーセッションのフローレートに一致させます。この機能によって、書き込みロックを保持するユーザーセッションでデータが損失されないことが保証されます。ただし、この処理によって、読み取り専用のコンソールアクセス権を持つユーザーセッションのデータが失われる可能性があります。たとえば、書き込みロックを持つユーザーセッションが高速の `NET MGT` ポートを介して接続されており、読み取り側のセッションが低速のシリアル管理 (`SER MGT`) ポートを介して接続されている場合、読み取り側のセッションの容量を超過する速度でコンソールの出力が生成される可能性があります。このようなコンソールデータの損失の可能性を低減するため、コンソールの各読み取り側セッションには 65535 文字のバッファ領域が割り当てられます。

▼ console コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`c` レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#) を参照してください。

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> console option
```

`option` は、必要に応じて使用するオプションです。

注 – 表示される Solaris システムプロンプトは、ホストサーバーのデフォルトの Solaris シェルによって異なります。詳細は、[xxv ページ](#)の「[シェルプロンプトについて](#)」を参照してください。

2. Solaris システムプロンプトから `sc>` プロンプトに戻るには、エスケープ文字シーケンスを入力します。

デフォルトシーケンスは、`#.` (ハッシュとピリオド) です。

セッションに使用中のコンソールがない場合、ALOM CMT は次の情報を表示します。

```
sc> showusers
Username      Connection    Login Time    Client IP Addr  Console
-----
admin         serial        Nov 13 6:19   system
jeff          net-1         Nov 13 6:20   xxx.xxx.xxx.xxx
sc> console
Enter #. to return to ALOM.
%
```

別のセッションに書き込みロックが設定されている場合、ALOM CMT は次の例に示すように、`console` コマンドでは別のメッセージを返します。

```
sc> console
Console session already in use. [view mode]
Enter #. to return to ALOM.
%
```

別のセッションに書き込みロックが設定されている場合に、`-f` オプションを指定して `console` コマンドを使用すると、ALOM CMT は `console` コマンドで次のようなメッセージを返します。

```
sc> console -f
Warning: User <admin> currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue?
[y/n]
```

console コマンドオプション

console コマンドでは、オプション `-f` のみを使用します。このオプションは、ほかのユーザーの書き込みロックを強制的に解放し、自分のコンソールセッションに割り当てます。これにより、ほかのユーザーのコンソールセッションは読み取り専用モードになります。このオプションを使用すると、次のメッセージが返されます。

```
Warning: User username currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue
[y/n]?
```

同時に、書き込みロックが設定されているユーザーは、次のメッセージを受け取りません。

```
Warning: Console connection forced into read-only mode.
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [117 ページの「アクセス権レベル」](#)
- [122 ページの「シリアル管理ポート変数」](#)

consolehistory

consolehistory コマンドを使用すると、ALOM CMT バッファに記録されているシステムコンソールメッセージを表示できます。次のシステムコンソールログを参照できます。

- boot ログ – 最後にリセットしたあとでホストサーバーから受信した POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージが含まれています。
- run ログ – POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージの最新のコンソール出力が含まれています。また、このログには、ホストサーバーのオペレーティングシステムの出力も記録されています。

各バッファには、最大 64K バイトの情報を含めることができます。

ALOM CMT はホストサーバーのリセットを認識すると、Solaris OS が起動し動作中であることがサーバーによって通知されるまで、boot ログバッファに起動情報および初期化データを書き込みます。

▼ consolehistory コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、c レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、117 ページの「[userperm](#)」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> consolehistory logname options
```

logname は、表示するログの名前 (boot または run) です。オプションを指定せずに consolehistory コマンドを入力すると、run ログの末尾の 20 行が返されます。

注 – コンソールログに記録されるタイムスタンプには、サーバーの時刻が反映されています。これらのタイムスタンプには現地時刻が反映されており、ALOM CMT のイベントログでは協定世界時 (UTC) が使用されます。Solaris OS のシステム時刻は ALOM CMT の時刻から完全に独立しています。

consolehistory コマンドオプション

consolehistory コマンドの両方のログでは、次のオプションを使用します。-g オプションは、-b、-e、または -v オプションと組み合わせて使用できます。-g オプションを指定しない場合、画面出力は一時停止しません。

表 7-4 consolehistory コマンドオプション

オプション	説明
-b lines	ログバッファの先頭から表示する行数を指定します。次に例を示します。 consolehistory boot -b 10
-e lines	ログバッファの末尾から表示する行数を指定します。このコマンドの実行中に新しいデータがログに記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 consolehistory run -e 15
-g lines	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに、「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue」というメッセージが表示されます。次に例を示します。 consolehistory run -v -g 5

表 7-4 consolehistory コマンドオプション (続き)

オプション	説明
-v	指定したログのすべての内容を表示します。
boot	boot ログを指定します。
run	run ログを指定します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

disablecomponent

disablecomponent コマンドを使用すると、コンポーネントを asr-db ブラックリストに追加できます。これにより、このコンポーネントはシステム構成から削除されます。パラメータを指定せずに disablecomponent コマンドを使用すると、すべての asr-key が表示されます。

注 – サーバーでは、サーバーの電源を再投入するか、サーバーをリセットするまで、ブラックリストに記載されているコンポーネントが継続して使用されます。

▼ disablecomponent コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> disablecomponent asr-device
```

次に例を示します。

```
sc> disablecomponent MB/CMP0/CH3/R0/D1
sc> showcomponent
Keys:
MB/CMP0/CORE0
...
    MB/CMP0/P0
...
    MB/CMP0/CH0/R0/D0
    MB/CMP0/CH0/R0/D1
    MB/CMP0/CH0/R1/D0
    MB/CMP0/CH0/R1/D1
    MB/CMP0/CH1/R0/D0
    MB/CMP0/CH1/R0/D1
    MB/CMP0/CH1/R1/D0
    MB/CMP0/CH1/R1/D1
    MB/CMP0/CH2/R0/D0
    MB/CMP0/CH2/R0/D1
    MB/CMP0/CH2/R1/D0
    MB/CMP0/CH2/R1/D1
    MB/CMP0/CH3/R0/D0
    MB/CMP0/CH3/R0/D1
    MB/CMP0/CH3/R1/D0
    MB/CMP0/CH3/R1/D1
    IOBD/PCIEa
    IOBD/PCIEb
    PCIX1
    PCIX0
    PCIE2
    PCIE1
    PCIE0
    TTYA

ASR state: Disabled Devices
    MB/CMP0/CH3/R0/D1 : <no reason>
```

enablecomponent

enablecomponent コマンドを使用すると、コンポーネントを **asr-db** ブラックリストから削除できます。これにより、このコンポーネントはシステム構成に戻されます。パラメータを指定せずに enablecomponent コマンドを使用すると、現在ブラックリストに登録されているすべての **asr-key** が表示されます。

注 – サーバーの電源を再投入するか、サーバーをリセットするまで、コンポーネントは使用されません。

▼ enablecomponent コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> enablecomponent asr-device
```

次に例を示します。

```
sc> enablecomponent MB/CMP0/CH3/R0/D1
sc> showcomponent
Keys:
  MB/CMP0/CORE0
  ...
  MB/CMP0/P0
  ...
  MB/CMP0/CH0/R0/D0
  MB/CMP0/CH0/R0/D1
  MB/CMP0/CH0/R1/D0
  MB/CMP0/CH0/R1/D1
  MB/CMP0/CH1/R0/D0
  MB/CMP0/CH1/R0/D1
  MB/CMP0/CH1/R1/D0
  MB/CMP0/CH1/R1/D1
  MB/CMP0/CH2/R0/D0
  MB/CMP0/CH2/R0/D1
  MB/CMP0/CH2/R1/D0
  MB/CMP0/CH2/R1/D1
  MB/CMP0/CH3/R0/D0
  MB/CMP0/CH3/R0/D1
  MB/CMP0/CH3/R1/D0
  MB/CMP0/CH3/R1/D1
  IOBD/PCIEa
  IOBD/PCIEb
  PCIX1
  PCIX0
  PCIE2
  PCIE1
  PCIE0
  TTYA

ASR state: clean
```

flashupdate

flashupdate コマンドを使用すると、指定した場所からすべてのシステムファームウェアを更新できます。コマンドオプションとして入力する値では、ダウンロードするサイトの IP アドレス、およびファームウェアイメージが配置されているパスを指定します。

▼ flashupdate コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

このコマンドを使用するには、次の情報が必要となります。

- ファームウェアイメージをダウンロードする FTP サーバーの IP アドレス
- イメージが格納されているパス
- プロンプトで入力するユーザー名およびパスワード

この情報が不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。手順を開始する前に、仮想キースイッチがロック位置に設定されていないことを確認します。仮想キースイッチの詳細は、[84 ページの「setkeyswitch」](#)を参照してください。

1. sc> プロンプトで、flashupdate コマンドを入力します。

ipaddr をファームウェアイメージが格納されているサーバーの IP アドレスに置き換え、*pathname* をパス名に置き換えます。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname
```

2. プロンプトが表示されたあと、ユーザー名およびパスワードを入力します。

ユーザー名およびパスワードは、ALOM CMT のユーザー名およびパスワードではなく、UNIX または LDAP のユーザー名およびパスワードに基づいています。

ユーザー名およびパスワードを入力すると、ダウンロード処理が続行されます。ダウンロード処理の進行中に、連続したピリオドが画面に表示されます。

ダウンロード処理が終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Update complete. Reset device to use new image.
```

3. resetsc コマンドを入力して、ALOM CMT を再起動します。

詳細は、[79 ページの「resetsc」](#)を参照してください。

次に例を示します。123.45.67.89 を有効な IP アドレスに置き換えます。

```
sc> flashupdate -s 123.45.67.89 -f filename

SC Alert: System poweron is disabled.
Username: username
Password: *****

.....
.....
.....

Update complete. Reset device to use new software.

SC Alert: SC firmware was reloaded
```

flashupdate コマンドオプション

flashupdate コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-5 flashupdate コマンドオプション

オプション	説明
-s <i>ipaddr</i>	<i>ipaddr</i> にあるサーバーからファームウェアイメージをダウンロードするように ALOM CMT に指示します。 <i>ipaddr</i> には、123.456.789.012 などの標準的なドット表記で IP アドレスを指定します。
-f <i>pathname</i>	イメージファイルの場所を ALOM CMT に指示します。 <i>pathname</i> は、イメージファイルの名前を含めたフルディレクトリパスです。
-v	詳細な出力を表示します。このオプションを指定すると、ダウンロード処理の進行状況に関する詳細な情報が表示されます。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

help

help コマンドを使用すると、すべての ALOM CMT コマンドと各コマンドの構文のリストを表示できます。

▼ help コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- 次のいずれかの処理を実行します。
 - 使用可能なすべてのコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc > help
```

- 特定のコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで、help とコマンド名を入力します。

```
sc> help command-name
```

command-name は、特定のコマンド名です。次に例を示します。

```
sc> help poweroff
This command shuts down the managed system to the powered off
state.
sc>
```

- システムコントローラのパラメータのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで、help setsc とパラメータ名を入力します。

```
sc> help setsc parameter
```

parameter は、システムコントローラのパラメータです。次に例を示します。

```
sc> help setsc if_network
if_network

Enables or disables the SC network interface. The default is true.

sc>
```

次の例に、コマンドを指定せずに help を入力した場合に表示される出力を示します。

コード例 7-1 help コマンドの出力例

```
sc> help
Available commands
-----
Power and Reset control commands:
  powercycle [-y] [-f]
  poweroff [-y] [-f]
  poweron [-c] [FRU]
  reset [-y] [-c]
Console commands:
  break [-D] [-y] [-c]
  console [-f]
  consolehistory [-b lines|-e lines|-v] [-g lines] [boot|run]
Boot control commands:
  bootmode [normal|reset_nvram|config="configname"|
  bootscript="string"]
  setkeyswitch [-y] <normal|stby|diag|locked>
  showkeyswitch
Locator LED commands:
  setlocator [on|off]
  showlocator
Status and Fault commands:
  clearasrdb
  clearfault <UUID>
  disablecomponent [asr-key]
  enablecomponent [asr-key]
  removefru [-y] <FRU>
  setfru -c [data]
  showcomponent [asr-key]
  showenvironment
  showfaults [-v]
  showfru [-g lines] [-s|-d] [FRU]
  showlogs [-b lines|-e lines|-v] [-g lines] [-p logtype[r|p]]
  shownetwork [-v]
  showplatform [-v]
ALOM Configuration commands:
  setdate <[mmdd]HHMM | mmddHHMM[cc]yy[.SS]>
  setsc [param] [value]
  setupsc
  showdate
  showhost [version]
```


コード例 7-1 help コマンドの出力例 (続き)

```
showsc [-v] [param]
ALOM Administrative commands:
flashupdate <-s IPaddr -f pathname> [-v]
help [command]
logout
password
resetsc [-y]
restartssh [-y]
setdefaults [-y] [-a]
ssh-keygen [-l|-r] <-t {rsa|dsa}>
showusers [-g lines]
useradd <username>
userdel [-y] <username>
userpassword <username>
userperm <username> [c][u][a][r]
usershow [username]
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

logout

logout コマンドを使用すると、ALOM CMT セッションを終了し、シリアル接続またはネットワーク接続を終了できます。

▼ logout コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> logout
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

password

password コマンドを使用すると、現在ログインしているアカウントの ALOM CMT パスワードを変更できます。このコマンドは、UNIX の passwd(1) コマンドと同様に機能します。

▼ password コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用すると、自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更できます。このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。管理者がユーザーアカウントのパスワードを変更する場合は、userpassword コマンドを使用します。詳細は、[116 ページの「userpassword」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、password を入力します。

このコマンドを実行すると、ALOM CMT によって現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを正しく入力すると、新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが 2 回表示されます。

次に例を示します。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには、次の制限があります。

- 6～8 文字にする必要があります。
- 2 つ以上の英字 (大文字または小文字) および 1 つ以上の数値または特殊文字が含まれている必要があります。
- ログイン名、ログイン名の逆、またはログイン名の文字を並び替えたものとは異なる必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと 3 字以上異なっている必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

powercycle

ホストシステムで電源の再投入を実行します。powercycle は、poweroff に続けて poweron を実行するように定義されています。ホストシステムで poweroff コマンドが実行され、指定した秒数を待機したあとで poweron コマンドが実行されます。

▼ powercycle コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> powercycle [-y] [-f]
```

表 7-6 powercycle コマンドオプション

オプション	説明
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。
-f	ホストの状態に関係なく、強制的に即時停止を行います。なんらかの理由により Solaris OS の停止が失敗した場合は、このオプションを使用して、システムの電源を強制的に即時に切ってください。このコマンドでは、システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われず、処理した内容が失われる場合があります。このオプションでは、システムの正常な停止またはファイルシステムの同期化は行われません。

poweroff

poweroff コマンドを使用すると、ホストサーバーの電源を切ってスタンバイモードにすることができます。サーバーの電源がすでに切断されている場合、このコマンドは機能しません。ただし、ALOM CMT はサーバーのスタンバイ電力を使用するため、サーバーの電源が切断されている場合でも ALOM CMT は機能し続けます。サーバーがスタンバイモードのときには、一部の環境情報は参照できません。

▼ poweroff コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`r` レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページ](#)の「`userperm`」を参照してください。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> poweroff options
```

option は、必要に応じて使用するオプションです。

オプションを指定せずに `poweroff` コマンドを入力すると、Solaris OS の正常な停止が開始されます。これは、Solaris コマンドの `shutdown`、`init`、または `uadmin` と類似しています。

`poweroff` コマンドでシステムを完全に停止するまで最大 65 秒かかる場合があります。これは、正常な停止が完了するまで ALOM CMT が待機してからシステムの電源を切るためです。

注 – `poweroff` コマンドでシステムを停止したあとで、ALOM CMT は次のメッセージを表示します。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

poweroff コマンドオプション

poweroff コマンドでは、次のオプションを使用します。これら 2 つのオプションは一緒に使用できます。詳細は、[48 ページの「コマンドオプションの入力」](#)を参照してください。

表 7-7 poweroff コマンドオプション

オプション	説明
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。
-f	ホストの状態に関係なく、強制的に即時停止を行います。なんらかの理由により Solaris OS の停止が失敗した場合は、このオプションを使用して、システムの電源を強制的に即時に切ってください。このコマンドでは、システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われず、処理した内容が失われる場合があります。このオプションでは、システムの正常な停止またはファイルシステムの同期化は行われません。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [53 ページの「bootmode」](#)
- [75 ページの「poweron」](#)

poweron

poweron コマンドを使用すると、サーバーの電源を入れることができます。ホストサーバーの電源がすでに入っている場合、このコマンドは機能しません。

▼ poweron コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> poweron [fru] [-c]
```

注 – poweroff コマンドを使用してホストサーバーの電源を切ると、ALOM CMT は次のメッセージを表示します。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

poweron コマンドオプション

poweron コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-8 poweron コマンドオプション

オプション	説明
<i>fru</i>	FRU の電源は個別に入れることはできません。このオプションは、将来使用できるようになる予定です。
-c	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [53 ページの「bootmode」](#)
- [73 ページの「poweroff」](#)
- [76 ページの「removefru」](#)

removefru

removefru コマンドを使用すると、現場交換可能ユニット (FRU) を取り外すための準備を行うことができます。

▼ removefru コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> removefru fru
```

fru は、取り外すための準備を行う FRU の名前です。

たとえば、電源装置 0 を取り外すための準備を行うには、次のコマンドを入力します。

```
sc> removefru PS0
```

注 – SPARC Enterprise T1000 サーバーでは、PS0 を指定して removefru コマンドを実行しようとする、次のエラーメッセージが生成されます。

```
sc> removefru PS0  
Could not remove <PS0>.  
System only has one power supply.
```

removefru コマンドオプション

removefru コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-9 removefru コマンドオプション

オプション	説明
<i>fru</i>	取り外すための準備を行う FRU の名前
-y	確認の質問を表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

fru オプションを指定すると、指定した FRU の取り外しを準備できます。FRU の取り外しの準備ができているかどうかを示すメッセージが表示されます。

表 7-10 removefru の FRU 値

値	説明
PS0	ホストサーバーの電源装置 0 の取り外す準備をします。
PS1	ホストサーバーの電源装置 1 の取り外す準備をします。

reset

reset コマンドを使用すると、ホストサーバーを強制的に即時にリセットできます。サーバーは、bootmode コマンドで必要に応じて指定したオプションを使用して再起動します。詳細は、53 ページの「bootmode」を参照してください。reset ではシステムの正常な停止を行わないため、データが失われる可能性があります。できるかぎり、Solaris OS からサーバーをリセットしてください。

OpenBoot PROM 変数 auto-boot? が false に設定されている場合は、サーバーで Solaris OS を起動して処理を再開する必要があることがあります。

▼ reset コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、117 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> reset options
```

reset コマンドオプション

reset コマンドでは、次の 2 つのオプションを使用します。これら 2 つのオプションは一緒に使用できます。詳細は、47 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」を参照してください。

表 7-11 reset コマンドオプション

オプション	説明
-c	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

次に例を示します。

```
sc> reset -c
Are you sure you want to reset the system [y/n]? n
```



```
SC> reset -yc
Enter #. to return to ALOM.

SC Alert: SC Request to Reset Host.
```

```
SC> reset -c
Are you sure you want to reset the system [y/n]? y
Enter #. to return to ALOM.

SC Alert: SC Request to Reset Host.
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [117 ページの「アクセス権レベル」](#)

resetsc

resetsc コマンドを使用すると、システムコントローラのハードリセットを実行できます。これにより、現在のすべての ALOM CMT セッションが終了します。

▼ resetsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

1. リセットを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
sc> resetsc option
```

option には、必要に応じて *-y* を指定します。
次のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to reset the SC [y/n]?
```

2. 処理を続行するには *y* を、システムコントローラをリセットせずに終了するには *n* を入力します。

resetsc コマンドオプション

resetsc コマンドでは、オプション `-y` のみを使用します。

`-y` オプションを使用すると、最初にリセットするかどうかの確認なしでリセットが
続行されます。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [117 ページの「アクセス権レベル」](#)

restartssh

ssh-keygen コマンドを使用して新しいホスト鍵を生成したあと、restartssh コマンドを使用して SSH サーバーを再起動します。この処理によって、サーバーの専用データ構造がメモリーにふたたび読み込まれます。

▼ restartssh コマンドを使用する

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> restartssh option
```

options には、表 7-12 に示すオプションを指定します。

コマンドオプション

restartssh コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-12 restartssh コマンドオプション

オプション	説明
<code>-y</code>	確認のプロンプトを表示しません。

関連情報

- [113 ページの「ssh-keygen」](#)

setdate

setdate コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT の日付および時刻を設定できます。

サーバーの起動時または実行中に setdate コマンドを使用すると、次のエラーメッセージが返されます。

```
sc> setdate 1200  
Error: Unable to set clock while managed system is running.
```

注 – setdate コマンドは、サーバーの電源が切断されている場合にのみ機能しません。

▼ setdate コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setdate mmdhHMMccyy.SS
```

このコマンドは、月、日、時、分、世紀、年、および秒の設定を受け入れます。月、日、および年を省略すると、現在の値がデフォルトとして適用されます。また、このとき、世紀の値および秒の値を省略することもできます。

注 – サーバーでは現地時刻が使用されますが、ALOM CMT では協定世界時 (UTC) が使用されます。ALOM CMT は、タイムゾーンの変換または夏時間の変更には対応していません。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

次の例では、現在の年の 9 月 12 日午後 9 時 45 分 (協定世界時) に時刻を設定します。

```
sc> setdate 09122145  
MON SEP 12 21:45:00 2005 UTC
```

次の例では、現在の月、日、および年の午後 9 時 45 分 (協定世界時) に時刻を設定します。

```
SC> setdate 2145
MON SEP 12 21:45:00 2005 UTC
```

setdate コマンドオプション

setdate コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-13 setdate コマンドオプション

オプション	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分
.SS	秒
cc	世紀 (年の上 2 桁)
yy	年 (年の下 2 桁)

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

setdefaults

setdefaults コマンドを使用すると、すべての ALOM CMT 構成変数を出荷時のデフォルト値に戻すことができます。-a オプションを指定すると、ALOM CMT 構成とすべてのユーザー情報が出荷時のデフォルト値に戻されます。

▼ setdefaults コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、117 ページの「[userperm](#)」を参照してください。アクセス権レベルのコマンドを実行するには、パスワードを設定する必要があります。

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setdefaults options
```

`options` は、必要に応じて使用するオプションです。

次に例を示します。

```
sc> setdefaults  
Are you sure you want to reset the SC configuration [y/n]? y
```

```
sc> setdefaults -a  
Are you sure you want to reset the SC configuration and users  
[y/n]? y
```

2. `resetsc` コマンドを入力して、ALOM を再起動します。
ALOM CMT を再起動すると、出荷時のデフォルト値が使用されます。

setdefaults コマンドオプション

`setdefaults` コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-14 setdefaults コマンドオプション

オプション	説明
-a	すべての ALOM CMT 構成変数を出荷時のデフォルトに設定し、ユーザーアカウントおよび構成情報もクリアします。パスワードが設定されていない admin ユーザーアカウントのみがシステムに残ります。
-y	最初に「Are you sure you want to reset the SC configuration?」という確認の質問を表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

setfru

setfru コマンドを使用すると、すべての FRU PROM に情報を格納できます。

▼ setfru コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setfru -c data
```

-c オプションを単独で使用すると、すべての FRU PROM から以前のデータが消去されます。この情報は、showfru コマンドを使用して表示できます。詳細は、[98 ページの「showfru」](#)を参照してください。

setkeyswitch

setkeyswitch コマンドを使用すると、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

▼ setkeyswitch コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。アクセス権レベルのコマンドを実行するには、パスワードを設定する必要があります。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setkeyswitch option
```

setkeyswitch コマンドオプション

setkeyswitch コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-15 setkeyswitch コマンドオプション

オプション	説明
normal	システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できます。
stby	システムは、システム自体の電源を入れることができません。
diag	システムは、診断変数の事前設定値を使用して全体の障害カバレッジを表示し、システム自体の電源を入れることができます (126 ページの「構成変数の説明」を参照)。このオプションは、設定した診断変数の値よりも優先されます。ユーザーが設定可能な診断制御変数については、125 ページの「診断制御変数」を参照してください。
locked	システムは、システム自体の電源を入れることができますが、フラッシュデバイスの更新または break コマンドの使用は許可されません。
-y	仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバーの電源が切断されます。ホストサーバーの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。-y フラグを設定すると、確認に対して yes が選択されます。*

* サーバーの電源を切るには r アクセス権が必要です。一方、setkeyswitch コマンドでは a アクセス権が必要です。

setlocator

setlocator コマンドを使用すると、ホストサーバーのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えることができます。ロケータ LED の詳細は、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

▼ setlocator コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setlocator option
```

option は、on または off のいずれかです。

次に例を示します。

```
sc> setlocator on
sc> setlocator off
```

ロケータ LED の状態を表示するには、showlocator コマンドを使用します。詳細は、[103 ページの「showlocator」](#)を参照してください。

setlocator コマンドオプション

setlocator コマンドでは、on および off の 2 つのオプションを使用します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [103 ページの「showlocator」](#)

setsc

ALOM CMT ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされているため、サーバーの電源を入れるとすぐに実行できます。ALOM CMT 構成をカスタマイズする場合は、setupsc コマンドを使用して初期構成を設定します。ALOM CMT の初期構成を設定したあとで設定を更新する必要がある場合は、setsc コマンドを使用します。構成の詳細は、[13 ページの「ALOM CMT の構成手順」](#)を参照してください。setupsc コマンドの詳細は、[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。

▼ setsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

このコマンドを実行する際は、構成表があり、その中に変更する予定の各構成変数の値が記入されていることを確認してください。詳細は、[19 ページの「構成ワークシート」](#) および [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc variable value
```


variable および *value* を構成変数とその変数の値に置き換えます。

次に例を示します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxx は、有効な IP アドレスです。

構成する変数に複数の値が必要な場合は、空白文字で区切って値を入力します。setsc コマンドはコマンドプロンプトだけでなくスクリプトでも使用されるため、変数に値を入力しても情報は返されません。

構成変数を指定せずに setsc を入力すると、構成可能な変数のリストが返されません。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

setupsc

setupsc コマンドを使用すると、ALOM CMT をカスタマイズできます。

このコマンドを実行する場合は、構成ワークシートが存在し、変更する予定の各構成変数に指定されている値に間違いがないことを確認します。詳細は、[19 ページの「構成ワークシート」](#) および [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#) を参照してください。

▼ setupsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#) を参照してください。

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. スクリプトを終了するには、次のいずれかの処理を実行します。

- スクリプトを終了し、行なった変更を保存するには、**Ctrl-Z** を押します。
- 変更を保存せずにスクリプトを終了するには、**Ctrl-C** を押します。
たとえば、スクリプトは次のように開始されます。

```
SC> setupsc  
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to  
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,  
use Ctrl-Z.
```

3. 対話型の質問に答えて、ALOM CMT をカスタマイズします。

スクリプトでは、一連の構成変数を使用可能にするかどうか尋ねられます。詳細は、[121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)を参照してください。

- 一連の変数を使用可能にしてその設定を構成するには、**y** を入力します。
- 括弧内に表示されるデフォルト値を受け入れるには、**Return** を押します。
- 一連の変数を使用不可にして次に進むには、**n** を入力します。

次に例を示します。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

y を入力するか、**Return** を押してデフォルト値を受け入れた場合は、`setupsc` スクリプトによってその変数の値の入力を求めるプロンプトが表示されます。このスクリプトでは、次の種類の変数を設定できます。

- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [124 ページの「ネットワーク管理および通知変数」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)

注 – シリアルインタフェース変数を設定または調整する必要はありません。これらの変数は、ホストサーバーで自動的に設定されます。

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)
- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [19 ページの「構成ワークシート」](#)
- [13 ページの「ALOM CMT の構成」](#)

showcomponent

showcomponent コマンドを使用すると、システムコンポーネントおよびそのテスト状態を表示できます。asr-key を指定すると、そのキーの情報のみが表示されます。指定しない場合は、asr データベース全体が表示されます。-h (ヘルプ) オプションを指定すると、すべての有効な asr-key とその使用状況が表示されます。

▼ showcomponent コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showcomponent
```

次に例を示します。

```
sc> showcomponent
Keys:

    MB/CMP0/P0
    ...
    MB/CMP0/CH0/R0/D0
    MB/CMP0/CH0/R0/D1
    MB/CMP0/CH0/R1/D0
    MB/CMP0/CH0/R1/D1
    MB/CMP0/CH1/R0/D0
    MB/CMP0/CH1/R0/D1
    MB/CMP0/CH1/R1/D0
    MB/CMP0/CH1/R1/D1
    MB/CMP0/CH2/R0/D0
    MB/CMP0/CH2/R0/D1
    MB/CMP0/CH2/R1/D0
    MB/CMP0/CH2/R1/D1
    MB/CMP0/CH3/R0/D0
    MB/CMP0/CH3/R0/D1
    MB/CMP0/CH3/R1/D0
    MB/CMP0/CH3/R1/D1
    IOBD/PCIEa
    IOBD/PCIEb
    PCIX1
    PCIX0
    PCIE2
    PCIE1
    PCIE0
    TTYA

ASR state: clean
```

showdate

`showdate` コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT の日付および時刻を表示できます。

ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

▼ showdate コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showdate
```

次に例を示します。

```
sc> showdate
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

ALOM CMT の日付および時刻を変更するには、setdate コマンドを使用します。詳細は、[81 ページの「setdate」](#)を参照してください。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showenvironment

showenvironment コマンドを使用すると、サーバーの環境状態のスナップショットを表示できます。このコマンドで表示可能な情報には、システムの温度、ハードドライブの状態、電源装置とファンの状態、フロントパネルの LED の状態、電圧センサー、電流センサーなどがあります。出力形式は、UNIX コマンドの prtdiag (1m) と同じです。

▼ showenvironment コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showenvironment
```

サーバーがスタンバイモードの場合は、一部の環境情報が使用できないことがあります。

次に、ホストサーバーの電源が入っている場合の出力例を示します。電源装置やハードドライブの数など、次の例に示す情報の一部は、使用しているシステムとは異なる場合があります。

コード例 7-2 SPARC Enterprise T2000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

```

SC> showenvironment

===== Environmental Status =====

System Temperatures (Temperatures in Celsius):

Sensor           Status  Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
PDB/T_AMB        OK      24   -10    -5     0     45     50     55
MB/T_AMB         OK      28   -10    -5     0     45     50     55
MB/CMP0/T_TCORE OK      44   -10    -5     0     95    100    105
MB/CMP0/T_BCORE OK      44   -10    -5     0     95    100    105
IOBD/IOB/TCORE  OK      43   -10    -5     0     95    100    105
IOBD/T_AMB      OK      29   -10    -5     0     45     50     55

-----
System Indicator Status:
-----
SYS/LOCATE          SYS/SERVICE        SYS/ACT
OFF                 OFF                 ON
-----
SYS/REAR_FAULT     SYS/TEMP_FAULT     SYS/TOP_FAN_FAULT
OFF                 OFF                 OFF
-----

-----
System Disks:
-----
Disk   Status           Service  OK2RM
-----
HDD0   OK                OFF      OFF
HDD1   NOT PRESENT      OFF      OFF
HDD2   NOT PRESENT      OFF      OFF
HDD3   NOT PRESENT      OFF      OFF

-----
Fans Status:
-----
Fans (Speeds Revolution Per Minute):

```

コード例 7-2

SPARC Enterprise T2000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) (続き)

```

Sensor              Status              Speed   Warn   Low
-----
FT0/FM0             OK                  3586   --    1920
FT0/FM1             OK                  3525   --    1920
FT0/FM2             OK                  3650   --    1920
FT2                 OK                  2455   --    1920
-----

Voltage sensors (in Volts):
-----
Sensor              Status              Voltage LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft
-----
MB/V_+1V5           OK                  1.48   1.27   1.35   1.65   1.72
MB/V_VMEML          OK                  1.79   1.53   1.62   1.98   2.07
MB/V_VMEMR          OK                  1.78   1.53   1.62   1.98   2.07
MB/V_VTTTL          OK                  0.89   0.76   0.81   0.99   1.03
MB/V_VTTR           OK                  0.89   0.76   0.81   0.99   1.03
MB/V_+3V3STBY      OK                  3.39   2.80   2.97   3.63   3.79
MB/V_VCORE          OK                  1.31   1.18   1.20   1.39   1.41
IOBD/V_+1V5         OK                  1.48   1.27   1.35   1.65   1.72
IOBD/V_+1V8         OK                  1.79   1.53   1.62   1.98   2.07
IOBD/V_+3V3MAIN    OK                  3.36   2.80   2.97   3.63   3.79
IOBD/V_+3V3STBY    OK                  3.41   2.80   2.97   3.63   3.79
IOBD/V_+1V          OK                  1.11   0.93   0.99   1.21   1.26
IOBD/V_+1V2         OK                  1.17   1.02   1.08   1.32   1.38
IOBD/V_+5V          OK                  5.15   4.25   4.50   5.50   5.75
IOBD/V_-12V         OK                  -12.04 -13.80 -13.20 -10.80 -10.20
IOBD/V_+12V         OK                  12.18   10.20  10.80  13.20  13.80
SC/BAT/V_BAT        OK                  3.04    --    2.25   --    --
-----

System Load (in amps):
-----
Sensor              Status              Load     Warn Shutdown
-----
MB/I_VCORE          OK                  34.640   80.000  88.000
MB/I_VMEML          OK                   7.560   60.000  66.000
MB/I_VMEMR          OK                   6.420   60.000  66.000
-----

Current sensors:
-----

```

コード例 7-2 SPARC Enterprise T2000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) (続き)

```

Sensor                Status
-----
IOBD/I_USB0          OK
IOBD/I_USB1          OK
FIOBD/I_USB          OK

-----
Power Supplies:
-----
Supply  Status          Underspeed  Overtemp   Overvolt   Undervolt  Overcurrent
-----
PS0     OK                  OFF         OFF        OFF        OFF        OFF
PS1     OK                  OFF         OFF        OFF        OFF        OFF

```

次に、ホストサーバーの SPARC Enterprise T1000 の電源が入っている場合の出力例を示します。

コード例 7-3 SPARC Enterprise T1000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

```

SC> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor                Status      Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
-----
MB/T_AMB              OK         26    -10    -5     0     45     50     55
MB/CMP0/T_TCORE      OK         42    -10    -5     0     85     90     95
MB/CMP0/T_BCORE      OK         42    -10    -5     0     85     90     95
MB/IOB/T_CORE        OK         36    -10    -5     0     95    100    105

-----

System Indicator Status:
-----
SYS/LOCATE            SYS/SERVICE      SYS/ACT
OFF                   OFF              ON

-----

Fans (Speeds Revolution Per Minute):
-----

```


コード例 7-3 SPARC Enterprise T1000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) (続き)

```

Sensor              Status              Speed   Warn   Low
-----
FT0/F0              OK                  6653   2240   1920
FT0/F1              OK                  6653   2240   1920
FT0/F2              OK                  6653   2240   1920
FT0/F3              OK                  6547   2240   1920
-----

Voltage sensors (in Volts):
-----
Sensor              Status              Voltage LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft
-----
MB/V_VCORE          OK                  1.31   1.20   1.24   1.36   1.39
MB/V_VMEM           OK                  1.78   1.69   1.72   1.87   1.90
MB/V_VTT            OK                  0.89   0.84   0.86   0.93   0.95
MB/V_+1V2           OK                  1.19   1.09   1.11   1.28   1.30
MB/V_+1V5           OK                  1.49   1.36   1.39   1.60   1.63
MB/V_+2V5           OK                  2.50   2.27   2.32   2.67   2.72
MB/V_+3V3           OK                  3.29   3.06   3.10   3.49   3.53
MB/V_+5V            OK                  5.02   4.55   4.65   5.35   5.45
MB/V_+12V           OK                  12.18  10.92  11.16  12.84  13.08
MB/V_+3V3STBY      OK                  3.31   3.13   3.16   3.53   3.59
-----

System Load (in amps):
-----
Sensor              Status              Load    Warn  Shutdown
-----
MB/I_VCORE          OK                  21.520  80.000  88.000
MB/I_VMEM           OK                  1.740   60.000  66.000
-----

Current sensors:
-----
Sensor              Status
-----
MB/BAT/V_BAT       OK
-----

Power Supplies:
-----

```

コード例 7-3 SPARC Enterprise T1000 サーバーの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) (続き)

Supply	Status	Underspeed	Overtemp	Overvolt	Undervolt	Overcurrent
PS0	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

次に、ホストサーバーの電源が切れている場合の出力例を示します。

コード例 7-4 showenvironment コマンドの出力例 (電源切断時)

```

sc> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor          Status  Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
-----
CPU temperature information cannot be displayed when System power is off.
PDB/T_AMB       OK      24   -10    -5     0     45     50     55

-----
System Indicator Status:
-----
SYS/LOCATE      SYS/SERVICE    SYS/ACT
OFF             OFF             STANDBY BLINK
-----
SYS/REAR_FAULT  SYS/TEMP_FAULT  SYS/TOP_FAN_FAULT
OFF             OFF             OFF
-----

Disk Status information cannot be displayed when System power is off.

Fan Status information cannot be displayed when System power is off.

Voltage Rail Status information cannot be displayed when System power is off.

System Load information cannot be displayed when System power is off.

Current sensor information cannot be displayed when System power is off.

-----
Power Supplies:

```

コード例 7-4 showenvironment コマンドの出力例 (電源切断時) (続き)

Supply	Status	Underspeed	Overtemp	Overvoltage	Undervoltage	Overcurrent
PS0	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PS1	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showfaults

showfaults コマンドを使用すると、現在検出されているシステム障害を表示できます。標準的な出力では、障害 ID、障害が発生した FRU デバイス、および障害メッセージが表示されます。このコマンドを実行すると、POST 結果も表示されます。

showfaults コマンドで `-v` 引数を使用すると、より詳細な出力が表示されます。

▼ showfaults コマンドを使用する

注 - このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showfaults
ID FRU                               Fault
   0 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID: SUN4U-8000-2S
```

`-v` 引数を追加すると、次のように表示されます。

```
sc> showfaults -v
ID Time                               FRU                               Fault
   0 SEP 09 11:02:09 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID:
SUN4U-8000-2S  UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

showfaults 出力で報告される FRU ID を指定して showfru コマンドを使用すると、より詳細な情報を取得できます。

```
sc> showfru MB/CMP0/CH0/R0/D0
/SPD/Timestamp: MON JUN 27 12:00:00 2005
/SPD/Description: DDR2 SDRAM, 512 MB
/SPD/Manufacture Location:
/SPD/Vendor: Micron Technology
/SPD/Vendor Part No: 18HTF6472Y-53EB2
/SPD/Vendor Serial No: 751d9239
SEGMENT: ST
/Platform_Name: Sun-Fire-T1000
/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32: FRI SEP 09 10:28:08 2005
/Status_CurrentR/status: 0x64 (MAINTENANCE REQUIRED, SUSPECT,
DEEMED FAULTY)
/Event_DataR/
/Event_DataR/Initiator: FM
/Event_DataR/Diagcode: SUN4U-8000-2S
/Event_DataR/UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

showfaults コマンドおよび showfru コマンドで報告される診断コード (例: SUN4U-8000-2S) を使用して、次の URL にアクセスできます。

<http://www.sun.com/msg/SUN4U-8000-2S>

障害に関する詳細情報が表示されます。また、次の URL に移動することもできます。

<http://www.sun.com/msg>

その後、「SUNW-MSG-ID」ウィンドウに SUN4U-8000-2S と入力します。

showfru コマンドの詳細は、98 ページの「showfru」を参照してください。障害管理作業の詳細は、第 5 章を参照してください。

showfru

showfru コマンドを使用すると、ホストサーバー内のすべての現場交換可能ユニットのプログラム可能な読み取り専用メモリー (FRU PROM) の現在の状態および障害履歴を表示できます。出力形式は、Solaris OS の prtfru コマンドと同じです。

showfru コマンドオプション

showfru コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-16 showfru コマンドオプション

オプション	説明
-g <i>lines</i>	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに、「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue」というメッセージが表示されます。
-s	システムの FRU に関する静的情報を表示します。値が指定されていない場合は、すべての FRU のデフォルトになります。
-d	システムの FRU に関する動的情報を表示します。値が指定されていない場合は、すべての FRU のデフォルトになります。
FRU	個々の FRU です。

▼ showfru コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showfru argument
```

次に、SPARC Enterprise T2000 サーバーで無効な引数を指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 7-5 SPARC Enterprise T2000 サーバーで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru x
No such FRU_PROM. Valid arguments are:
SC/SEEPROM
IOBD/SEEPROM
MB/SEEPROM
PDB/SEEPROM
FIOBD/SEEPROM
SASBP/SEEPROM
PS0/SEEPROM
PS1/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R1/D0/SEEPROM
```

コード例 7-5 SPARC Enterprise T2000 サーバーで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例 (続き)

```
MB/CMP0/CH0/R1/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH1/R0/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH1/R0/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH1/R1/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH1/R1/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH2/R0/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH2/R0/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH2/R1/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH2/R1/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R0/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R0/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R1/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R1/D1/SEEPR0M
PCIE0      (proxied on IOBD/SEEPR0M)
PCIE1      (proxied on IOBD/SEEPR0M)
PCIE2      (proxied on IOBD/SEEPR0M)
PCIX0      (proxied on IOBD/SEEPR0M)
PCIX1      (proxied on IOBD/SEEPR0M)
SC/BAT     (proxied on SC/SEEPR0M)
PS0        (proxied on PDB/SEEPR0M)
PS1        (proxied on PDB/SEEPR0M)
HDD0       (proxied on SASBP/SEEPR0M)
HDD1       (proxied on SASBP/SEEPR0M)
HDD2       (proxied on SASBP/SEEPR0M)
HDD3       (proxied on SASBP/SEEPR0M)
FT0/FM0    (proxied on FIOBD/SEEPR0M)
FT0/FM1    (proxied on FIOBD/SEEPR0M)
FT0/FM2    (proxied on FIOBD/SEEPR0M)
FT2        (proxied on SASBP/SEEPR0M)
```

次に、SPARC Enterprise T1000 サーバーで無効な引数を指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 7-6 SPARC Enterprise T1000 サーバーで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例

```
SC> showfru x
No such FRU_PROM.  Valid arguments are:
MB/SEEPR0M
PS0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH0/R0/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH0/R1/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH0/R1/D1/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R0/D0/SEEPR0M
MB/CMP0/CH3/R0/D1/SEEPR0M
```

コード例 7-6 SPARC Enterprise T1000 サーバーで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例 (続き)

```
MB/CMP0/CH3/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R1/D1/SEEPROM
...
```

次に、有効な FRU 名および -s を引数として指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 7-7 有効な引数を使用した showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru -s MB
SEGMENT: SD
/ManR
/ManR/UNIX_Timestamp32:      THU OCT 06 14:47:58 2005
/ManR/Description:          ASSY,Sun-Fire-T1000,Motherboard
/ManR/Manufacture Location:  Sriracha,Chonburi,Thailand
/ManR/Sun Part No:          5017302
/ManR/Sun Serial No:        000854
/ManR/Vendor:                Celestica
/ManR/Initial HW Dash Level: 01
/ManR/Initial HW Rev Level: 01
/ManR/Shortname:            T1000_MB
/SpecPartNo:                 885-0504-03
```

次に、プロキシされたコンポーネントの名前を指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 7-8 プロキシされたコンポーネントの名前を引数に使用した showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru SC/BAT
SC/BAT dynamic data proxied on SC/SEEPROM:
SEGMENT: FD
/Status_EventsR (0 iterations)
/Status_Proxy1R/
/Status_Proxy1R/UNIX_Timestamp32: THU JAN 01 00:00:00 1970
/Status_Proxy1R/version:      0x00
/Status_Proxy1R/Status(decoded): 0x00 (OK)
```

デフォルトでは、showfru コマンドの出力は多量になる場合があります。次に例を示します。

```
sc> showfru MB
...
/Status_EventsR[2]
/Status_EventsR[2]/UNIX_Timestamp32:      FRI MAR 03 18:31:06 2006
/Status_EventsR[2]/Old_Status:            0x00 (OK)
/Status_EventsR[2]/New_Status:            0x64 (MAINTENANCE
REQUIRED, SUSPECT, DEEMED FAULTY)
/Status_EventsR[2]/Initiator:              0xD3 (FM)
/Status_EventsR[2]/Component:              0x00
/Status_EventsR[2]/Message (FM)
/Status_EventsR[2]/FM/fault_diag_time:     0x0000000044088B69
/Status_EventsR[2]/FM/diagcode:           SUN4V-8000-8Q
/Status_EventsR[2]/FM/UUID:               61b9738d-2761-c3f6-a2ae-
fcf11e99681c
/Status_EventsR[2]/FM/DE_Name:             cpumem-diagnosis
/Status_EventsR[2]/FM/DE_Version:         1.5
...

/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32: FRI MAR 03 18:31:06 2006
/Status_CurrentR/status:                 0x64 (MAINTENANCE REQUIRED,
SUSPECT, DEEMED FAULTY)
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showhost

showhost コマンドを使用すると、ホストの構成をサポートしているファームウェアのバージョン情報を表示できます。

▼ showhost コマンドを使用する

注 - このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showhost
Host flash versions:
  Reset V1.0.0
  Hypervisor 1.0.0 2005/09/28 18:56
  OBP 4.19.0 2005/09/28 12:34
  MPT SAS FCode Version 1.00.37 (2005.06.13)>R
  Integrated POST 4.19.0 2005/09/28 12:52
```

showkeyswitch

showkeyswitch コマンドを使用すると、システムの現在の仮想キースイッチの位置を表示できます。

▼ showkeyswitch コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showkeyswitch
Keyswitch is in the NORMAL position.
sc>
```

showlocator

showlocator コマンドを使用すると、ホストサーバーのロケータ LED の状態 (オンまたはオフ) を表示できます。ロケータ LED の詳細は、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

注 – このコマンドは、フロントパネルのロケータ LED が存在するサーバーでのみ機能します。

▼ showlocator コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showlocator
```

- ロケータ LED がオンの場合、ALOM CMT は次の結果を返します。

```
sc> showlocator
Locator LED is ON
```

- ロケータ LED がオフの場合、ALOM CMT は次の結果を返します。

```
sc> showlocator
Locator LED is OFF
```

ロケータ LED の状態を変更するには、setlocator コマンドを使用します。詳細は、[85 ページの「setlocator」](#)を参照してください。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [85 ページの「setlocator」](#)

showlogs

showlogs コマンドを使用すると、ALOM CMT イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示できます。これらのイベントには、サーバーリセットイベント、およびシステムの状態を変更するすべての ALOM CMT コマンド (reset、poweroff、poweron など) があります。詳細は、[78 ページの「reset」](#)、[73 ページの「poweroff」](#)、および [75 ページの「poweron」](#)を参照してください。

ログに記録される各イベントでは、次の形式が使用されます。
date ID: message

各変数の説明は、次のとおりです。

- *date* – ALOM CMT で記録されたイベントの発生時刻。
- *ID* – メッセージタイプに対する数値識別子。

- `message` – イベントに関する簡単な説明。

オプションを指定せずに `showlogs` コマンドを使用すると、RAM イベントログの末尾の 20 行が表示されます。

▼ showlogs コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showlogs options
```

`options` は、必要に応じて使用するオプションです。

コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
sc> showlogs

Log entries since AUG 27 03:35:12
-----
AUG 27 03:35:12: 00060003: "SC System booted."
AUG 27 03:37:01: 00060000: "SC Login: User admin Logged on."
```

注 – ALOM CMT のイベントログに表示されるタイムスタンプには、UTC が反映されます。

次に、`-p p` オプションを指定した場合の `showlogs` コマンドの出力例を示します。`-p p` オプションは、持続イベントログを表示します。持続イベントログは、重要度がメジャーおよびクリティカルイベントのみで構成されています。

コード例 7-9 `showlogs -p p` コマンドの出力例

```
sc> showlogs -p p
Persistent event log
-----
JUN 07 04:16:44: 00060003: "SC System booted."
JUN 07 04:17:12: 00040002: "Host System has Reset"
JUN 07 04:48:03: 00040081: "Input power unavailable for PSU at PS1."
```

showlogs コマンドオプション

showlogs コマンドでは、5つのオプションを使用します。-g および -p オプションは、-b、-e、または -v オプションと組み合わせて使用できます。-g オプションを指定しない場合は、-p p オプションとともに -v オプションを指定していないかぎり、画面出力は一時停止しません。-p p オプションは持続ログのオプションで、これを指定すると表示は 25 行ごとに一時停止します。

表 7-17 showlogs コマンドオプション

オプション	説明
-v	指定したログのすべての内容を表示します。この持続ログが要求されると、表示は 25 イベントごとに自動的に一時停止します。
-b <i>lines</i>	バッファの先頭からイベントを表示します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。たとえば、次のコマンドでは、バッファの最初の 100 行が表示されます。 <pre>showlogs -b 100</pre>
-e <i>lines</i>	バッファの末尾からイベントを表示します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。このコマンドの実行中に新しいデータがログに記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 <pre>showlogs -e 10</pre>
-g <i>lines</i>	一度に画面に表示される行数を制御します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。 一時停止するたびに、次のメッセージが表示されます。 <pre>--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue.</pre> -g を 0 (ゼロ) に設定すると、表示は一時停止しません。
-p <i>logtype</i> [r p]	RAM イベントログ (<i>logtype</i> r) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype</i> p) のエントリのみを表示するかを選択できます。-p が指定されていない場合は、デフォルトのオプションでは RAM ログのエントリのみを表示します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)
- [61 ページの「consolehistory」](#)

shownetwork

shownetwork コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT のネットワーク構成を表示できます。

注 – ALOM CMT を最後に起動したあとに ALOM CMT のネットワーク構成を変更すると、このコマンドの出力に更新した構成情報が表示されないことがあります。変更した構成を表示するには、ALOM CMT を再起動します。ALOM CMT の再起動については、[29 ページの「電源投入時のシステムコンソール出力」](#)を参照してください。

▼ shownetwork コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> shownetwork option
```

option には、必要に応じて -v を指定します。

このコマンドの出力は、次の例のように表示されます。xxx.xxx.xxx.xxx の位置には、ネットワーク構成の実際の IP アドレス、ネットマスク、および Ethernet アドレスが表示されます。

```
sc> shownetwork  
SC network configuration is:  
IP Address: XXX.XXX.XXX.XXX  
Gateway address: XXX.XXX.XXX.XXX  
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX  
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

注 – ネットワーキングが適切に構成されていない場合、shownetwork コマンドはアドレスとして 0.0.0.0 を表示します。

shownetwork コマンドオプション

shownetwork コマンドでは、オプション `-v` のみを使用します。

shownetwork `-v` を入力すると、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サーバーの情報 (構成されている場合) など、ネットワークに関する追加情報が返されます。詳細は、[21 ページの「DHCP を使用したネットワークの構成」](#)を参照してください。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showplatform

showplatform コマンドを使用すると、ホストサーバーのプラットフォーム ID および状態を表示できます。

▼ showplatform コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、showplatform を入力します。
コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
sc> showplatform
SUNW,Sun-Fire-T1000
Chassis Serial Number: 0529AP000882

Domain Status
-----
S0      OS Standby

sc>
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showsc

showsc コマンドを使用すると、ALOM CMT のソフトウェア構成およびファームウェアのバージョンに関する情報を表示できます。

▼ showsc コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- 次のいずれかの処理を実行します。
 - ALOM CMT のすべての構成情報を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc
```

次に例を示します。

コード例 7-10 showsc での構成情報の表示例

```
sc> showsc -v
Advanced Lights Out Manager CMT v1.4

parameter                value
-----                -
if_network                true
if_connection             ssh
if_emailalerts           false
if_snmp                   false
netsc_dhcp                false
netsc_ipaddr              129.148.57.109
netsc_ipnetmask           255.255.255.0
netsc_ipgateway           129.148.57.254
mgt_mailhost
mgt_mailalert
mgt_snmptraps             none
mgt_traphost
sc_customerinfo
sc_escapechars            #.
sc_powerondelay           false
sc_powerstatememory       false
sc_clipasswdecho          true
sc_cliprompt              wgs57-108-sc
```

コード例 7-10 showsc での構成情報の表示例 (続き)

```
sc_clitimeout          0
sc_clieventlevel       2
sc_backupuserdata      true
diag_trigger           power-on-reset error-reset
diag_verbosity         none
diag_level             min
diag_mode              off
sys_autorunonerror     false
sys_autorestart        reset
sys_eventlevel         2
ser_baudrate           9600
ser_parity             none
ser_stopbits           1
ser_data               8
netsc_enetaddr         00:03:ba:d8:b2:ac
sys_enetaddr           00:03:ba:d8:b2:a4
```

- 特定のファームウェアバージョンの値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc version -v
```

次に例を示します。

コード例 7-11 showsc -v での構成情報の表示例

```
sc> showsc version -v
Advanced Lights Out Manager CMT v1.4
SC Firmware version: CMT 1.4.0
SC Bootmon version: CMT 1.4.0

VBSC 1.4.0
VBSC firmware built Feb 21 2007, 14:44:13

SC Bootmon Build Release: 01
SC bootmon checksum: 2265035F
SC Bootmon built Feb 21 2007, 14:35:07

SC Build Release: 01
SC firmware checksum: 7F694B4F

SC firmware built Feb 21 2007, 14:46:34
SC firmware flashupdate THU FEB 22 14:36:16 2007
```


コード例 7-11 showsc -v での構成情報の表示例 (続き)

```
SC System Memory Size: 32 MB
SC NVRAM Version = 14
SC hardware type: 4

FPGA Version: 4.2.2.7
```

- 特定の構成変数の値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc param
```

param は、*param* オプションです。次に例を示します。

```
sc> showsc if_network
true
sc>
```

詳細は、[121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」](#)を参照してください。

showsc コマンドオプション

showsc コマンドでは、次のオプションを使用します。オプションを指定せずに showsc を入力すると、すべての構成変数が表示されます。

表 7-18 showsc コマンドオプション

オプション	説明
-v	<i>param</i> オプションとともに使用すると、-v オプションは、指定した構成変数に関する詳細な情報を表示します (表示内容は変数によって異なります)。 <i>version</i> オプションとともに使用すると、-v オプションは、指定したファームウェアのバージョンに関する詳細な情報を表示します。
version	指定した構成変数またはパラメータのバージョンを表示するように showsc コマンドに指示します。
<i>param</i>	指定した構成変数またはパラメータの値を表示するように showsc コマンドに指示します。
<i>if_connection</i>	遠隔接続のタイプの none、telnet、または ssh を表示します。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

showusers

showusers コマンドを使用すると、ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示できます。このリストには、接続の種類、各ユーザーのセッションの期間、クライアントの IP アドレス (ユーザーがネットワーク接続を使用している場合)、ユーザーがホストシステムコンソールの書き込みロックを持っているかどうかなどの詳細が含まれています。書き込みロックを持っているかどうかによって、ユーザーがコンソールセッションに入力できるか、または読み取り専用モードでコンソールストリームを監視するだけかが決まります。

▼ showusers コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showusers option
```

option には、必要に応じて *-g lines* を指定します。次に例を示します。

```
sc> showusers
username connection  login time      client IP addr  console
-----
admin      serial      Sep 16 10:30
joeuser   ssh-1      Sep 14 17:24   123.123.123.123
sueuser   ssh-2      Sep 15 12:55   123.223.123.223
```

ユーザーが複数のセッションを実行している場合は、各セッションが一覧表示されます。

showusers コマンドオプション

showusers コマンドでは、オプション *-g lines* のみを使用します。

このオプションは、*lines* で指定した行数を表示するごとに表示を一時停止します。一時停止するたびに、次のメッセージが返されます。

```
--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue
```

ALOM CMT で警告状態または警告イベントが発生すると、このメッセージのあとにその情報が表示されます。任意のキーを押して続行するか、または **q** を押して表示を終了し、`sc>` プロンプトに戻ります。

ssh-keygen

Secure Shell (SSH) ホスト鍵の新しいセットを生成し、ホスト鍵フィンガープリントをシステムコントローラに表示するには、`ssh-keygen` コマンドを使用します。フィンガープリントのデフォルト形式 (`rsa`) は次のとおりです。

```
md5 1024 a3:28:0d:45:01:e4:ba:21:c8:13:90:df:4e:69:7a:5e
```

▼ ssh-keygen コマンドを使用する

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> ssh-keygen options
```

`options` は、表 7-19 に示すオプションのいずれかです。

ssh-keygen コマンドオプション

`ssh-keygen` コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 7-19 ssh-keygen コマンドオプション

オプション	説明
<code>-l</code>	ホスト鍵のフィンガープリントを表示します。
<code>-t type</code>	鍵のタイプの <code>dsa</code> または <code>rsa</code> を表示または生成します。この引数は必須です。RSA は公開鍵暗号方式です。DSA は米国政府の標準であるデジタル署名アルゴリズムです。
<code>-r</code>	ホスト鍵を再生成します。ホスト鍵がすでに存在する場合は、このオプションを指定する必要があります。

関連情報

- [80 ページの「restartssh」](#)

useradd

useradd コマンドを使用すると、ALOM CMT にユーザーアカウントを追加できます。

▼ useradd コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> useradd username
```

username は、ALOM CMT に追加するアカウントのユーザー名です。

username には、次の制限があります。

- 有効な文字は、英字と数字、ピリオド (.), 下線 (_), およびハイフン (-) です。
- 名前には最大 16 文字使用できますが、少なくとも 1 文字は小文字の英字である必要があります。
- 最初の文字は英字である必要があります。

ALOM CMT には、最大で 15 の一意のユーザーアカウントを追加できます。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、userpassword コマンドを使用します。詳細は、[116 ページの「userpassword」](#)を参照してください。

ユーザー名にアクセス権レベルを割り当てるには、userperm コマンドを使用します。詳細は、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

userdel

userdel コマンドを使用すると、ALOM CMT のユーザーアカウントを削除できます。いったんアカウントを削除すると、削除されたユーザーの構成情報は復元できません。

指定したユーザー名が ALOM CMT のユーザーリストに存在しない場合は、エラーメッセージが返されます。また、リストに存在するユーザーが 1 人のみの場合、そのユーザーアカウントは削除されません。

注 – デフォルトの admin ユーザーアカウントは削除されません。

▼ userdel コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userdel useracct
```

useracct は、削除するユーザーアカウントの名前です。

userdel コマンドオプション

userdel コマンドでは、オプション *-y* のみを使用します。

-y オプションを指定すると、userdel は次の確認の質問を表示せずにアカウントを削除します。

```
Are you sure you want to delete user username [y/n]?
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

userpassword

userpassword コマンドを使用すると、指定したユーザーアカウントのパスワードを変更できます。このコマンドは、管理者が ALOM CMT でユーザーのパスワードを変更する必要があるが、そのユーザーアカウントのパスワードが不明な場合に使用します。自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更する場合は、password コマンドを使用します。詳細は、[72 ページの「password」](#)を参照してください。

▼ userpassword コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userpassword username
```

username は、パスワードを変更するユーザーアカウントの名前です。

このコマンドを使用する場合、既存のパスワードの入力を求めるプロンプトは表示されません。

次に例を示します。

```
sc> userpassword username
New password:
Re-enter new password:
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには、次の制限があります。

- 6～8 文字にする必要があります。
- 2 つ以上の英字 (大文字または小文字) および 1 つ以上の数値または特殊文字が含まれている必要があります。
- ログイン名、ログイン名の逆、またはログイン名の文字を並び替えたものとは異なる必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと 3 字以上異なっている必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

注 – 制限を満たしていない場合でもパスワードは受け入れられますが、セキュリティー上の推奨ガイドラインを満たしていないことを示す警告が表示されます。

関連情報

[48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

userperm

userperm コマンドを使用すると、指定したユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定または変更できます。デフォルトでは、初期設定手順で **ALOM CMT** の admin アカウントが作成されます。このアカウントは削除できません。また、このアカウントのユーザーアクセス権も変更できません。

アクセス権レベル

すべてのユーザーは **ALOM CMT** の情報を参照できますが、**ALOM CMT** の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。

指定したユーザーにアクセス権レベルを割り当てない場合 (アクセス権レベル 0 を割り当てている場合) は、ユーザーのアクセス権レベルは読み取り専用になります。これは、新規 **ALOM CMT** ユーザーアカウントのデフォルトのレベルです。

ユーザーの権限を追加するアクセス権レベルは 4 つあります。0 ~ 4 のアクセス権レベルを指定できます。

表 7-20 userperm のアクセス権レベル

アクセス権レベル	説明
a	管理。このユーザーは、 ALOM CMT 構成変数の状態の変更や、 ALOM CMT の再起動を行う権限が付与されています。詳細は、 121 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」 および 79 ページの「resetsc」 を参照してください。
u	ユーザー管理。このユーザーは、ユーザーの追加と削除、ユーザーアクセス権の変更、およびその他のユーザーの権限レベルの変更を行うことができます。詳細は、 114 ページの「useradd」 および 115 ページの「userdel」 を参照してください。
c	コンソールアクセス権。このユーザーは、ホストサーバーのシステムコンソールに接続できます。詳細は、 59 ページの「console」 を参照してください。

表 7-20 userperm のアクセス権レベル (続き)

アクセス権レベル	説明
r	リセットおよび電源アクセス権。このユーザーは、ホストサーバーのリセット、およびサーバーの電源投入と切断を行うことができます。 詳細は、78 ページの「reset」、75 ページの「poweron」、および 73 ページの「poweroff」を参照してください。

注 – 最初に ALOM CMT を起動するときには使用するアカウントのデフォルトのユーザーアクセス権は読み取り専用です。デフォルトの admin アカウントにパスワードを設定すると、アクセス権が cuar (完全な権限) に変更されます。

ユーザーのアクセス権レベルを確認するには、usershow コマンドを使用します。詳細は、119 ページの「usershow」を参照してください。

▼ userperm コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userperm username permissions
```

username は、アクセス権を割り当てるユーザーの名前です。*permissions* は、そのユーザーに割り当てるアクセス権です。

たとえば、ユーザー msmith に c および r のユーザーアクセス権を割り当てるには、ALOM CMT のコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sc> userperm msmith cr
```

ユーザーのアクセス権レベルを確認するには、usershow コマンドを使用します。

アクセス権を持たない (読み取り専用) ユーザーは、次のコマンドのみを使用できません。

- help
- logout
- password
- setlocator
- showdate

- `showenvironment`
- `showfaults`
- `showfru`
- `showhost`
- `showkeyswitch`
- `showlocator`
- `showlogs`
- `shownetwork`
- `showplatform`
- `showsc`
- `showusers`

読み取り専用アクセス権を持つユーザーは、次の例のユーザー `jeremy` のように表示されます。

```

SC> usershow
Username          Permissions      Password
-----
admin             cuar             Assigned
jeremy            ----            Assigned

```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

usershow

`usershow` コマンドを使用すると、各ユーザーのアクセス権およびパスワードの割り当ての有無とともに、指定したユーザーの ALOM CMT アカウントを表示できます。詳細は、[117 ページの「userperm」](#) および [116 ページの「userpassword」](#) を参照してください。

ユーザー名を入力しない場合、`usershow` はすべての ALOM CMT アカウントを表示します。

▼ usershow コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、[117 ページの「userperm」](#)を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> usershow username
```

username は、指定するユーザーの名前です。
次に例を示します。

```
SC> usershow  
Username Permissions Password?  
admin      cuar      Assigned  
wwilson    cuar      Assigned  
jadams     --cr     None
```

```
SC> usershow wwilson  
Username Permissions Password?  
wwilson    cuar      Assigned
```

関連情報

- [48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」](#)

第8章

ALOM CMT 構成変数の使用

この章では、ALOM CMT 構成変数に関する情報について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [122 ページの「シリアル管理ポート変数」](#)
- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [124 ページの「ネットワーク管理および通知変数」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [125 ページの「診断制御変数」](#)

ALOM CMT 構成変数の概要

ALOM CMT には、ALOM CMT の動作を変更できる非揮発性の構成変数があります。これらの変数のデフォルト値はプリインストールされています。対話型のスク립トコマンド `setupsc` を使用して、最初にこれらの変数をカスタマイズします。ALOM CMT シェルを使用すると、個々の変数の設定を変更できます。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。

▼ ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する

注 – ALOM CMT シェルから構成変数を設定するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定の詳細は、[117 ページの「userperm」](#) を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。
- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、[86 ページの「setsc」](#)を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、[82 ページの「setdefaults」](#)を参照してください。

シリアル管理ポート変数

シリアル管理ポート変数は、ホストシステムの起動時に設定されるため、読み取り専用になります。ALOM CMT は、シリアル管理ポート変数を使用してホストサーバー上のシリアル管理 (SER MGT) 設定を報告します。これらの変数の設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。

次のシリアルポート変数の設定値を表示できますが、設定または調整することはできません。

- [154 ページの「ser_baudrate」](#)
- [154 ページの「ser_data」](#)
- [155 ページの「ser_parity」](#)
- [155 ページの「ser_stopbits」](#)

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [87 ページの「setupsc」](#)
- [86 ページの「setsc」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

ネットワークインタフェース変数

ネットワークインタフェース変数を使用すると、ALOM CMT がホストサーバーの NET MGT ポートの Ethernet 接続に使用するネットワーク設定を指定できます。

ALOM CMT は、次のネットワークインタフェース変数を使用します。

- [130 ページ](#)の「if_connection」
- [133 ページ](#)の「if_network」
- [134 ページ](#)の「if_snmp」
- [141 ページ](#)の「netsc_dhcp」
- [142 ページ](#)の「netsc_ipaddr」
- [145 ページ](#)の「netsc_ipnetmask」
- [143 ページ](#)の「netsc_ipgateway」
- [142 ページ](#)の「netsc_enetaddr」

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- この変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、[87 ページ](#)の「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、[109 ページ](#)の「`showsc`」を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、[86 ページ](#)の「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、[82 ページ](#)の「`setdefaults`」を参照してください。

関連情報

- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」

ネットワーク管理および通知変数

ネットワーク管理および通知変数を使用すると、ALOM CMT によるホストシステムの管理方法および警告の送信方法を指定できます。

ALOM CMT では、次のネットワーク管理および通知変数がサポートされています。

- [131 ページの「if_emailalerts」](#)
- [134 ページの「if_snmp」](#)
- [137 ページの「mgt_mailhost」](#)
- [135 ページの「mgt_mailalert」](#)
- [139 ページの「mgt_snmptraps」](#)
- [140 ページの「mgt_traphost」](#)

ALOM CMT コマンドシェルの `sc>` プロンプトで、次のコマンドを使用します。

- これらの変数を設定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。
- 現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、[109 ページの「showsc」](#) を参照してください。
- 変数の値を変更するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、[86 ページの「setsc」](#) を参照してください。

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)

システムユーザー変数

システムユーザー変数を使用すると、ALOM CMT によるホストサーバーの識別方法およびホストサーバーとの対話方法をカスタマイズできます。`setupsc` スクリプトを使用して ALOM CMT をカスタマイズする場合は、`setupsc` でプロンプトが表示されたときに `y` と応答することによって、これらの変数にアクセスできます。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。

- [147 ページの「sc_clieventlevel」](#)
- [150 ページの「sc_clipasswdecho」](#)

- [147 ページ](#)の「`sc_cliprompt`」
- [149 ページ](#)の「`sc_clitimeout`」
- [150 ページ](#)の「`sc_customerinfo`」
- [151 ページ](#)の「`sc_escapechars`」
- [152 ページ](#)の「`sc_powerondelay`」
- [153 ページ](#)の「`sc_powerstatememory`」
- [157 ページ](#)の「`sys_eventlevel`」

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、[87 ページ](#)の「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、[109 ページ](#)の「`showsc`」を参照してください。
- 設定可能な変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、[86 ページ](#)の「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、[82 ページ](#)の「`setdefaults`」を参照してください。

関連情報

- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」

診断制御変数

診断制御変数を使用すると、ホストサーバー上でエラーが発生した場合の ALOM CMT の動作方法を指定できます。

ALOM CMT は、次の診断システムインタフェース変数を使用します。

- [156 ページ](#)の「`sys_autorestart`」
- [126 ページ](#)の「`diag_level`」
- [127 ページ](#)の「`diag_mode`」
- [128 ページ](#)の「`diag_trigger`」
- [129 ページ](#)の「`diag_verbosity`」

- [156 ページの「sys_autorunonerror」](#)

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)

構成変数の説明

この節では、ALOM CMT 構成変数の説明をアルファベット順に示します。

diag_level

この変数を使用すると、診断が使用可能な場合に実行される診断テストのレベルを指定できます。

表 8-1 diag_level のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
値の設定または変更	86 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_level value
```

value は、次のいずれかの値です。

- min – 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します (デフォルト値)。
- max – 最大設定の診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します。
- none – 診断を実行しません。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the test coverage level of the system diagnostic [min]? max
```

diag_mode

この変数を使用すると、診断を使用可能にするかどうかを制御し、使用可能にする診断モードを指定できます。

表 8-2 diag_mode のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
値の設定または変更	86 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_mode value
```

value は、次のいずれかの値です。

- off – 診断を実行しません。
- normal – 診断を実行します (デフォルト値)。
- service – 保守技術者による診断を実行します。これは、diag_trigger、diag_verbosity、および max に設定された diag_level の事前設定値を使用する場合と同じ機能です。diag_mode を service に設定すると、setkeyswitch diag コマンドを実行した場合と同じ処理が行われます。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the automatic system diagnostic mode [normal]? normal
```

diag_trigger

この変数を使用すると、診断が使用可能な場合に POST が実行される条件を制御できます。

表 8-3 diag_trigger のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
値の設定または変更	86 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_trigger value
```

value は、次のいずれかの値またはその組み合わせです。

- user-reset – システムのリセット時に診断を実行します。78 ページの「reset」も参照してください。
- error-reset – システムをリセットして回復する必要がある致命的エラーが発生した場合に診断を実行します。
- power-on-reset – システムの電源投入時に診断を実行します。75 ページの「poweron」も参照してください。
- all-resets – user-reset、error-reset、および power-on-reset によって指定されるすべての診断を実行します。

- none – 診断をスキップします。

デフォルト値は、power-on-reset と error-reset の組み合わせです。
次に例を示します。

```
sc> setsc diag_trigger user-reset power-on-reset
sc> showsc diag-trigger
user-reset power-on-reset
```

▼ setupsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the type of reset which will initiate system diagnostic
[power-on-reset error-reset]? power-on-reset error-reset
```

diag_verbosity

診断が使用可能な場合は、この変数を使用すると、POST 診断からの出力の冗長性レベルを指定できます。

表 8-4 diag_verbosity のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
値の設定または変更	86 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_verbosity value
```

value は、次のいずれかの値です。

- none – 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
- min – 診断で、制限された量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- max – 診断で、実行されている各テストの名前と結果を含む完全な出力がシステムコンソールに表示されます。
- normal – 診断で、適度な量の出力がシステムコンソールに表示されます (デフォルト値)。
- debug – 診断で、テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む広範囲なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。
 setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the verbosity level of diagnostic output [normal]? normal
```

if_connection

setsc コマンドでこの変数を使用して、SC への遠隔接続のタイプを指定します。
[130 ページの「if_connection のオプション」](#)

表 8-5 if_connection のオプション

オプション	説明
none	接続なしを指定します。
ssh	Secure Shell 接続を指定します。セキュリティー保護された出荷時構成のデフォルトです。
telnet	Telnet 接続を指定します。

showsc コマンドのオプションとして if_connection を指定できます。この場合は、現在指定されている遠隔接続のタイプが表示されます。

▼ setsc コマンドを使用して if-connection 変数を設定する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_connection value
```

value は、none、ssh、または telnet です。デフォルトは ssh です。詳細は、[16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」](#) を参照してください。

3 つのオプションのうち 1 つだけを選択できます。SSH サーバーと Telnet サーバーを同時に使用可能にすることはできません。

注 – 接続タイプを変更したあとで、SC を再起動してその接続タイプを有効にしてください。

関連情報

- [86 ページの「setsc」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

if_emailalerts

この変数を使用すると、電子メールによる警告を使用可能にすることができます。この変数が true (使用可能) に設定されている場合は、ALOM CMT ネットワーク管理および通知変数の値を設定できます。詳細は、[124 ページの「ネットワーク管理および通知変数」](#) を参照してください。ネットワーク管理および通知変数 (mgt_mailhost および mgt_mailalert) は、電子メールによる警告の管理方法を指定し、警告を使用可能にします。詳細は、[137 ページの「mgt_mailhost」](#) および [135 ページの「mgt_mailalert」](#) を参照してください。

注 – if_emailalerts を使用可能にするには、if_network 変数を使用可能にする必要があります。詳細は、[133 ページの「if_network」](#) を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- この変数の値を指定するには、setupsc コマンドを使用します。
詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。

- 値を設定または変更するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、[86 ページの「setsc」](#)を参照してください。
- この変数の現在の値を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。

▼ `setupsc` コマンドを使用して `if_emailalerts` 変数を設定する

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

`setupsc` スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC email alerts be enabled [y]?
```

2. インタフェースを構成する場合、つまり値を `true` に設定する場合は、`y` を入力します。
この変数のデフォルト値は、`true` (使用可能) です。

▼ `setsc` コマンドを使用して `if_emailalerts` 変数を変更する

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_emailalerts value
```

`value` は、電子メールによる警告を使用可能にする場合は `true`、使用不可にする場合は `false` です。

if_network

この変数を使用すると、ALOM CMT ネットワークインタフェースを使用可能にすることができます。この変数が true (使用可能) に設定されている場合は、ALOM CMT ネットワークインタフェース変数を使用できます。詳細は、[123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)を参照してください。

表 8-6 if_network のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
設定可能な変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
構成変数の設定の表示	109 ページの「showsc」
構成変数の設定または変更	86 ページの「setsc」
すべての変数の出荷時のデフォルトへのリセット	82 ページの「setdefaults」

▼ setupsc コマンドを使用して if_network 変数を設定する

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

2. インタフェースを構成する場合は、y を入力します。
この変数のデフォルト値は、true (使用可能) です。

▼ setsc コマンドを使用して if_network 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_network value
```

value は、ネットワークインタフェースを使用可能にする場合は true、使用不可にする場合は false です。

if_snmp

この変数を使用すると、ALOM CMT SNMP インタフェースを使用可能にすることができます。この変数が true (使用可能) に設定されている場合は、ALOM CMT SNMP インタフェース変数を使用できます。ネットワーク管理および通知変数 (mgt_snmptraps および mgt_trapshost) は、トラップの管理方法を指定し、トラップを使用可能にします。詳細は、[139 ページの「mgt_snmptraps」](#) および [140 ページの「mgt_trapshost」](#) を参照してください。

注 - if_snmp を使用可能にするには、if_network 変数を使用可能にする必要があります。詳細は、[133 ページの「if_network」](#) を参照してください。

表 8-7 if_snmp のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
設定可能な変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
構成変数の設定の表示	109 ページの「showsc」
構成変数の設定または変更	86 ページの「setsc」
すべての変数の出荷時のデフォルトへのリセット	82 ページの「setdefaults」

▼ setupsc コマンドを使用して if_snmp 変数を設定する

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces [y]? y  
Should the SC SNMP interface be enabled {n}
```

2. インタフェースを構成する場合は、y を入力します。
この変数のデフォルト値は、false (使用不可) です。

▼ setsc コマンドを使用して if_snmp 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_snmp value
```

value は、SNMP インタフェースを使用可能にする場合は true、使用不可にする場合は false です。

mgt_mailalert

この変数を使用すると、電子メールによる警告を構成できます。電子メールによる警告の設定手順は、使用する方法によって多少異なります。最大 8 個の電子メールアドレスを指定できます。

表 8-8 mgt_mailalert のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
値の設定または変更	86 ページの「setsc」

▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を設定する

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

```
When you use the setupsc command to configure mgt_mailalert, you
are prompted to answer the following questions. Default values
appear in brackets after each question.
Enter the number of email recipients to configure [0]? 2
```

2. 電子メール受信者数を入力します。

プロンプトの後ろの角括弧内にデフォルト値 0 が表示されます。

スクリプトによって、指定した各受信者に対する次の質問が表示されます。*n* には、現在設定している受信者の番号が表示されます。たとえば、前述の例で 2 と入力した場合は、アドレス 1 への電子メールによる警告を設定するプロンプトが表示されたあと、アドレス 2 について同様のプロンプトが表示されます。

```
Enter the email address for recipient n (maximum of 30 characters)
[]? johnsmith@sysadmin.com
```

3. 前述の例で示したように、受信者の電子メールアドレスを入力します。

ALOM CMT では、最大 30 文字の電子メールアドレスを構成できます。スクリプトによって、次の質問が表示されます。

```
Enter the level of events to send to recipient <n> where valid
settings are 1 (critical), 2 (critical and major) and 3 (critical,
major and minor) [2]?
```

4. 受信者に送信する警告のレベルに対応する数字を入力します。

▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を変更する

- 電子メールによる警告を送信するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert email level
```

email は警告の送信先の電子メールアドレス、*level* は送信する警告のレベル (クリティカル、メジャー、マイナー) です。

次に例を示します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com 1
```

- mgt_mailalert エントリを削除するには、警告レベルを省略してこの変数の値を再度指定します。

たとえば、前述の例のエントリを削除するには、次のように入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@xyz.com
```

関連情報

- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」
- [124 ページ](#)の「ネットワーク管理および通知変数」
- [109 ページ](#)の「showsc」

mgt_mailhost

この変数を使用すると、ALOM CMT が電子メールによる警告を配信する 1 または 2 台のメールサーバーのインターネットプロトコル (IP) アドレスを指定できます。

表 8-9 mgt_mailhost のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページ の「setupsc」
この変数の現在の値の表示	109 ページ の「showsc」
変数の値の変更	86 ページ の「setsc」

▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を設定する

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the number of mail servers to configure [0]? 1
Enter the IP address for mail server 1 [100.100.100.100]?
100.100.100.100
```

- メールサーバーの正しい数と、各サーバーの IP アドレスを入力します。

▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

ipaddr1 および *ipaddr2* は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、setsc を使用して 1 台のメールサーバーを指定するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。*xxx.xxx.xxx.xxx* はメールサーバーの IP アドレスに置き換えます。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルトの IP アドレスは、アドレスなしです。

注 – このコマンドでは、有効な IP アドレスを入力する必要があります。

2 台のメールサーバーを指定するには、次のコマンドを入力します。1 つの空白文字を使用して、最初のメールサーバーの IP アドレスと 2 番目のメールサーバーの IP アドレスを区切ります。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

関連情報

- [124 ページの「ネットワーク管理および通知変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

mgt_snmptraps

この変数を使用すると、トラップに使用される SNMP プロトコルバージョンを制御できます。値は、v1、v2c、または none です。デフォルトは none で、トラップは送信されません。

表 8-10 mgt_snmptraps のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
この変数の現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

▼ setupsc コマンドを使用して mgt_snmptraps 変数を設定する

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Do you wish to configure the network management interfaces [y]?
What SNMP protocol version should be used to send trap
notifications: none, v1, or v2c. ('none' will disable SNMP traps)
[none]?
```

- ネットワーク管理インタフェースを構成する場合は、y を入力し、使用する SNMP プロトコルバージョンを指定します。

▼ setsc コマンドを使用して mgt_snmptraps 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_snmptraps value
```

value は、指定するプロトコルバージョン (v1、v2c、または none) です。

関連情報

- 124 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 109 ページの「showsc」

mgt_traphost

この変数を使用すると、SNMP トラップの送信先となるホストの IP アドレスおよびポート番号を最大で 2 つ指定できます。デフォルトは空です。この変数は、ドット区切りの 10 進表記のあとにコロンとポート番号が続く形式で指定します。次に例を示します。

```
123.145.167.189:161
```

表 8-11 mgt_traphost のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「 setupsc 」
この変数の現在の値の表示	109 ページの「 showsc 」
変数の値の変更	86 ページの「 setsc 」

▼ setupsc コマンドを使用して mgt_traphost 変数を設定する

setupsc スクリプトを実行した場合に、SC SNMP インタフェースが使用可能で、SNMP プロトコルバージョンの v1 または v2c が選択されていると、setupsc によって次の質問が表示されます。

```
Enter the number of SNMP trap receiving hosts to configure [0]?
```

- 1 または 2 を入力すると、トラップホストの IP アドレスおよびポート番号の入力を求めるプロンプトが表示されます。

次に例を示します。

```
Enter the IP address for trap receiver 1 [100.100.100.100]?
```

```
123.145.167.189
```

```
Enter the port number for trap receiver 1 [162]? 162
```

- トラップの受信者を設定する場合は、各トラップ受信者が使用する IP アドレスおよびポート番号を指定します。

▼ setsc コマンドを使用して mgt_traphost 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_traphost value [value]
```

value は、指定するトラップホストの IP アドレスおよびポート番号です。setsc を使用して複数のトラップホストを入力する場合は、次の形式になります。

```
sc> setsc mgt_traphost IPaddress:port IPaddress:port
```

2 つの値は空白文字で区切り、それぞれの形式は同じです。最大 2 つのトラップホストを指定できます。

netsc_dhcp

この変数を使用すると、動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を使用してネットワーク構成を取得するかどうかを指定できます。使用可能な値は true および false です。デフォルト値は true です。

表 8-12 netsc_dhcp のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Should the SC use DHCP to obtain its network configuration [y]?
```

関連情報

- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

netsc_enetaddr

この変数を使用すると、0a:2c:3f:1a:4c:4dのように、標準の6バイト形式でシステムコントローラのMACアドレスを表示できます。この変数は出荷時に設定されます。この変数を設定または変更することはできません。

ALOM CMT コマンドシェルでこの変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。

関連情報

- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

netsc_ipaddr

この変数を使用すると、システムコントローラのIPアドレスを指定できます。

表 8-13 netsc_ipaddr のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトのIPアドレスは、0.0.0.0です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得にDHCPを使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc_dhcpがtrueに設定されている場合は、setupscスクリプトによってnetsc_ipaddrの設定は求められません。詳細は、[141 ページの「netsc_dhcp」](#)および[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。

IPアドレスは、通常、0～255の4つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the SC IP address [100.100.100.100]? 100.100.100.100  
Enter the SC IP netmask [255.255.255.0]? 255.255.255.0
```

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよびゲートウェイアドレスに対応していない場合は、警告メッセージが返されます。次に例を示します。

```
WARNING: Subnet mask must have all ones for natural network ID.  
WARNING: The ip_netmask is not compatible with the specified IP  
address. Choose another ip_netmask to fix this problem.
```

入力したすべての値が正しいことを確認します。詳細は、[143 ページの「netsc_ipgateway」](#) および [145 ページの「netsc_ipnetmask」](#) を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

netsc_ipgateway

この変数を使用すると、デフォルトの IP ゲートウェイ (ルーターとも呼ばれる) の IP アドレスを指定できます。このゲートウェイを使用すると、ALOM CMT は接続しているサブネットワーク以外のサブネットワークにアクセスできます。

表 8-14 netsc_ipgateway のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトの IP アドレスは、0.0.0.0 です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netssc_dhcp が true に設定されている場合は、setupsc スクリプトによって netssc_ipgateway の設定は求められません。詳細は、[141 ページ](#)の「netssc_dhcp」および [87 ページ](#)の「setupsc」を参照してください。

IP アドレスは、通常、0 ~ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the SC IP gateway address [100.100.100.100]? 100.100.100.100
```

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよび IP アドレスに対応していない場合は、次のエラーメッセージが返されます。このメッセージの netssc_ipnetmask と netssc_ipaddr には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

```
Error: Invalid IP gateway address for IP address netssc_ipaddr and IP netmask netssc_ipnetmask.
```

入力したすべての値が正しいことを確認します。これらのコマンドの詳細は、[143 ページ](#)の「netssc_ipgateway」および [142 ページ](#)の「netssc_ipaddr」を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- [123 ページ](#)の「ネットワークインタフェース変数」
- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」
- [109 ページ](#)の「showsc」

netsc_ipnetmask

この変数を使用すると、システムコントローラのネットマスクを指定できます。

表 8-15 netsc_ipnetmask のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトの IP アドレスは、255.255.255.0 (クラス C ネットワーク) です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc_dhcp が true に設定されている場合は、setupsc スクリプトによって netsc_ipnetmask の設定は求められません。詳細は、141 ページの「netsc_dhcp」および 87 ページの「setupsc」を参照してください。

IP アドレスは、通常、0 ~ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the SC IP netmask [255.255.255.0]? 255.255.255.0
```

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよび IP アドレスに対応していない場合は、次のエラーメッセージが返されます。このメッセージの netsc_ipnetmask と netsc_ipaddr には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

```
Error: Invalid IP netmask for IP address netsc_ipaddr and IP gateway netsc_ipgateway.
```

入力したすべての値が正しいことを確認します。これらのコマンドの詳細は、143 ページの「netsc_ipgateway」および 142 ページの「netsc_ipaddr」を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- [123 ページの「ネットワークインタフェース変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

sc_backupuserdata

この変数を使用すると、ALOM CMT 上のローカルユーザーデータベース (ユーザー、パスワード、およびアクセス権情報など) をバックアップするかどうかを指定できます。この変数が true に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

この変数の値は、次のとおりです。

- true - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。これはデフォルト値です。
- false - バックアップしません。

表 8-16 sc_backupuserdata のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して sc_backupuserdata 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_backupuserdata value
```

ここで、*value* は、true または false です。

たとえば、ALOM CMT 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_backupuserdata true
sc>
```

sc_clieventlevel

この変数を使用すると、ALOM CMT セッション中に ALOM CMT シェルに表示する ALOM CMT イベントのレベルを指定できます。次の 4 レベルのイベントがあります。

- 0 (なし) – イベントを表示しません。
- 1 (クリティカル) – クリティカルのイベントのみ表示します。
- 2 (クリティカル、メジャー) – クリティカルおよびメジャーのイベントを表示します。
- 3 (クリティカル、メジャー、マイナー) – クリティカル、メジャー、およびマイナーのイベントを表示します。

この変数のデフォルト値は、2 (メジャー) です。

表 8-17 sc_clieventlevel のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter level of events to be displayed over the CLI where valid
settings are 0 (none), 1 (critical), 2 (critical and major) and 3
(critical, major and minor) [2]? 2
```

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

sc_cliprompt

この変数を使用すると、ALOM CMT シェルプロンプトを変更できます。デフォルトのプロンプトは、sc> です。

プロンプトには、最大 16 文字の任意の文字列を指定できます。文字列で使用できる文字は、英数字、ハイフン、および下線です。

表 8-18 `sc_cliprompt` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

▼ `setsc` コマンドを使用して `sc_cliprompt` 変数を変更する

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_cliprompt prompt
```

`prompt` は、使用する ALOM CMT コマンドプロンプトです。

たとえば、ホスト名が `ernie` でホストの ALOM CMT 名が `ernie-sc` の場合は、次のコマンドを入力して `ernie-sc` を ALOM CMT シェルプロンプトとして指定します。

```
sc> setsc sc_cliprompt ernie-sc
ernie-sc>
```

また、`setupsc` コマンドを使用してこの変数を設定することもできます。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。`setupsc` コマンドでは、次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC cli prompt (maximum of 16 characters) [sc] ?
```

デフォルトの `sc>` プロンプトを使用するには、Return を押します。

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

sc_clitimeout

この変数を使用すると、自動ログアウトが行われるまで ALOM CMT シェルセッションがアイドル状態になる秒数を指定できます。0 ~ 10,000 秒の値を指定できます。1 ~ 59 秒の値を指定した場合、変数は自動的に最小値の 60 秒に設定されます。デフォルト値は、0 秒 (タイムアウトは使用不可) です。6 桁以上の値を指定した場合、タイムアウトは 0 に設定されます。

注 – ALOM CMT セッションが console モードの場合は、この変数が設定されていても自動ログアウトは行われません。詳細は、[59 ページの「console」](#)を参照してください。

たとえば、自動ログアウト間隔を 60 秒に設定するには、ALOM CMT シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clitimeout 60
```

setupsc コマンドを使用すると、タイムアウトの値を指定できます。詳細は、[87 ページの「setupsc」](#)を参照してください。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC CLI timeout in seconds (maximum of 10000s) [0]?
```

表 8-19 sc_clitimeout のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

sc_clipasswdecho

この変数を使用すると、パスワードのエコー表示をオンまたはオフにすることができます。パスワードのエコー表示がオンの場合、ALOM CMT へのログイン時にユーザーが入力する各文字は、アスタリスク (*) で画面に表示されます。実際のパスワードが画面に表示されることはありません。

この変数のデフォルト値は、y (画面にアスタリスクを表示) です。

たとえば、この変数の値を n (エコー表示なし) に変更するには、ALOM CMT シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clipasswdecho n
```

setupsc コマンドを実行して、この変数に値を指定できます。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

```
Should password entry echo '*'s [y] ?
```

表 8-20 sc_clipasswdecho のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

sc_customerinfo

この変数を使用すると、ホストサーバーに関する情報、または ALOM CMT にホストサーバーを認識させるために入力するその他の任意の情報を格納できます。この情報は、すべての電子メールによる警告に含まれます。

setupsc ユーティリティーによって「Do you wish to configure the SC parameters [y]?」という質問が表示されたときに y と回答した場合は、setupsc ユーティリティーによって次のプロンプトが表示されます。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []?
```

次に例を示します。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []? This is the test lab server.
```

このコマンドの詳細は、[87 ページ](#)の「`setupsc`」を参照してください。

表 8-21 `sc_customerinfo` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページ の「 <code>setupsc</code> 」
現在の値の表示	109 ページ の「 <code>showsc</code> 」
変数の値の変更	86 ページ の「 <code>setsc</code> 」

関連情報

- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」
- [124 ページ](#)の「システムユーザー変数」
- [109 ページ](#)の「`showsc`」

sc_escapechars

エスケープ文字シーケンスを使用して、システムコンソールセッションから ALOM CMT に戻すことができます。シーケンスは、2 文字に制限されています。2 番目の文字には、必ず . (ピリオド) を使用します。デフォルトの値は、#. (ハッシュとピリオド) です。シーケンスはカスタマイズできます。

setupsc コマンドを実行して、この変数に値を指定できます。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the console session escape sequence (2 characters). The first
character can be any printable characters or control-A through
control- Y except for control-C, control-D, control-H, control-J,
or control-M. The second character must be a ".". [#.]
```

このコマンドの詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。

表 8-22 `sc_escapechars` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「setupsc」
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

`sc_powerondelay`

この変数を使用すると、電源が自動的に入る前にサーバーを短時間待機させることができます。遅延は、1～5 秒のランダムな間隔です。サーバーの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。この機能は、電源異常後にラック内の複数のサーバーの電源を入れる場合に重要です。

この変数は、`sc_powerstatememory` が `true` に設定されている場合にのみ有効です。

`setupsc` コマンドの `sc_powerstatememory` の質問にすでに `yes` と回答した場合は、`setupsc` コマンドを使用して、電源投入の遅延を設定できます ([153 ページの「sc_powerstatememory」](#) を参照)。`setupsc` スクリプトによって次の質問が表示されたら、遅延を使用可能にするには **y** を、使用不可にするには **n** を入力します。

```
Should poweron sequencing be enabled [y]?
```

このコマンドの詳細は、[87 ページの「setupsc」](#) を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルでは、この変数の値は `true` または `false` です。

表 8-23 `sc_powerondelay` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	87 ページの「 <code>setupsc</code> 」
現在の値の表示	109 ページの「 <code>showsc</code> 」
変数の値の変更	86 ページの「 <code>setsc</code> 」

関連情報

- 121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 124 ページの「システムユーザー変数」
- 109 ページの「`showsc`」

`sc_powerstatememory`

サーバーの電源が切れている場合でも、ホストサーバーの電源が入ると ALOM CMT はすぐに動作します。ホストサーバーに最初に電源を入れると、ALOM CMT は実行を開始しますが、サーバーは電源を入れるまで起動しません。

`sc_powerstatememory` 変数を使用すると、ホストサーバーの状態を `false` (ホストサーバーを停止状態にしておく) または `true` (サーバーを電源が切断されたときの状態に戻す) に指定できます。この機能は、電源障害発生時、またはサーバーを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバーの動作中に電源が遮断された場合、`sc_powerstatememory` 変数が `false` に設定されていると、ホストサーバーは電源の回復後も停止したままになります。`sc_powerstatememory` 変数が `true` に設定されていると、電源の回復時にホストサーバーは再起動します。

この変数の値は、次のとおりです。

- `true` – 電源の回復時に、サーバーは電源切断前の状態に戻ります。
- `false` – 電源が入っても、サーバーは停止したままになります。

`setupsc` スクリプトによって次の質問が表示されたら、その状態を使用可能にする場合は **y** を、使用不可にする場合は **n** と入力します。

```
Should powerstate memory be enabled [y]?
```

この質問に yes と回答した場合は、setupsc スクリプトによって、sc_powerondelay も設定するように求めるプロンプトが表示されます (152 ページの「sc_powerondelay」を参照)。

表 8-24 sc_powerstatememory のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	109 ページの「showsc」
変数の値の変更	86 ページの「setsc」

関連情報

- 121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 124 ページの「システムユーザー変数」
- 109 ページの「showsc」

ser_baudrate

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のボーレートを設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、9600 です。

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、109 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 124 ページの「システムユーザー変数」
- 109 ページの「showsc」

ser_data

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のデータビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、8 です。

- この変数の現在の値を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
このコマンドの詳細は、[109 ページの「showsc」](#) を参照してください。

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [124 ページの「システムユーザー変数」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

ser_parity

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のパリティを設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、`none` です。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、[109 ページの「showsc」](#) を参照してください。

関連情報

- [122 ページの「シリアル管理ポート変数」](#)
- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

ser_stopbits

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のストップビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、`1` です。

`sc>` プロンプトで、次のコマンドを使用します。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、[109 ページの「showsc」](#) を参照してください。

関連情報

- [122 ページ](#)の「シリアル管理ポート変数」
- [121 ページ](#)の「ALOM CMT 構成変数の概要」
- [109 ページ](#)の「showsc」

sys_autorestart

この変数を使用すると、ALOM が Solaris ウォッチドッグタイマーの有効期限をどのように処理するかを指定できます。有効な値は、none、reset、および dumpcore で、デフォルト値は reset です。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定します。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
```

```
What action should the SC invoke if the OS is hung. The available options are 'none', 'dumpcore' or 'reset' where a dumpcore will attempt to force an OS Core Dump Panic [reset]? reset
```

注 – デフォルトのオプション (reset) は、Solaris ウォッチドッグタイマーをサポートしています。

sys_autorunonerror

この変数を使用すると、システム診断によるエラーの検出後、ホストが起動を続行するかどうかを指定できます。デフォルト値は、false です。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、最初の質問に対する回答として **y** を入力してから、2 つめの質問で指定される値を設定します。これに対しては、起動の継続を有効にする場合は **y**、無効にする場合は **n** と回答できます。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y  
[...]  
Should the host continue to boot after error is encountered [n]?
```

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、[109 ページ](#)の「showsc」を参照してください。

sys_eventlevel

この変数を使用すると、ALOM からホストサーバーに送信する ALOM イベントのレベルを指定できます。次の 4 レベルのイベントがあります。

- 0 (なし) – イベントを送信しない
- 1 (クリティカル) – クリティカルイベントのみ
- 2 (メジャー) – クリティカルイベントおよびメジャーイベント
- 3 (マイナー) – クリティカルイベント、メジャーイベント、およびマイナーイベント

この変数のデフォルト値は、2 (メジャー) です。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。

sys_enetaddr

この変数は、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバーの MAC アドレスから読み取られて識別され、ALOM CMT に変数として格納されます。

`sys_enetaddr` は、`net0` ポートの MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、`sys_enetaddr` から増分されます。たとえば、`net1` は `sys_enetaddr+1` です。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、[109 ページの「showsc」](#)を参照してください。

関連情報

- [121 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」](#)
- [109 ページの「showsc」](#)

付録 A

障害追跡

この付録では、ALOM CMT で発生する可能性のあるもっとも一般的な問題、ALOM CMT に表示されるシェルエラーメッセージ、および障害追跡の提案について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- [160 ページの「ALOM CMT の問題の障害追跡」](#)
- [161 ページの「ALOM CMT を使用したサーバーの問題の障害追跡」](#)
- [162 ページの「ALOM CMT シェルエラーメッセージ」](#)
- [168 ページの「ALOM CMT パスワードの復元」](#)

ALOM CMT の問題の障害追跡

表 A-1 に、一般的な ALOM CMT の問題とその解決方法のリストを示します。

表 A-1 ALOM CMT の診断

問題	説明
ALOM CMT にログインできない	<p>次の処理を実行して、ALOM CMT のログインの問題を障害追跡します。</p> <ul style="list-style-type: none">• bert-sc など、接続している ALOM CMT デバイス名を確認します。対応するサーバーの ALOM CMT 名が正しいかどうかを確認します。• 正しい ALOM CMT ユーザー名を使用しているかどうかを確認します。ALOM CMT ユーザー名は、システムユーザー名と異なる場合があります。• 正しい ALOM CMT パスワードを使用しているかどうかを確認します。
telnet または ssh コマンドを使用して ALOM CMT に接続できない	<p>ALOM CMT は、サーバーごとに合計 8 つの Telnet または SSH セッションをサポートしています。最大数の Telnet または SSH セッションがアクティブな場合は、telnet または ssh コマンドを使用してさらに接続を試行すると、connection closed エラーが表示されます。UNIX オペレーティング環境のシステムメッセージの例を次に示します。</p> <pre>% ssh 129.148.49.120 Trying 129.148.49.120... ssh_exchange_identification: Connection closed by remote host</pre>
Ethernet 接続を使用して ALOM CMT に接続できない	<p>まず、ALOM CMT が動作しているかどうか、Ethernet 構成に問題がないかどうかを確認します。また、次の処理を実行して、Ethernet の問題の障害追跡を行うこともできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• シリアル管理ポート (SER MGT) を使用して ALOM CMT にログインし、shownetwork コマンドを使用して現在の設定を確認します。詳細は、107 ページの「shownetwork」を参照してください。• ネットワーク上の別のマシンにログインし、ping コマンドを使用して ALOM CMT が動作しているかどうかを確認します。ping コマンドの引数には、ホストサーバーの名前ではなく、ALOM CMT デバイス名 (servername-sc など) を使用してください。• resetsc コマンドを使用して ALOM CMT VxDiags を実行します。SER MGT 接続での出力を監視します。ALOM CMT はリセットが実行されるたびに Ethernet ハードウェアを自動的にテストし、結果をシリアル管理 (SER MGT) ポートに出力します。

表 A-1 ALOM CMT の診断 (続き)

問題	説明
ALOM CMT から警告を受信しない	ALOM CMT コマンドシェルの <code>sc_clieventlevel</code> 変数および電子メールによる警告の <code>mgt_mailalert</code> 変数の設定を確認し、指定した場所で適切なレベルのイベントを受信しているかどうかを確認します。 <code>if_emailalerts</code> が <code>true</code> に設定されており、 <code>mgt_mailhost</code> が電子メールによる警告用に正しく設定されているかどうかを確認します。詳細は、147 ページの「 <code>sc_clieventlevel</code> 」および 135 ページの「 <code>mgt_mailalert</code> 」を参照してください。
ALOM CMT パスワードが不明である	ユーザーが ALOM CMT パスワードを忘れた場合またはパスワードが機能しない場合は、パスワードを再作成します。 <code>userpassword</code> コマンドを使用します。116 ページの「 <code>userpassword</code> 」を参照してください。ユーザーパスワードがすべて不明な場合は、168 ページの「ALOM CMT パスワードの復元」を参照してください。
一部の ALOM CMT 機能は実行できるが、その他の機能が実行できない	機能を実行するには、特定のユーザーアクセス権が必要です。付与されているアクセス権レベルを確認します。詳細は、117 ページの「 <code>userperm</code> 」を参照してください。また、次の問題がある場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> • コンソールログが表示されない、または ALOM CMT を使用してサーバーのコンソールにアクセスできない。 • サーバーをデバッグモードにできない、または ALOM CMT の <code>break</code> コマンドを使用できない。サーバーの仮想キースイッチの状態が <code>locked</code> になっています。 • <code>poweroff</code> コマンドが機能しない。サーバーの電源はすでに切断されています。 • <code>poweron</code> コマンドが機能しない。サーバーの電源がすでに入っているか、仮想キースイッチがスタンバイ状態になっています。

ALOM CMT を使用したサーバーの問題の障害追跡

ALOM CMT は、応答していないサーバーの障害追跡を行う場合に役立ちます。サーバーが応答する場合は、そのサーバーに接続し、Sun Management Center、Sun VTS ソフトウェア、OpenBoot ファームウェアなどの標準の障害追跡ツールを使用します。

サーバーが応答しない場合は、ALOM CMT アカウントにログインし、次の手順を実行します。

- ALOM CMT イベントログおよびサーバーの環境状態に問題がないか確認します。詳細は、[97 ページの「showfaults」](#)、[104 ページの「showlogs」](#)、および [91 ページの「showenvironment」](#) を参照してください。
- 最新のエラーメッセージのコンソールログを確認します。詳細は、[61 ページの「consolehistory」](#) を参照してください。
- システムコンソールに接続して、システムを再起動します。詳細は、[59 ページの「console」](#) を参照してください。

システムコンソールの書き込みロック

複数のユーザーが ALOM CMT からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込み権は一度に 1 人のユーザーのみが持ちます。つまり、システムコンソールにコマンドを入力できるのは 1 人のユーザーのみです。ほかのユーザーが入力した文字は、すべて無視されます。これは「書き込みロック」と呼ばれており、その他のユーザーセッションは「読み取り専用モード」となります。その他のユーザーが現在システムコンソールにログインしていない場合は、console コマンドを実行することによって、書き込みロックを自動的に取得します。書き込みロックを持っているユーザーを確認するには、showusers コマンドを使用します。詳細は、[112 ページの「showusers」](#) を参照してください。

ALOM CMT は、システムコンソールのフローレートを制御して、書き込みロックを保持しているユーザーセッションのフローレートに一致させます。これによって、書き込みロックを保持するユーザーセッションでデータが損失されないことが保証されます。ただし、この処理によって、読み取り専用のコンソールアクセス権を持つユーザーセッションのデータが失われる可能性があります。たとえば、書き込みロックを持つユーザーセッションが高速の NET MGT ポートを介して接続されており、読み取り側のセッションが低速の SER MGT ポートを介して接続されている場合、読み取り側のセッションの容量を超過する速度でコンソールの出力が生成される可能性があります。このようなコンソールデータの損失の可能性を低減するため、コンソールの各読み取り側セッションには 65535 文字のバッファ領域が割り当てられます。

ALOM CMT シェルエラーメッセージ

この節では、ALOM CMT コマンドシェルを使用するときに表示される可能性のある特定のタイプのエラーメッセージについて説明します。

- [163 ページの「使用方法に関するエラー」](#)
- [164 ページの「一般的なエラー」](#)
- [166 ページの「FRU 状態に関する CLI メッセージ」](#)

これらのメッセージは、`sc>` プロンプトで入力したコマンドに対する応答として表示されます。

使用方法に関するエラー

次の表では、不適切なコマンド構文を使用してコマンドを入力した場合に表示される使用方法に関するエラーメッセージについて説明します。正しい構文については、コマンドの説明を参照してください。

表 A-2 使用方法に関するエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: Invalid command option. Type help to list commands.	Help.	69 ページの「help」
Error: Invalid command options Usage: <i>usage string</i>	シェルコマンドは正しく入力されましたが、そのコマンドのオプションに誤りがあります。 <i>usage string</i> は、コマンドオプションの正しい構文を示します。コマンドオプションを確認し、コマンドを再入力してください。	
Error: Invalid configuration parameter.	<code>setsc</code> または <code>showsc</code> コマンドに、存在しない構成変数が指定されました。構成テーブルで構成変数およびその値を確認し、コマンドを再入力してください。	86 ページの「setsc」、109 ページの「showsc」、19 ページの「構成ワークシート」
Error: Invalid image. Please check file integrity and specified path.	<code>flashupdate</code> コマンドの実行時にエラーが発生しました。ダウンロードするファームウェアイメージの正しいパスが指定されていることを確認してください。パスが正しい場合は、サーバーの管理者にイメージの保存場所を確認してください。	
Error: Invalid setting for parameter <i>param</i> .	<i>param</i> で指定した構成変数に誤った値を指定しました。使用する構成変数を確認し、コマンドを再入力します。	19 ページの「構成ワークシート」
Error: Unable to program flash SC because keyswitch is in LOCKED position.	ホストサーバーの仮想キースイッチがロック位置に設定されています。キースイッチを標準位置に設定したあと、再度 <code>flashupdate</code> コマンドを実行してください。	
Error: Unable to set clock while managed system is running.	ホストサーバーの動作中に <code>ALOM CMT</code> の日付および時刻を設定しようとしてしました。 <code>ALOM CMT</code> の日付および時刻を設定する必要がある場合は、最初にシステムの電源が切断されていることを確認してください。	

一般的なエラー

ALOM CMT では、次の一般的なエラーが報告されます。

表 A-3 一般的なエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error adding user <i>username</i>	useradd コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	114 ページの「useradd」
Error: Cannot delete admin user	ALOM CMT から admin ユーザーアカウントを削除しようとした。ALOM CMT ではこのアカウントを削除できません。	
Error changing password for <i>username</i>	userpassword コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	116 ページの「userpassword」
Error: Inconsistent passwords entered.	userpassword コマンドの実行時に入力した 2 回目のパスワードが最初のプロンプトで入力したパスワードと異なります。再度コマンドを実行してください。	116 ページの「userpassword」
Error: invalid password entered. Password must be 6-8 characters, differ from the previous by at least 3 characters and contain at least two alphabetic characters and at least one numeric or special character.	無効なパスワードを入力しました。パスワードの制限を参照し、再度パスワードを入力してください。	116 ページの「userpassword」
Error: invalid username string. Please re-enter username or type 'usershow' to see a list of existing users.	ユーザーアカウントのリストに存在しない ALOM CMT ユーザーアカウントを指定しました。有効なユーザーアカウントのリストを確認するには、usershow コマンドを使用してください。	119 ページの「usershow」
Error displaying user <i>username</i>	usershow コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	119 ページの「usershow」

表 A-3 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: Invalid IP address for gateway address <i>netsc_ipgateway</i> and IP netmask <i>netsc_ipnetmask</i> .	入力した <i>netsc_ipaddr</i> 変数の値が <i>netsc_ipgateway</i> および <i>netsc_ipnetmask</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <i>setupsc</i> または <i>setsc</i> を実行してください。	142 ページの「 <i>netsc_ipaddr</i> 」、143 ページの「 <i>netsc_ipgateway</i> 」、87 ページの「 <i>setupsc</i> 」、または 86 ページの「 <i>setsc</i> 」
Error: Invalid IP netmask for IP address <i>netsc_ipaddr</i> and IP gateway <i>netsc_ipgateway</i> .	入力した <i>netsc_ipnetmask</i> 変数の値が <i>netsc_ipgateway</i> および <i>netsc_ipaddr</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <i>setupsc</i> または <i>setsc</i> を実行してください。	143 ページの「 <i>netsc_ipgateway</i> 」、145 ページの「 <i>netsc_ipnetmask</i> 」、87 ページの「 <i>setupsc</i> 」、または 86 ページの「 <i>setsc</i> 」
Error: Invalid IP gateway for IP address <i>netsc_ipaddr</i> and IP netmask <i>netsc_ipnetmask</i> .	入力した <i>netsc_ipgateway</i> 変数の値が <i>netsc_ipnetmask</i> および <i>netsc_ipaddr</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <i>setupsc</i> または <i>setsc</i> を実行してください。	143 ページの「 <i>netsc_ipgateway</i> 」、145 ページの「 <i>netsc_ipnetmask</i> 」、142 ページの「 <i>netsc_ipaddr</i> 」、87 ページの「 <i>setupsc</i> 」、または 86 ページの「 <i>setsc</i> 」
Error setting permission for <i>username</i>	<i>userperm</i> コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	117 ページの「 <i>userperm</i> 」を参照
Error: Invalid username string. Please re-enter a username of no more than 16 bytes consisting of characters from the set of alphabetic characters, numeric characters, period (.), underscore (_), and hyphen (-). The first character should be alphabetic and the field should contain at least one lower case alphabetic character.	無効なユーザー名を入力しました。ユーザー名の正しい構文を確認し、再度入力してください。	114 ページの「 <i>useradd</i> 」
Error: Unable to execute break because keyswitch is in LOCKED position.	キースイッチの状態を変更し、再度 <i>break</i> コマンドを入力してください。	55 ページの「 <i>break</i> 」

表 A-3 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Failed to get password for <i>username</i>	userpassword コマンドの実行中に SEEPROM エラーが発生しました。再度コマンドを実行してください。	116 ページの「userpassword」
Failed to set <i>variable</i> to <i>value</i>	setsc コマンドの実行中に、ALOM CMT で SEEPROM エラーが発生しました。	86 ページの「setsc」
Invalid login	ログインに失敗しました。このメッセージは、ログインプロンプトに表示されます。	
Invalid password	userpassword コマンドで無効なパスワードを入力しました。	116 ページの「userpassword」
Invalid permission: <i>permission</i>	無効なユーザーアクセス権を入力しました。	117 ページの「userperm」
Error: Maximum number of users already configured.	ALOM CMT にすでに最大 16 個のアカウントが設定されている場合にユーザーアカウントを追加しようとすると、このエラーが発生します。別のアカウントを追加する前にアカウントを削除する必要があります。	115 ページの「userdel」
Passwords don't match	新しいパスワードの 2 つの入力が一致しません。再度パスワードを入力してください。	
Permission denied	適切なレベルのユーザーアクセス権を付与されていないシェルコマンドを実行しようとした。	117 ページの「userperm」
Sorry, wrong password	誤ったパスワードを入力しました。再度パスワードを入力してください。	
Error: User <i>username</i> already exists.	追加しようとしているユーザーには、このサーバー上にすでに ALOM CMT アカウントがあります。	

FRU 状態に関する CLI メッセージ

ALOM CMT によって現場交換可能ユニット (FRU) に問題が検出されると、次のエラーメッセージが表示されます。

表 A-4 FRU エラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: <i>xxx</i> is currently powered off.	<i>xxx</i> は、コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU は現在電源が切断されています。この FRU がコマンドを受け取るには、poweron コマンドを使用して電源を入れる必要があります。	75 ページの「poweron」
Error: <i>xxx</i> is currently powered on.	<i>xxx</i> は、poweron コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU にはすでに電源が入っています。	75 ページの「poweron」
Error: <i>xxx</i> is currently prepared for removal.	<i>xxx</i> は、removefru コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU はすでに電源が入っていない状態になっており、取り外す準備ができています。	76 ページの「removefru」
Error: Invalid FRU name.	オプションを指定せずに FRU コマンドを入力したか、コマンドで無効な FRU 名を指定しました。FRU 名が有効であることを確認し、再度コマンドを入力してください。	98 ページの「showfru」

関連情報

48 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

ALOM CMT パスワードの復元

セキュリティ上の理由から、この手順はシリアルポートを使用して直接システムにアクセスしている場合にのみ実行できます。この手順を実行すると、すべての ALOM CMT NVRAM 設定がリセットされます。

▼ ALOM CMT パスワードを復元する

1. システムコントローラのシリアルポートに接続します。
2. サーバーの電源を切ります。
両方の電源装置の電源コードを取り外します。電力が排出されるまで数秒間待機したあと、再度コードを差し込みます。
3. コンソールに次のテキストが表示されたら、ALOM CMT の起動中に Escape キーを押します。

```
Boot Sector FLASH CRC Test
Boot Sector FLASH CRC Test, PASSED.

Return to Boot Monitor for Handshake
```

Escape キーを押すと、次の ALOM CMT 起動エスケープメニューが表示されます。

```
ALOM <ESC> Menu

e - Erase ALOM NVRAM.
m - Run POST Menu.
R - Reset ALOM.
r - Return to bootmon.
Your selection:
```

4. e を入力して、ALOM CMT NVRAM を消去します。

```
Your selection: e
ALOM NVRAM erased.

ALOM <ESC> Menu

e - Erase ALOM NVRAM.
m - Run POST Menu.
R - Reset ALOM.
r - Return to bootmon.
Your selection:
```

5. r を入力して、ALOM CMT 起動処理に戻ります。

```
Your selection: r

ALOM POST 1.0
  Status = 00007fff
```

ALOM CMT が起動し、すべての NVRAM 設定がリセットされます。パスワードおよびアクセス権なしで、ユーザー admin として自動的にログオンします。すべての ALOM CMT NVRAM 設定は、出荷時のデフォルト値にリセットされます。

ALOM CMT イベントメッセージ

この付録では、イベントメッセージについて説明します。この付録は、次の節で構成されています。

- [171 ページの「イベントメッセージの概要」](#)
- [172 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [173 ページの「イベントメッセージ」](#)

イベントメッセージの概要

ALOM CMT は、次の複数の宛先にイベントメッセージを送信します。

- メッセージは、`sc_clieventlevel` 変数の設定に基づいて、ログインしているすべてのユーザーに送信されます。詳細は、[147 ページの「sc_clieventlevel」](#)を参照してください。
- メッセージは、ALOM CMT ログに記録されます。記録されたメッセージは、ALOM CMT の `showlogs` コマンドを使用して参照します。詳細は、[104 ページの「showlogs」](#)を参照してください。
- イベントの重要度がメジャーまたはクリティカルである場合、メッセージは ALOM CMT 持続ログに記録されます。持続ログ内のメッセージは、ALOM CMT の `showlogs -p p` コマンドを使用して参照します。詳細は、[104 ページの「showlogs」](#)を参照してください。
- メッセージは、`mgt_mailalert` 変数の設定に基づいて、電子メールメッセージに送信されます。個々の電子メールアドレスは、さまざまな重要度のメッセージを受信するように構成できます。詳細は、[135 ページの「mgt_mailalert」](#)を参照してください。
- イベントが障害を示している場合は、ALOM CMT の `showfaults` コマンドの出力にそのイベントメッセージが表示されます。たとえば、`FAN at FT0/FM0 has failed` などが表示されます。詳細は、[97 ページの「showfaults」](#)を参照してください。

- メッセージは、`sys_eventlevel` 変数の設定に基づいて、管理対象システムのオペレーティングシステムに送信され、Solaris の `syslog` 機能に記録されます。すべてのバージョンの Solaris オペレーティングシステムで、この機能がサポートされるとはかぎりません。詳細は、[157 ページの「sys_eventlevel」](#) を参照してください。

イベントの重要度レベル

各イベントには、重要度レベルと対応する数値が割り当てられています。これらのレベルと数値は、次のとおりです。

- クリティカル (1)
- メジャー (2)
- マイナー (3)

ALOM CMT の構成パラメータは、重要度レベルを使用して、表示するイベントメッセージを判断します。`sc_clieventlevel` および `mgt_mailalert` で重要度レベルの数値を使用する方法の詳細は、[147 ページの「sc_clieventlevel」](#) および [135 ページの「mgt_mailalert」](#) を参照してください。

イベントメッセージ

起動イベントメッセージ

表 B-1 に、システムコントローラの起動イベントメッセージを示します。

表 B-1 システムコントローラの起動イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC System booted.	ALOM CMT は、SC が起動するたびにこのメッセージを送信します。このイベントは、通常イベントです。
クリティカル	Preceding SC reset due to watchdog.	内部の SC ウォッチドッグによって自身がリセットされたことを SC が検出すると、ALOM CMT は SC の起動時にこのメッセージを送信します。問題が続く場合、このメッセージは SC ハードウェアに問題があることを示している可能性があります。
クリティカル	Host flash image invalid, flashupdate required.	flashupdate コマンドの実行中に SC が再起動すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントは、ホストのフラッシュが無効な状態で、flashupdate コマンドを使用してホストのフラッシュを再プログラムする必要があることを示しています。この障害が続く間は、システムの電源を入れることができません。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイナー	DHCP network configuration initiated.	ALOM CMT パラメータ if_dhcp が true に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、ALOM CMT が DHCP ネゴシエーションを開始したことを示しています。

表 B-1 システムコントローラの起動イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	DHCP configuration complete (from server <i>IP_address</i>).	DHCP ネゴシエーションが完了すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>IP_address</i> は、リース情報を提供した DHCP サーバーの IP アドレスです。
メジャー	No SC IP gateway has been assigned by the DHCP server	DHCP が使用されているが、DHCP サーバーが DHCP リースで IP ゲートウェイ構造を提供しなかった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。RFC 1533 に詳細に記述されているように、この情報は、通常はタグ 3、DHCP_ROUTER_TAG で提供されます。
メジャー	DHCP lease lost.	DHCP が使用されており、DHCP リースが失われた場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントは、SC がネットワーク上に存在しなくなったことを示しています。ALOM CMT は、DHCP リースの取得を定期的に再試行します。
メジャー	Invalid SC IP gateway address for the specified SC IP address and mask.	手動の IP アドレスおよびゲートウェイを使用して、ユーザーが無効なゲートウェイアドレスを指定した場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。IP ゲートウェイは、指定された IP アドレスおよび IP ネットマスクに基づいて、ローカルサブネット上の到達可能な場所に存在する必要があります。

SCC PROM イベントメッセージ

表 B-2 に、システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージを示します。

表 B-2 システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SCC data cannot be accessed.	ALOM CMT は、起動時にこのメッセージを送信します。このメッセージは、SCC PROM にアクセスできないことを示します。SCC PROM または SC ハードウェアに問題があります。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	SCC is not valid.	起動時、または ALOM CMT の実行中に SCC が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、SCC PROM が無効で、交換する必要があることを示しています。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	Replace SCC to avert managed system shutdown in 60 seconds.	ホストの電源が入っているときに SCC PROM が取り外された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SCC PROM はカバーを開いた状態でのみ取り外すことができますが、カバーを開くと管理対象システムの電源は自動的に切断されるため、通常、このイベントが発生する可能性はありません。このメッセージは、SCC PROM または SC ハードウェアに問題があることを示しています。
クリティカル	Correct SCC not replaced - shutting managed system down.	割り当てられた 60 秒の間に SCC PROM が交換されなかった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントのあとで、システムの電源が切断されます。
メジャー	SCC has been inserted.	SCC PROM が挿入されたときに、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。

表 B-2 システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Correct SCC replaced - managed system shutdown cancelled.	60 秒の停止間隔の間に SCC PROM が交換された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	Correct SCC not replaced - managed system shutdown continuing.	管理対象システムの停止中に、別の SCC PROM が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	Different SCC detected. SC will reset itself momentarily.	別の SCC PROM が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は自身をリセットして、交換した SCC PROM の内容に基づき、構成パラメータおよびネットワークパラメータを再初期化する必要があります。
クリティカル	SCC platform data is not valid, will be replaced by SC nvram data.	SCC PROM に無効な内容が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SCC PROM の内容は、データの破壊を検出するために、チェックサムによって保護されています。データが破損している場合、SCC PROM データは消去され、SC NVRAM データで置換されます。

表 B-2 システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SCC NVRAM data updated to new version while preserving data.	新しい SC ファームウェアの NVRAM データが、NVRAM ハードウェアに現在格納されているデータより新しいバージョンである場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、データ形式が更新されていることを示します。既存データは、保持されるはずですが、このメッセージが表示されたあとで、ユーザーは showsc コマンドの出力を参照して、構成パラメータが有効な状態のまま、正しく設定されていることを必ず確認してください。新しいファームウェアイメージには、新しい構成パラメータが追加されるか、以前存在していたパラメータが削除されている場合があります。詳細は、ファームウェアイメージのリリースノートを参照してください。

システムコントローラの使用状況イベントメッセージ

表 B-3 に、システムコントローラの使用状況イベントメッセージを示します。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
メジャー	SC Request to Power Off Host.	ユーザーが poweroff コマンドを入力した場合などで、SC がホストの電源切断を要求すると常に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Request to Power Off Host Immediately.	ユーザーが poweroff -f コマンドを入力した場合などで、SC がホストの即時電源切断を要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host system has shut down.	ホストの電源が切断されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。また、ホストが自身をリセットした場合にも、通常、このイベントが送信されます。
マイナー	SC Request to Power On Host.	sc_powerstatememory か、ユーザーによる poweron コマンドの入力のいずれかにより、SC がホストの電源投入を要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Request to Reset Host.	ユーザーによる reset コマンドの入力などで、SC がホストのリセットを要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host System has Reset.	ホストがリセットされたことを SC が検出すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これらのシステムでは、リセットが powercycle として実装されているため、このメッセージの直後に Host system has shut down イベントメッセージが続きます。
メジャー	SC Request to send Break to host.	ユーザーが break コマンドを入力した場合などで、SC がホストに切断要求を送信すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
マイナー	SC date/time has been set to <i>date_and_time</i> .	SC の日付または時刻を変更するために、ユーザーが setdate コマンドを入力すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC firmware was reloaded.	flashupdate コマンドの処理を行なったあとに SC ファームウェアが再読み込みされると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
マイナー	SC set bootmode to normal.	ユーザーが bootmode コマンドを使用して、起動モードを normal に変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイナー	SC set bootmode to reset_nvram, will expire <i>date_and_time</i> .	ユーザーが bootmode コマンドを使用して起動モードを reset_nvram に変更すると、ALOM CMT はこのコマンドを送信します。 <i>date_and_time</i> は、bootmode の設定が期限切れになる日付と時刻で、コマンドが実行された時刻から 10 分後です。
マイナー	SC set bootscript to <i>bootscript</i> .	ユーザーが bootmode の bootscript を変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>bootscript</i> は、ユーザーが指定した起動スクリプトのテキストです。
マイナー	Host System has read and cleared bootmode.	ホストが起動し、bootmode および bootscript が読み込まれると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントのあとで、bootmode および bootscript は normal にリセットされます。
マイナー	Keyswitch position has been changed to <i>keyswitch_position</i> .	ユーザーが setkeyswitch コマンドを使用してキースイッチの位置を変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>keyswitch_position</i> は新しいキースイッチの位置です。
マイナー	Indicator <i>indicator_name</i> is now <i>indicator_state</i> .	LED などのインジケータの状態が変更されるたびに、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>indicator_name</i> はインジケータの名前で、 <i>indicator_state</i> はインジケータの新しい状態です。通常、このメッセージは、ホストからの電源投入または電源切断イベント、障害イベント、ディスク取り外し可能イベントなど、プラットフォームイベントに対応していません。プラットフォームのインジケータとその状態に関する詳細は、使用しているプラットフォームの管理マニュアルを参照してください。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Failed to send email alert for recent event.	if_emailalerts パラメータが true に設定されているが、電子メールによる警告が送信できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を解決するには、mgt_mailhost と mgt_mailalert の設定、および使用しているネットワークのメールサーバーの状態を確認してください。
メジャー	Failed to send email alert to the primary mailserver.	if_emailalerts パラメータが true に設定されているが、電子メールによる警告が送信できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を解決するには、mgt_mailhost と mgt_mailalert の設定、および使用しているネットワークのメールサーバーの状態を確認してください。
メジャー	Email alerts will not be sent while network is disabled.	if_emailalerts が true に設定されているが、if_network が false に設定されている場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を修正するには、電子メールによる警告を使用不可にするか、または SC ネットワークを使用可能にします。
マイナー	SC Login: User <i>username</i> Logged on.	ユーザーがログインすると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> はログインしたユーザーの名前です。
マイナー	SC Login: User <i>username</i> Logged out.	ユーザーがログアウトすると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> はログアウトしたユーザーの名前です。
メジャー	SC Login Failure for user <i>username</i> .	あるユーザー名が 5 分間に 5 回ログインに失敗すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> は、ログインの試みが失敗したユーザーの名前です。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	SC Request to Dump core host.	ALOM CMT ユーザーが、break -D コマンドを入力して、ホストにコアダンプ要求を送信すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Host Watchdog Reset Disabled.	ユーザーが sys_autorestart 変数を none に設定すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host Watchdog timeout.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が none に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC が、修正措置を実行することはありません。
クリティカル	SC Request to Dump core Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が dumpcore に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は、エラーの状態情報を取得するために、ホストのコアダンプの実行を試みます。すべてのバージョンの OS で、コアダンプ機能がサポートされるとはかぎりません。
クリティカル	SC Request to Reset Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が reset に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。その後、SC はホストのリセットを試みます。

環境監視イベントメッセージ

表 B-4 に、システムコントローラの環境監視イベントメッセージを示します。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC can't determine platform type.	SC がプラットフォームハードウェアのプロパティを判断できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は縮退モードになり、多くの操作が抑制されます。このメッセージは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアに問題があることを示しています。
マイナー	SC Environment Poller: Cannot open i2c device.	I ² C インタフェースを開くことができない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。環境監視が使用できなくなります。このメッセージは、SC ハードウェアに問題があることを示しています。このイベントは、SC can't determine platform type など、その他のイベントに伴って発生します。
メジャー	Required <i>device_type</i> at <i>location</i> is not present.	ハードウェア監視の必須要素が存在しない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これは、プラットフォームハードウェアに問題があることを示しています。 <i>device_type</i> はデバイスのタイプ (センサー、インジケータなど) で、 <i>location</i> はデバイスの場所と名前を示します。デバイスの場所は、そのデバイスが取り付けられている FRU を示します。通常、このメッセージは FRU に問題があることを示します。複数の FRU が表示された場合は、 <i>location</i> は、個々の FRU ではなく SC ハードウェアに問題があることを示している可能性があります。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Chassis cover removed.	シャーシカバーが取り外されている場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。プラットフォームハードウェアは、予防措置として、管理対象システムの電源をただちに切ります。シャーシカバーが取り外されている間、poweron コマンドが使用されないように、このメッセージと同時に、イベントメッセージ System poweron is disabled が発生するはずです。
クリティカル	System poweron is disabled.	ユーザーの poweron コマンド、またはフロントパネルの電源ボタンのいずれかによるシステムの電源投入を SC が拒否すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。メッセージ Chassis cover removed で示されるイベントなど、これと同時に発生するイベントによって、SC の電源投入が使用不可になります。そのほかに、デバイス障害またはファンの冷却の不足などが考えられます。
マイナー	System poweron is enabled.	前述の System poweron is disabled メッセージによって示される、電源投入が使用不可になったことの原因である状況が修正されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。たとえば、シャーシカバーを取り付け直した場合、またはシステムの冷却に必要な十分なファンを取り付けた場合などです。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	<p><i>Device</i> at <i>location</i> has FAILED. <i>Device</i> at <i>location</i> has FAULTED.</p>	<p>故障または障害が検出されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。障害は優先順位が低い方の状態で、システムが縮退モードで動作していることを示しています。故障は優先順位が高い方の状態で、FRU に障害が発生し、交換する必要があることを示しています。<i>Device</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、SYS_FAN、PSU、CURRENT_SENSOR、DOC、FPGA などです。<i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM CMT の showenvironment コマンドの出力と一致します。</p> <p>この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。</p>
マイナー	<p>Device at <i>location</i> is OK.</p>	<p>以前の障害または故障が回復または修復されたことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。フィールドの <i>Device</i> および <i>location</i> は、障害または故障に関する以前のイベントで示された値と同じです。</p>

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	<p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low warning threshold.</p> <p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low soft shutdown threshold.</p> <p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low hard shutdown threshold.</p> <p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high warning threshold.</p> <p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high soft shutdown threshold.</p> <p><i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high hard shutdown threshold.</p>	<p>アナログ測定センサーが指定されたしきい値を超えた場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。メッセージには、超過したしきい値の種類が含まれています。<i>Device_type</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、VOLTAGE_SENSOR、TEMP_SENSOR などです。<i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM CMT の showenvironment コマンドの出力と一致します。</p> <p>TEMP_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、室内の温度、サーバーに出入りする通気の遮断など、サーバーの外側で問題が発生していることを示します。</p> <p>VOLTAGE_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、プラットフォームハードウェア、または場合によっては取り付けられているアドオンカードで問題が発生していることを示します。</p> <p>これらの障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。</p>
マイナー	<p><i>Device_type</i> at <i>location</i> is within normal range.</p>	<p>アナログ測定センサーが警告または障害しきい値を超えなくなった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、センサーの読み取り値が故障パラメータの境界範囲内まで十分に回復した場合に送信されます。このメッセージは、ALOM CMT の showenvironment コマンドの現在の出力と一致しない場合があります。</p>
クリティカル	<p>SC initiating soft host system shutdown due to fault at <i>location</i>.</p> <p>SC initiating hard host system shutdown due to fault at <i>location</i>.</p>	<p>障害が原因で SC がシステムの停止を開始した場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。<i>location</i> は、停止の原因となった障害が発生したデバイスの場所と名前です。</p>

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC initiating soft host system shutdown due to insufficient fan cooling.	システムの冷却の維持に必要なファンが十分に動作していないために、SC が停止を開始したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。システムの冷却を維持するために必要なファンの数は、プラットフォームによって異なります。詳細は、使用しているプラットフォームのマニュアルを参照してください。
クリティカル	Host Power Failure: MB_DC_POK Fault.	電源コンバータまたは電源 OK センサーで問題が発生したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題が発生すると、システムは電源が入った状態を続けることはできません。このメッセージは、プラットフォームハードウェアに問題があることを示しています。SC は、システムの電源を再投入して、障害からの回復を試みます。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	Power cycling Host System. Please wait.	電源 OK センサーの障害のあとで、SC がプラットフォームの電源の再投入を実行していることを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host Power: MB_DC_POK is OK.	以前の電源 OK センサーの障害からシステムが回復したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。故障がふたたび発生した場合は、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題が発生あることを示している可能性があります。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Host system power on failed due to fault at <i>sensor</i> .	SC がシステムの電源を入れることができないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>sensor</i> は MB/FF_POK などのデバイスです。この障害は、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
クリティカル	Host system failed to power off.	SC がシステムの電源を切ることができないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。プラットフォームハードウェアの損傷を防ぐため、システムのプラグを手で外してください。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	<i>FRU_type</i> at <i>location</i> has been removed. <i>FRU_type</i> at <i>location</i> has been inserted.	FRU の取り外しまたは挿入を示す場合に、ALOM CMT はこれらのメッセージを送信します。フィールド <i>FRU_type</i> は、SYS_FAN、PSU、HDD などの FRU のタイプを示します。フィールド <i>location</i> は、showenvironment コマンドの出力に表示されるものと同じ、FRU の場所と名前を示します。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Input power unavailable for PSU at <i>location</i> .	電源装置に入力電力が供給されていないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、通常、電源装置が AC 電源に接続されていないことを示しています。電源コードが電力が供給されているコンセントに接続されている場合、このメッセージは電源装置自体に問題があることを示しています。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。

ホスト監視イベントメッセージ

表 B-5 に、システムコントローラのホスト監視イベントメッセージを示します。

表 B-5 ホスト監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	<i>Component</i> deemed faulty and disabled.	POST での障害の検出によって自動的にコンポーネントが使用不可になった場合、またはユーザーの <code>disablecomponent</code> コマンドの入力によってコンポーネントが使用不可になった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>Component</i> は使用不可になったコンポーネントで、プラットフォームの <code>showcomponent</code> コマンドで表示されます。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
クリティカル	<i>Component</i> reenabled.	コンポーネントが使用可能になると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。コンポーネントは、ユーザーが <code>enablecomponent</code> コマンドを入力した場合や、コンポーネント自体が DIMM などの FRU で、その FRU が交換された場合に使用可能になります。 <i>Component</i> は、プラットフォーム <code>showcomponent</code> コマンドの出力に表示される、コンポーネントの名前です。
メジャー	Host detected fault, MSGID: <i>SUNW-MSG-ID</i> .	Solaris PSH ソフトウェアが障害を診断する場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。障害の <i>SUNW-MSG-ID</i> は ASCII 識別子で、 <code>http://www.sun.com/msg</code> でこれを入力すると、障害の性質と修復手順の詳細を確認することができます。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。

表 B-5 ホスト監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Dropping ereports, message queue is full.	発生元で無効にすることができない膨大なハードウェアエラーをハードウェアが検出したことを示す場合に、ALOM CMTはこのメッセージを送信します。このメッセージは、過度のイベントを格納できるだけの十分なメモリー領域がないために、いくつかのエラーが失われたことを示します。
メジャー	<i>Location</i> has been replaced; faults cleared.	ホストで検出された障害を含むFRUを交換したあとで、ALOM CMTはこのメッセージを送信します。 <i>Location</i> は、交換されたFRUの場所と名前です。SCの起動時、またはFRUを交換してシャーシカバーを閉じたあとに、このイベントを受信する可能性があります。
メジャー	Existing faults detected in FRU_PROM at <i>location</i> .	新しいFRUで、そのFRU PROMに以前の障害が記録されていることをSCが検出したことを示す場合に、ALOM CMTはこのメッセージを送信します。FRUまたはSCカードのいずれかを、あるシステムから別のシステムに移動させた場合に、このイベントが発生する可能性があります。 <i>location</i> は、MB/SEEPROMなど、交換したFRUのSEEPROMの名前です。 最新の既存の障害は、FRU PROMからshowfaultsリストにインポートされません。showfaultsリストの項目は、インポートされた障害で、このメッセージではありません。

索引

A

ALOM (Advanced Lights Out Management) CMT

- エラーメッセージ, 162 ~ 166
- コマンドシェル, 47
- コマンドのリスト, 48
- ソフトウェア, 3

ALOM CMT コマンド

- bootmode, 53
- break, 55
- clearasrdb, 56
- clearfault, 56
- console, 59
- consolehistory, 61
- disablecomponent, 63
- enablecomponent, 65
- flashupdate, 67
- help, 69
- logout, 71
- password, 72
- powercycle, 73
- poweroff, 73
- poweron, 75
- removefru, 76
- reset, 78
- resetsc, 79
- setdate, 81
- setdefaults, 82
- setfru, 84
- setkeyswitch, 84
- setlocator, 85
- setsc, 86
- setupsc, 87
- showcomponent, 89

- showdate, 90
- showenvironment, 91
- showfaults, 97
- showfru, 98
- showhost, 102
- showkeyswitch, 103
- showlocator, 103
- showlogs, 104
- shownetwork, 107
- showplatform, 108
- showsc, 109
- showusers, 112
- useradd, 114
- userdel, 115
- userpassword, 116
- userperm, 117
- usershow, 119

ALOM CMT コマンドの入力, 47

ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ
setupsc を使用, 87

ALOM CMT の再起動, 28

ALOM CMT ファームウェアのダウンロード, 67

B

- boot ログ, 61
- bootmode コマンド, 53
- break コマンド, 55

C

- clearasrdb コマンド, 56
- clearfault コマンド, 56

CLI (コマンド行インタフェース), 1, 47

console コマンド, 59

consolehistory コマンド, 61

D

DHCP, 16

DHCP サーバー情報、表示, 107

DHCP 変数, 141

disablecomponent コマンド, 63

E

enablecomponent コマンド, 65

Ethernet

MAC 変数, 142

アドレス変数, 157

ポート, 16

F

flashupdate コマンド, 67

FRU

PROM の状態, 98

エラーメッセージ, 166

取り外し, 76

H

help コマンド, 69

I

if_network 変数, 133

IP 変数

アドレス, 142

ゲートウェイ, 143

ネットマスク, 145

L

LED の状態, 91

logout コマンド, 71

N

NET MGT ポート, 16

netsc_enetaddr 変数, 142

netsc_ipaddr 変数, 142

netsc_ipgateway 変数, 143

netsc_ipnetmask 変数, 145

O

OpenBoot PROM コマンド, 41

OpenBoot PROM プロンプト
取得, 31

P

password コマンド, 72

powercycle コマンド, 73

poweroff コマンド, 73

poweron コマンド, 75

R

removefru コマンド, 76

reset コマンド, 78

resetsc コマンド, 79

run ログ, 61

S

sc コマンド, 47 ~ 119

sc_backupuserdata 変数, 146

sc_clieventlevel 変数, 147

sc_clipasswdecho 変数, 150

sc_cliprompt 変数, 147

sc_clitimeout 変数, 149

sc_customerinfo 変数, 150

sc_powerondelay 変数, 152

sc_powerstatememory 変数, 153

SER MGT ポート, 15

ser_baudrate 変数, 154

ser_data 変数, 154

ser_parity 変数, 155

ser_stopbits 変数, 155

setdate コマンド, 81

setdefaults コマンド, 82

setfru コマンド, 84

setkeyswitch コマンド, 84

setlocator コマンド, 85

setsc コマンド, 86
setupsc コマンド, 87
setupsc スクリプトの実行, 32
showcomponent コマンド, 89
showdate コマンド, 90
showenvironment コマンド, 91
showfaults コマンド, 97
showfru コマンド, 98
showhost コマンド, 102
showkeyswitch コマンド, 103
showlocator コマンド, 103
showlogs コマンド, 104
shownetwork コマンド, 107
showplatform コマンド, 108
showsc コマンド, 109
showusers コマンド, 112
ssh コマンド, 3, 26
sys_autorestart 変数, 156
sys_autorunonerror 変数, 156
sys_enetaddr 変数, 157

T

telnet コマンド, 3, 26
Telnet セッション、数, 47

U

useradd コマンド, 114
userdel コマンド, 115
userpassword コマンド, 116
userperm コマンド, 117
usershow コマンド, 119

あ

アイドル状態のセッション, 149
アクセス権
 admin アカウント, 26
 設定または変更, 117

い

イベント警告、ALOM シェル, 147

イベントレベル, 147

う

ウォッチドッグタイマー, 156

え

エラーメッセージリスト, 162
遠隔接続の解除, 162

お

オプション、入力, 48
温度, 91

か

書き込み権, 59
書き込みロック
 解放, 61
 コンソール, 162
数、Telnet セッション, 47
仮想キースイッチ
 位置, 84
 設定, 84
環境, 91
監視対象のコンポーネント, 2

き

起動動作の制御, 53
協定世界時 (UTC), 81
切り替え、プロンプト, 28

け

計画、構成, 14
警告
 電子メール, 135
 電子メール、構成, 22
現在のユーザー、表示, 112
現場交換可能ユニット
 「FRU」を参照

こ

構成
 ALOM, 87
 計画, 14

- 電子メールによる警告, 22
- 変数, 121, 157
- 構成設定、変更, 86
- 構成設定の更新, 86
- 顧客データ, 150
- コマンドシェル, 47 ~ 119
 - 「sc コマンド」も参照
 - エラーメッセージ, 162 ~ 167
 - 数, 47
 - 入力、オプション, 48
- コンソールへの接続, 59
- コンソールユーザー
 - 表示, 112
 - 複数, 59
- コンポーネント、監視対象, 2

さ

- サーバー
 - 停止、強制, 30, 31
 - プラットフォーム情報, 108
 - 問題, 160
 - リセット、ハード, 79
- サーバーの停止の強制, 30, 31, 78
- サーバーのリセット, 78
 - オプション, 30

し

- シェルプロンプト、変更, 147
- システム
 - 温度, 91
 - コンソール、リダイレクト, 29
 - 変数, 125
- 出荷時のデフォルト, 82
- 取得、OpenBoot PROM プロンプト, 31
- 障害追跡, 159
 - ALOM (Advanced Lights Out Management)
 - CMT、シェルエラーメッセージ, 162
 - ALOM、問題, 160
 - サーバーの問題, 161
- シリアルポート, 15
 - データビットの設定, 154
 - パリティ, 155

- 変数, 122
- ボーレートの設定, 154
- 診断, 159

す

- スクリプト、setupsc、実行, 32
- スクリプト、設定、実行, 87
- スタンバイモード、電源の供給, 73
- ストップビット、シリアルポート, 155

せ

- セッション、アイドル, 149
- セッションの終了, 71
- 接続の終了, 71
- 設定
 - OpenBoot NVRAM 変数, 53
 - ユーザーアクセス権, 117

- 設定スクリプト, 87
- 設定スクリプトの実行, 87

そ

- ソフトウェア指示, 14

た

- タイマー、ウォッチドッグ, 156

つ

- 通信ポート, 14
- 通知変数, 124

て

- 停止、強制、サーバー, 30, 31
- データビット、設定, 154
- デバイスの failed 状態、定義, 4
- デバイスの faulty 状態、定義, 4
- デフォルト、リセット, 82
- デフォルトの起動デバイス, 53
- 電圧の状態, 91
- 電源状態の記憶, 153
- 電源切断、ホストサーバー, 73
- 電源装置の状態, 91

電源投入の遅延, 152
電源の状態, 153
電子メールによる警告, 135
構成, 22

と

動的ホスト構成プロトコル, 16
取り外し、FRU, 76

ね

ネットマスク変数, 145
ネットワーク
使用可能への切り替え, 133
表示、現在の構成, 107
変数, 123

は

ハードドライブの状態, 91
ハードリセット、サーバー, 79
パスワード
エコー, 150
規則, 72, 116
すべての ALOM パスワードの復元, 168
変更, 72
変更、別, 116
バックアップ、ユーザーデータ, 146
バッファ内のメッセージ, 61
パリティ、シリアルポート, 155

ひ

日付
現在, 90
設定、日付および時刻, 81
表示
仮想キースイッチの情報, 103
現在の日付, 90
システム情報, 109
ホスト情報, 102
ユーザー, 119
ロケータ LED の状態, 103
表示、FRU の状態, 98

ふ

ファームウェア
インストール、新しいバージョン, 67
仮想キースイッチの状態, 103
バージョン, 102, 109
複数のオプション、入力, 48
プラットフォーム、表示, 108
プロンプト
切り替え, 28
指定, 147
変更, 147
プロンプトの指定, 147

へ

変更
アクセス権, 117
自分のパスワード, 72
プロンプト, 147
別のパスワード, 116
変数, 121 ~ 157
DHCP, 141
Ethernet, 142
Ethernet アドレス, 157
IP アドレス, 142
IP ゲートウェイ, 143
アイドル時間の設定, 149
システムインタフェース, 125
システムユーザー, 124
使用可能への切り替え、ネットワーク, 133
シリアルポート, 122
シリアルポートのストップビット, 155
シリアルポートのデータビットの設定, 154
シリアルポートのパリティの設定, 155
シリアルポートのボーレートの設定, 154
通知, 124
電源状態の記憶, 153
電源投入の遅延, 152
ネットマスク, 145
ネットワーク, 123
パスワードのエコー表示, 150
バックアップデータ, 146
ホスト識別子, 150

ほ

ポート

NET MGT, 16

SER MGT, 15

ボーレート、設定, 154

ホストサーバー

電源切断, 73

電源投入, 75

電源の再投入, 73

ホストサーバーの電源切断および投入, 73

ホスト識別子, 150

ゆ

ユーザー

削除, 115

追加, 114

表示, 119

ユーザーアカウントの削除, 37, 115

ユーザーアカウントの追加, 35, 114

ユーザー制限, 114

ユーザーセッション情報, 112

よ

読み取り, 61

読み取り専用モード, 59

読み取り専用ユーザー、表示, 112

り

リダイレクト、システムコンソール, 29

履歴、イベントバッファ、104

ろ

ログ, 61

ロケータ LED, 85

切り替え、オンとオフ, 85

状態, 103